

仕事と生活の調和に関する意識調査

調査結果報告書

平成 2 9 年 3 月

千 葉 市

千葉市男女共同参画センター

目 次

I. 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 回収結果	1
4. 前回調査	1
5. 報告書を読む際の注意事項	2
6. 標本誤差について	2
7. 回答者の属性	3
(1) 性別	3
(2) 年代	3
(3) 職業形態	4
(4) 仕事に従事している時間	6
(5) 結婚の有無	8
(6) 配偶者の職業形態	11
(7) 配偶者の仕事従事時間	12
(8) 家族構成	13
(9) 最年少の子どもの成長段階	14
II. 調査結果	15
1. 「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」	15
(1) 「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」という言葉の認知度	15
(2) 「仕事」、「家庭」、「自分の時間」の満足度	19
(3) 女性が働くことについて	34
2. 育児と介護	37
(1) 育児休業・介護休業の取得経験	37
(2) 男性が育児休業を取得することについて	41
(3) 男性が育児休業を取得しない・するのが難しい理由	42
(4) 将来介護をする時の不安の有無	45
(5) 介護の不安の内容	48
(6) 仕事と介護の両立に対する考え	50
(7) 仕事と介護の両立に直面した場合の課題	52
(8) 企業における仕事と介護の両立支援として重要だと思うこと	54
3. 仕事について	56
(1) 仕事に対する意欲	56
(2) 職場の現状	57
(3) 現在仕事に就いていない理由	67
(4) 今後の就労意思	69

4.	家庭生活について	70
(1)	家庭での役割分担	70
5.	仕事と生活の調和のために今後取り組むべき内容	79
(1)	各分野の男女の地位	79
(2)	性別役割分担意識について	85
(3)	ワーク・ライフ・バランスのために取り組むべき内容	87
III.	調査結果のポイント・前回調査との比較	90
1.	「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」	90
2.	育児と介護	90
3.	仕事について	91
4.	家庭生活について	91
5.	仕事と生活の調和のために今後取り組むべき内容	92
6.	今後に向けて	93
IV.	自由意見	94
V.	巻末資料	103
VI.	調査票	105

I. 調査概要

1. 調査目的

男女共同参画社会では、あらゆる場面で性別にとらわれずに各人がその個性と能力を生かし、責任と喜びを分かち合うことを目指している。しかし、仕事と家庭の両立という点においては、家事や育児などの多くを女性が担っている現実が依然としてあるため、男女の多様な生き方を実現することが妨げられている。

本調査では、仕事と生活の調和に関する市民の意識と実態を探り、男女共同参画社会実現のための施策や事業に反映させることを目的とする。

2. 調査方法

- (1) 調査区域：千葉市全域
- (2) 調査対象：千葉市内に居住している 25 歳以上 45 歳未満の 3,000 人
(男女各 1,500 人)
- (3) 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送による配布・回収方式
- (5) 調査期間：平成 28 年 8 月 30 日～平成 28 年 9 月 16 日

3. 回収結果

- (1) 配布数 : 3,000 件
- (2) 回収数 : 1,022 件
- (3) 回収率 : 34.1%
- (4) 有効回答数 : 963 件
- (5) 有効回答率 : 32.1%

4. 前回調査

報告書で結果を引用した前回調査（平成 24 年 8 月調査）は、次のとおりである。

（今回調査と調査区域、調査対象、調査方法、抽出方法、調査方法は同様である。）

- (1) 調査期間 : 平成 24 年 8 月 23 日～平成 24 年 9 月 7 日
- (2) 配布数 : 3,000 件
- (3) 有効回答数 : 916 件
- (4) 有効回答率 : 30.5%

5. 報告書を読む際の注意事項

- (1) アンケート集計は、各設問の単純集計と前回調査との比較、並びに性別、年代と各設問とのクロス集計を行った。
- (2) 調査結果の数値は原則として回答率（%）を表記し、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記する。このため、単数回答の合計が100.0%とならない場合（例：99.9%、100.1%）がある。小計についても同様に各回答の計と一致しない場合がある。また、一人の回答者が2つ以上の回答をしてもよい質問（複数回答）では、回答率が100.0%を上回ることがある。
- (3) クロス集計の場合、分析軸の該当者が50人未満の場合は標本誤差が大きく異なるため、分析の対象からは除いている。
- (4) 性別や年代別などでクロス集計を行う場合、それぞれ無回答の方がいたため、合計が全体と一致しない。
- (5) 本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、場合により語句を簡略化してある。
- (6) 本文やグラフ・数表上で次の略称を使用する。 n：回答者の数
- (7) 表については、回答割合の高い項目について以下の通り、網掛け等で表記を行う。

最も高い割合（網掛け白抜き）

0.0

2番目に高い割合（網掛け黒字）

0.0

6. 標本誤差について

今回の無作為抽出法による調査の場合は、ここで出された数値（%）をそのまま25歳以上45歳未満の全市民の回答として単純に置き換えると、多少の誤差が生じる。統計学的には、次式で標本誤差を計算して、25歳以上45歳未満の全市民の回答を推測する。（信頼度95%）

標本誤差の算定式

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数（254,853人）

n = 有効回答数（963件）

平成28年6月30日現在の25歳以上45歳未満の住民基本台帳人口
P = 回答比率

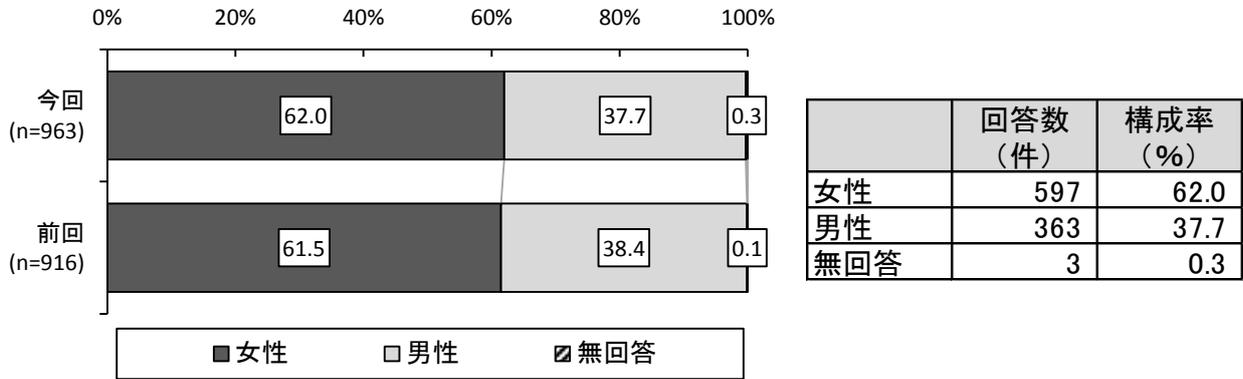
今回の意識調査(n=963)における回答比率別標本誤差

回答比率	標本誤差率
10%または90%	±1.9%
20%または80%	±2.6%
30%または70%	±2.9%
40%または60%	±3.2%
50%	±3.2%

7. 回答者の属性

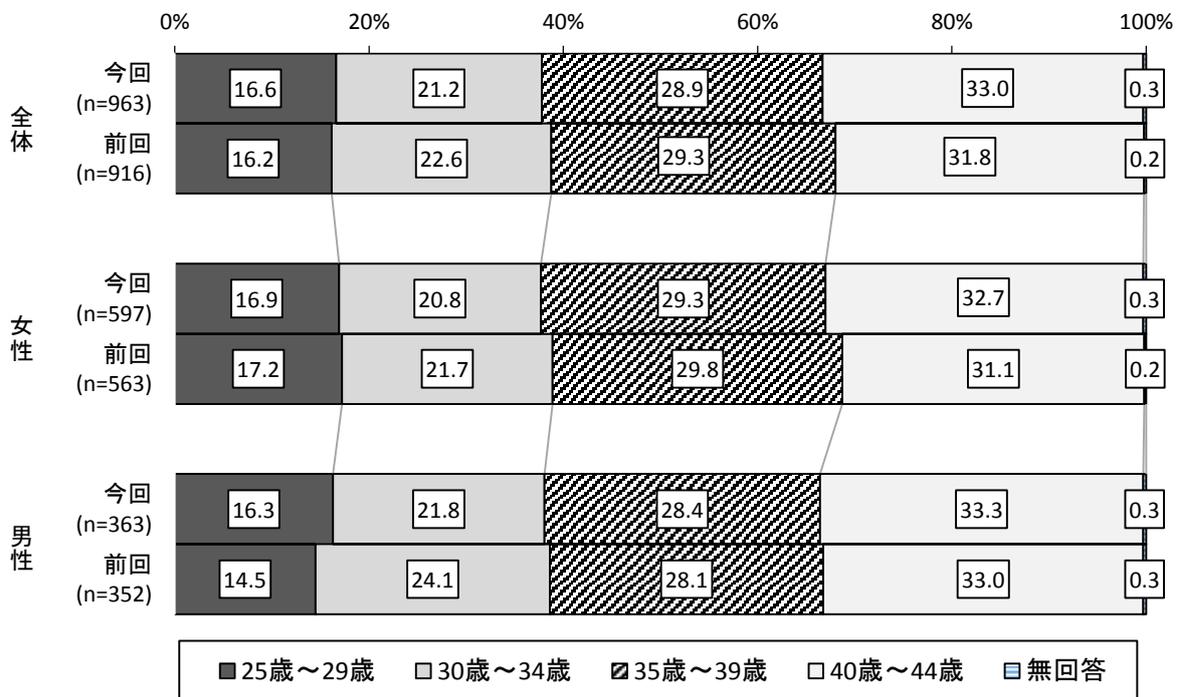
(1) 性別

図表(1)-1 回答者の性別(全体、前回比較)



(2) 年代

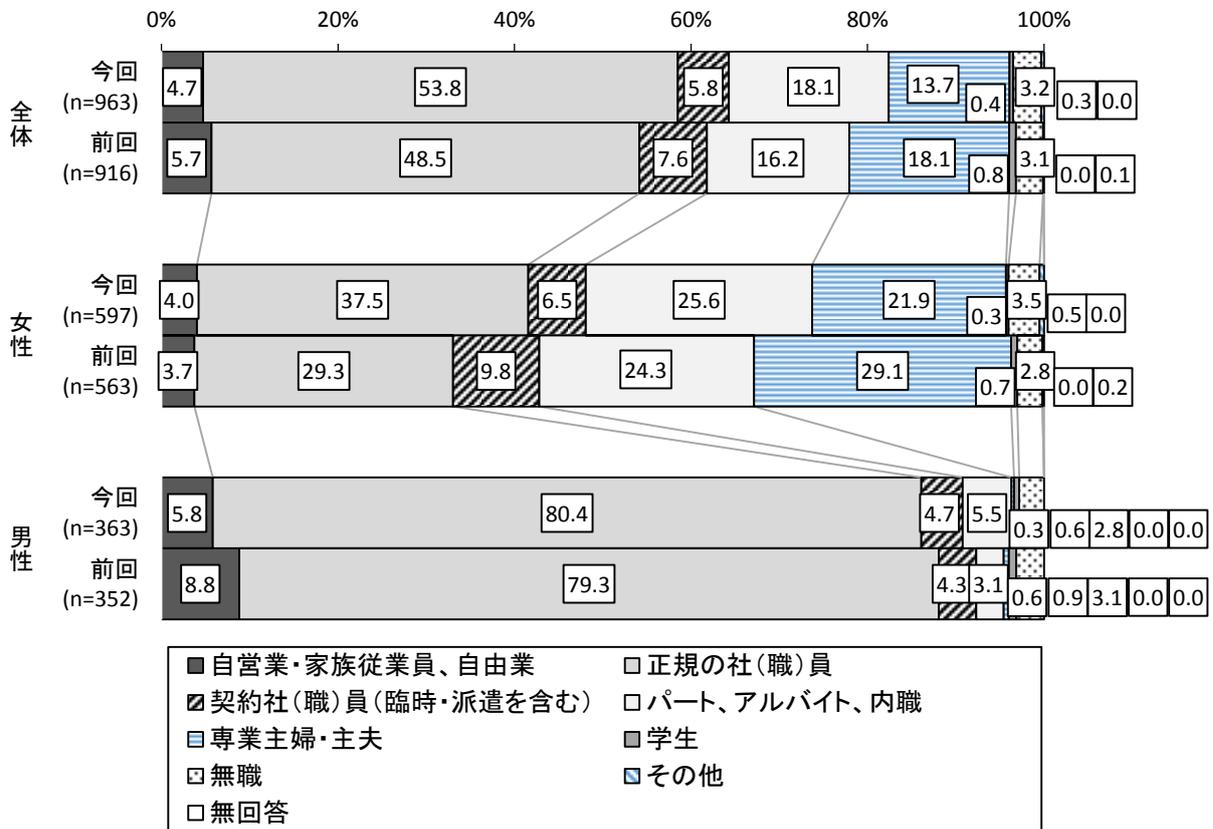
図表(2)-1 回答者の年齢(全体、性別、前回比較)



(件数)	合計	25歳~ 29歳	30歳~ 34歳	35歳~ 39歳	40歳~ 44歳	無回答
全体	963	160	204	278	318	3
女性	597	101	124	175	195	2
男性	363	59	79	103	121	1
無回答	3	0	1	0	2	0

(3) 職業形態

図表 (3)-1 回答者の職業形態(全体、性別、前回比較)

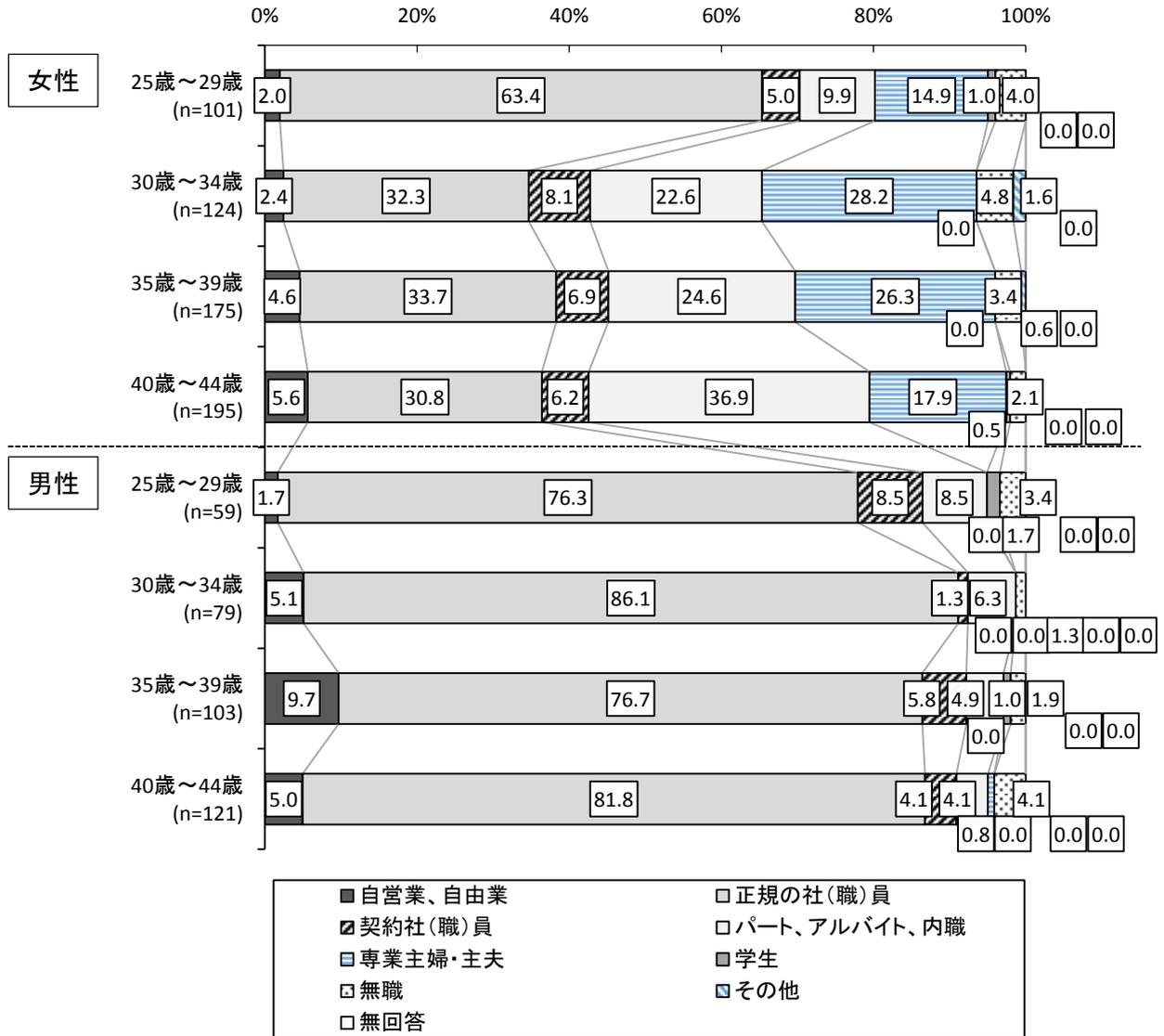


(件数)	合計	自営業・ 家族従業員、 自由業	正規の 社(職)員	契約 社(職)員	パート、 アルバイト、 内職	専業主婦・ 主夫	学生	無職	その他	無回答
全体	963	45	518	56	174	132	4	31	3	0
女性	597	24	224	39	153	131	2	21	3	0
男性	363	21	292	17	20	1	2	10	0	0
無回答	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0

注) 以降、「自営業・家族従業員、自由業」、「正規の社(職)員」、「契約社(職)員(臨時・派遣を含む)」、「パート、アルバイト、内職」、「その他」を合わせて、「有業」と表記する。

注) 以降、「自営業・家族従業員、自由業」は「自営業、自由業」、「契約社(職)員(臨時・派遣を含む)」は「契約社(職)員」と表記する。

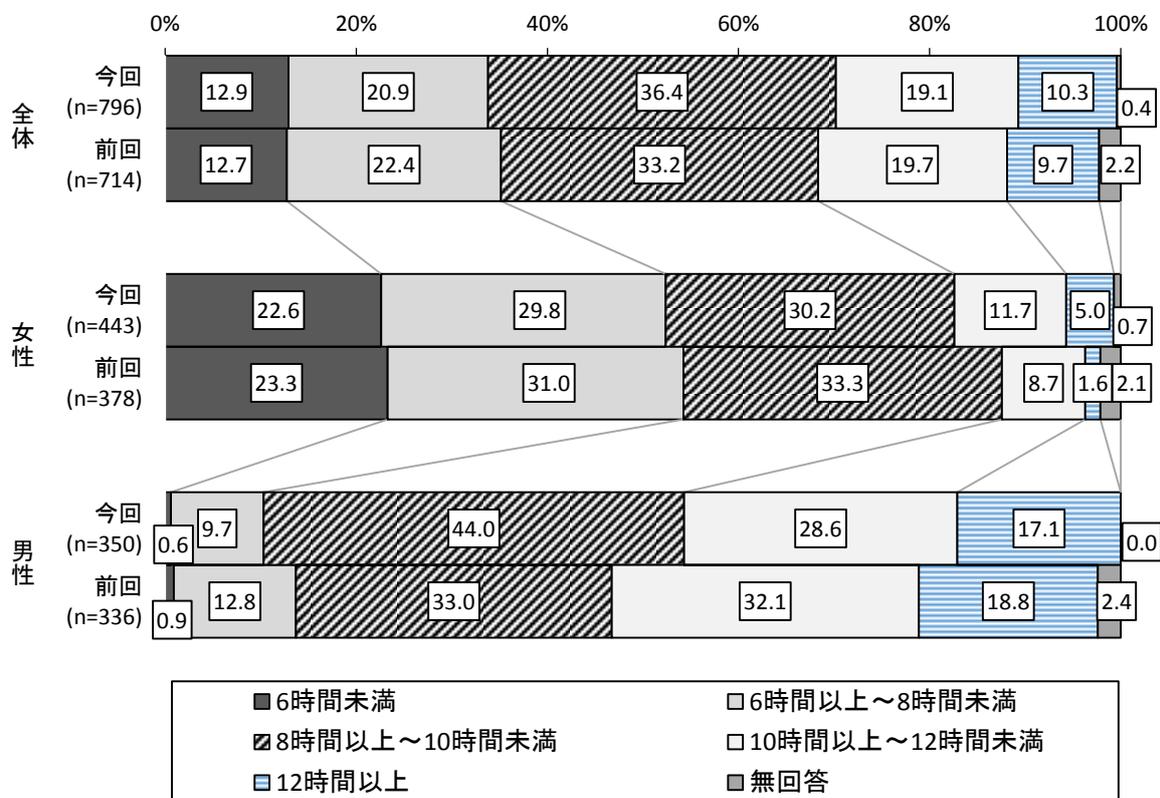
図表 (3)-2 回答者の職業形態(性別・年代別)



(件数)	合計	自営業、自由業	正規の社(職)員	契約社(職)員	パート、アルバイト、内職	専業主婦・主夫	学生	無職	その他	無回答
合計	963	45	518	56	174	132	4	31	3	0
女性	25歳～29歳	101	2	64	5	10	15	1	4	0
	30歳～34歳	124	3	40	10	28	35	0	6	2
	35歳～39歳	175	8	59	12	43	46	0	6	1
	40歳～44歳	195	11	60	12	72	35	1	4	0
男性	25歳～29歳	59	1	45	5	5	0	1	2	0
	30歳～34歳	79	4	68	1	5	0	1	1	0
	35歳～39歳	103	10	79	6	5	0	1	2	0
	40歳～44歳	121	6	99	5	5	1	0	5	0
無回答	6	0	4	0	1	0	0	1	0	0

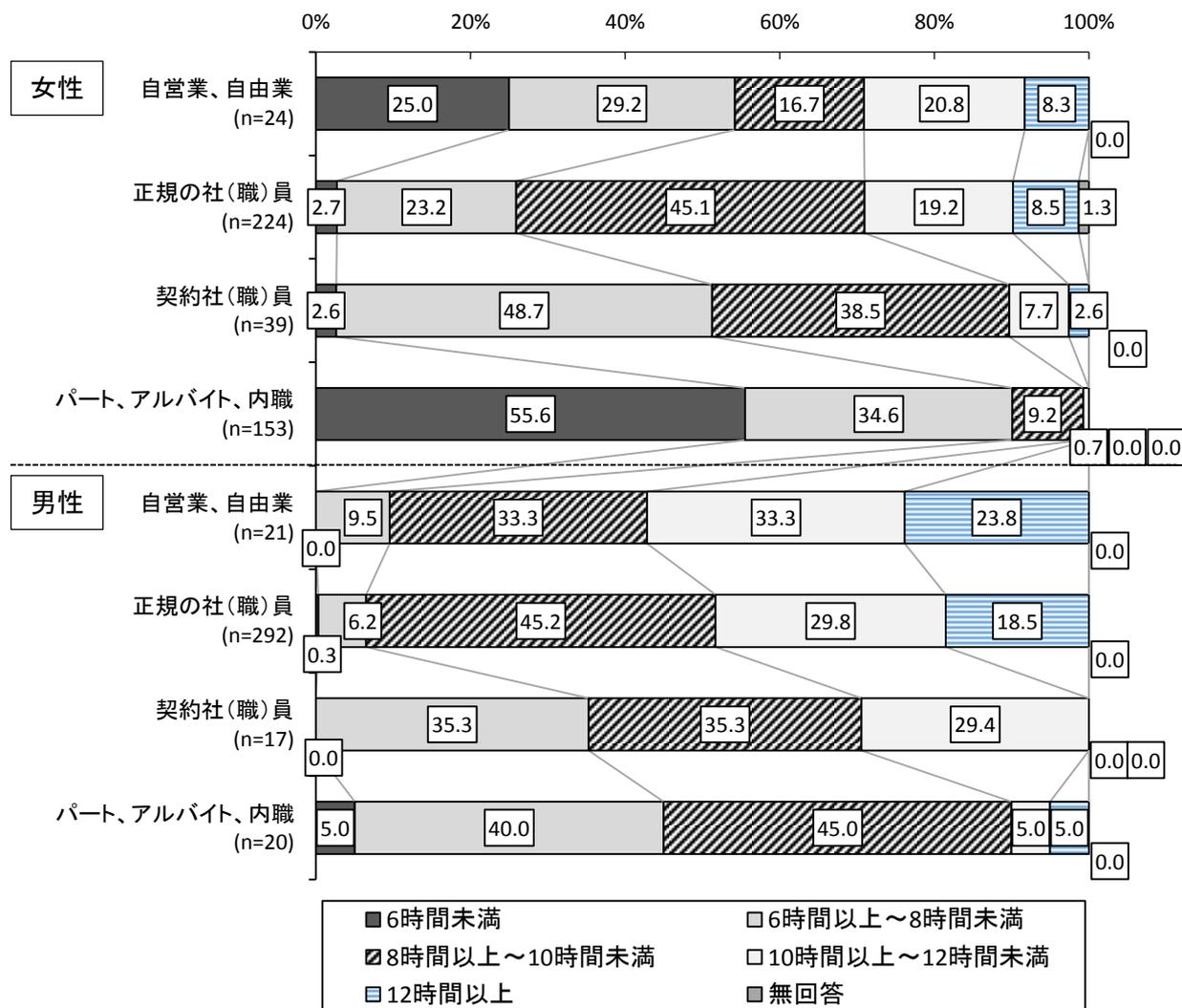
(4) 仕事に従事している時間（1日あたり）

図表(4)-1 仕事従事時間(全体、性別、前回比較)



(件数)	合計	6時間未満	6時間以上～8時間未満	8時間以上～10時間未満	10時間以上～12時間未満	12時間以上	無回答
全体	796	103	166	290	152	82	3
女性	443	100	132	134	52	22	3
男性	350	2	34	154	100	60	0
無回答	3	1	0	2	0	0	0

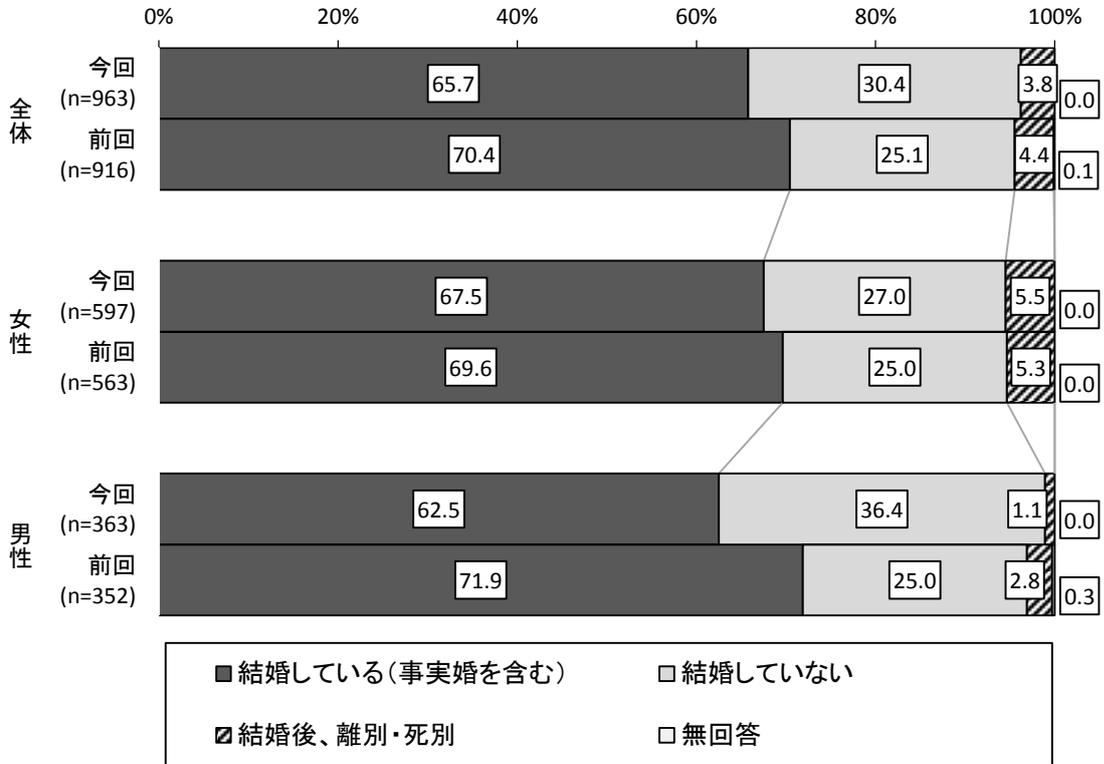
図表(4)-2 仕事従事時間(性別・職業形態別)



(件数)		合計	6時間未満	6時間以上 ～8時間 未満	8時間以上 ～10時間 未満	10時間以上 ～12時間 未満	12時間以上	無回答
合計		790	100	165	288	152	82	3
女性	自営業、自由業	24	6	7	4	5	2	0
	正規の社(職)員	224	6	52	101	43	19	3
	契約社(職)員	39	1	19	15	3	1	0
	パート、アルバイト、内職	153	85	53	14	1	0	0
男性	自営業、自由業	21	0	2	7	7	5	0
	正規の社(職)員	292	1	18	132	87	54	0
	契約社(職)員	17	0	6	6	5	0	0
	パート、アルバイト、内職	20	1	8	9	1	1	0

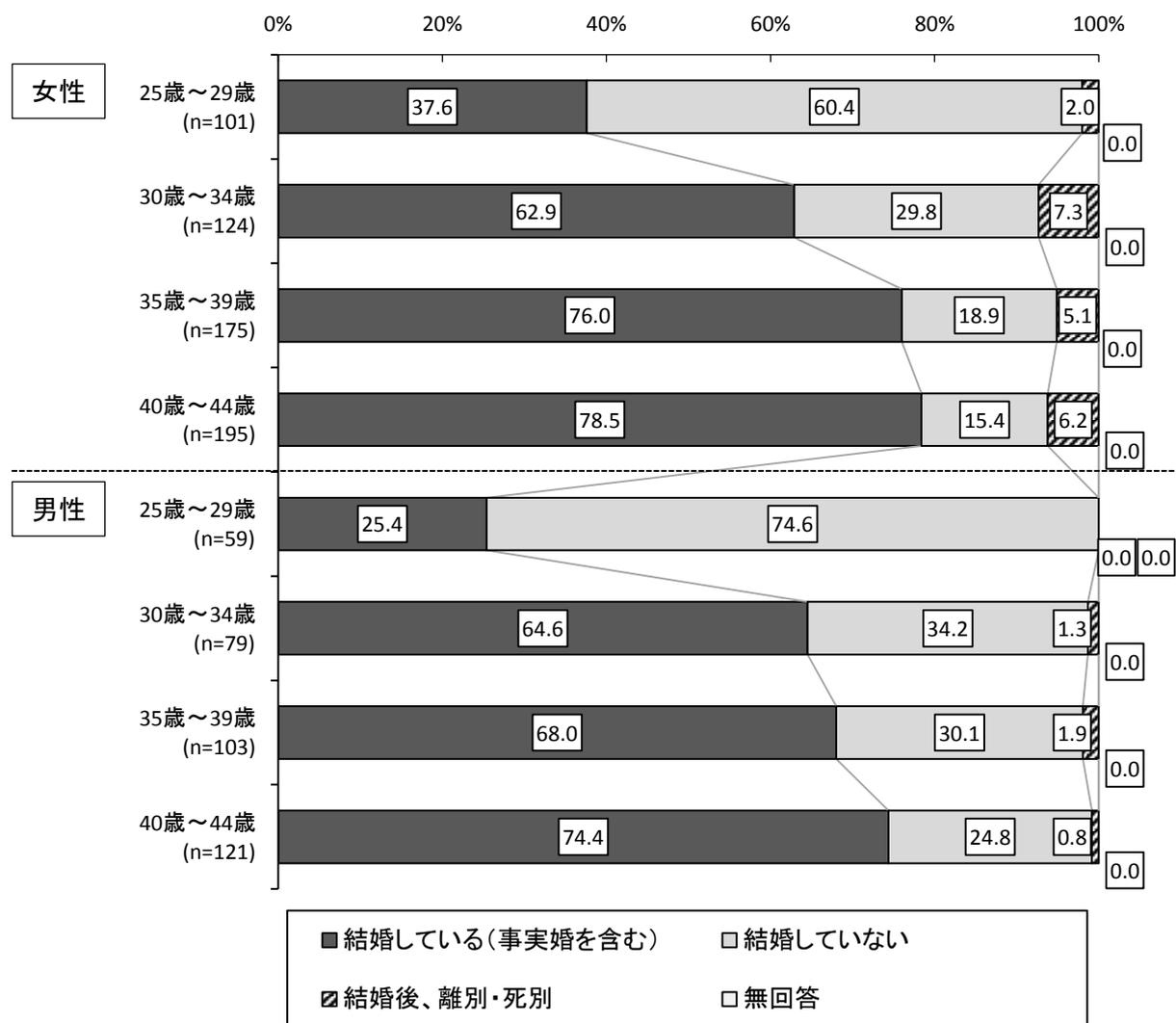
(5) 結婚の有無

図表(5)-1 結婚の有無(全体、性別、前回比較)



(件数)	合計	結婚している	結婚していない	離別・死別	無回答
全体	963	633	293	37	0
女性	597	403	161	33	0
男性	363	227	132	4	0
無回答	3	3	0	0	0

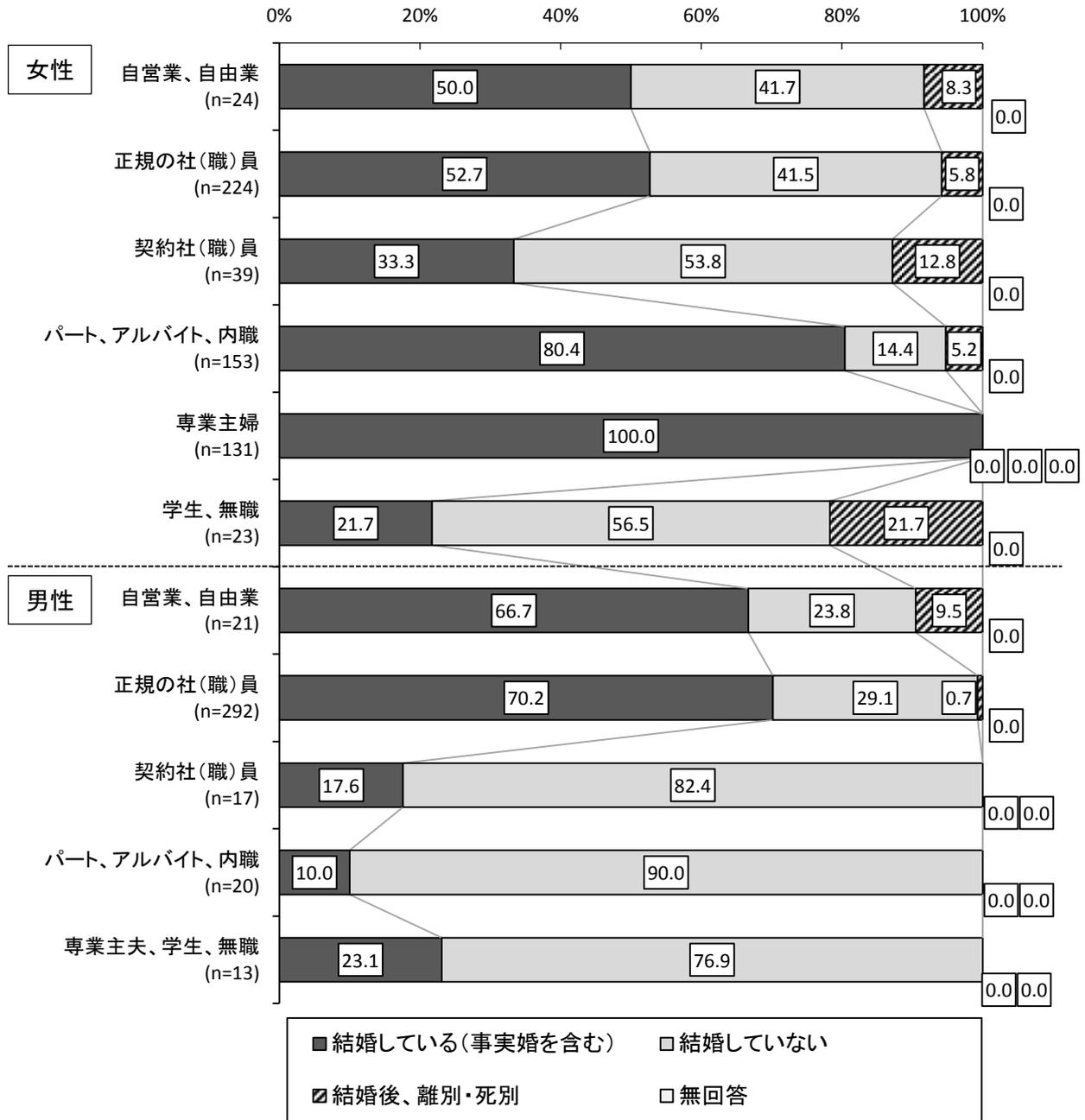
図表(5)-2 結婚の有無(性別・年代別)



(件数)		合計	結婚して いる	結婚して いない	離別・ 死別	無回答
合計		963	633	293	37	0
女性	25歳～29歳	101	38	61	2	0
	30歳～34歳	124	78	37	9	0
	35歳～39歳	175	133	33	9	0
	40歳～44歳	195	153	30	12	0
男性	25歳～29歳	59	15	44	0	0
	30歳～34歳	79	51	27	1	0
	35歳～39歳	103	70	31	2	0
	40歳～44歳	121	90	30	1	0
無回答		6	5	0	1	0

注) 以降、「結婚している(事実婚を含む)」を「既婚」、「結婚していない」及び「結婚後、離別・死別」を合わせて「独身」と表記する。

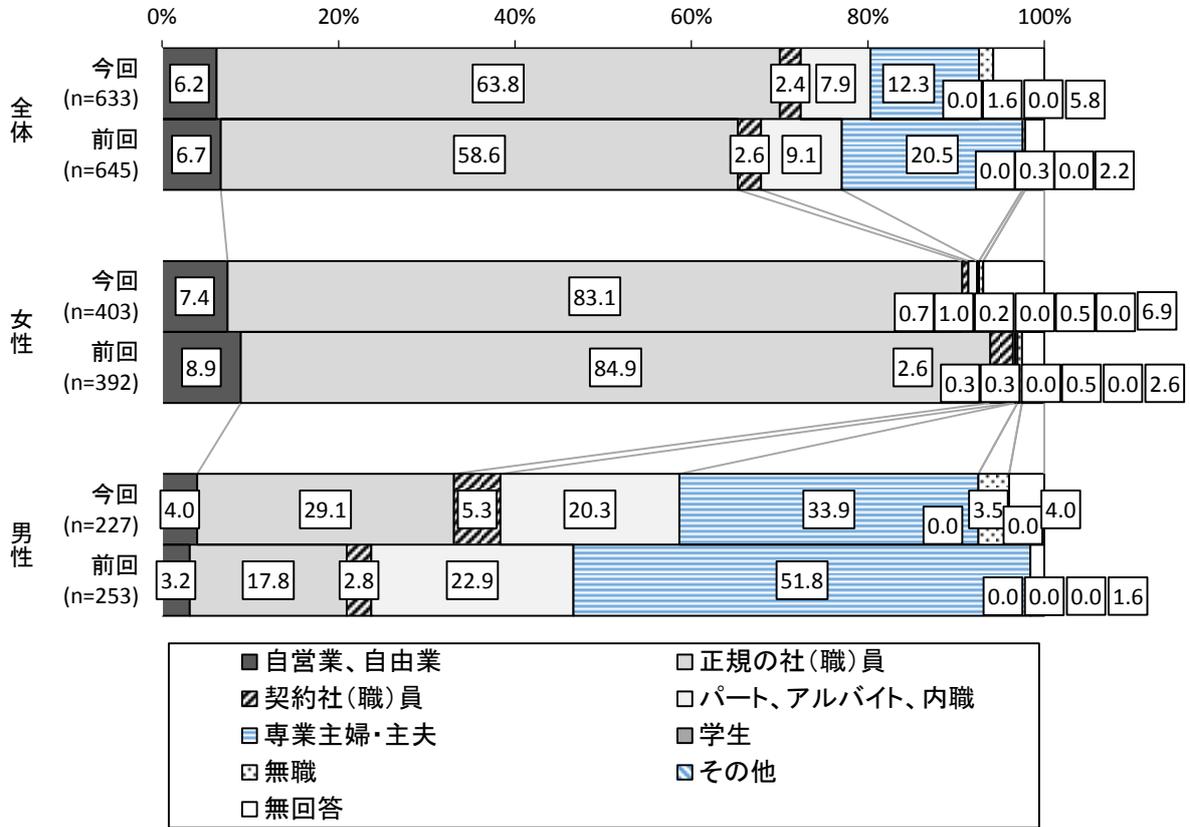
図表(5)-3 結婚の有無(性別・職業形態別)



(件数)		合計	結婚して いる	結婚して いない	離別・ 死別	無回答
合計		963	633	293	37	0
女性	自営業、自由業	24	12	10	2	0
	正規の社(職)員	224	118	93	13	0
	契約社(職)員	39	13	21	5	0
	パート、アルバイト、内職	153	123	22	8	0
	専業主婦	131	131	0	0	0
	学生、無職	23	5	13	5	0
その他		3	1	2	0	0
男性	自営業、自由業	21	14	5	2	0
	正規の社(職)員	292	205	85	2	0
	契約社(職)員	17	3	14	0	0
	パート、アルバイト、内職	20	2	18	0	0
	専業主夫、学生、無職	13	3	10	0	0
無回答		3	3	0	0	0

(6) 配偶者の職業形態

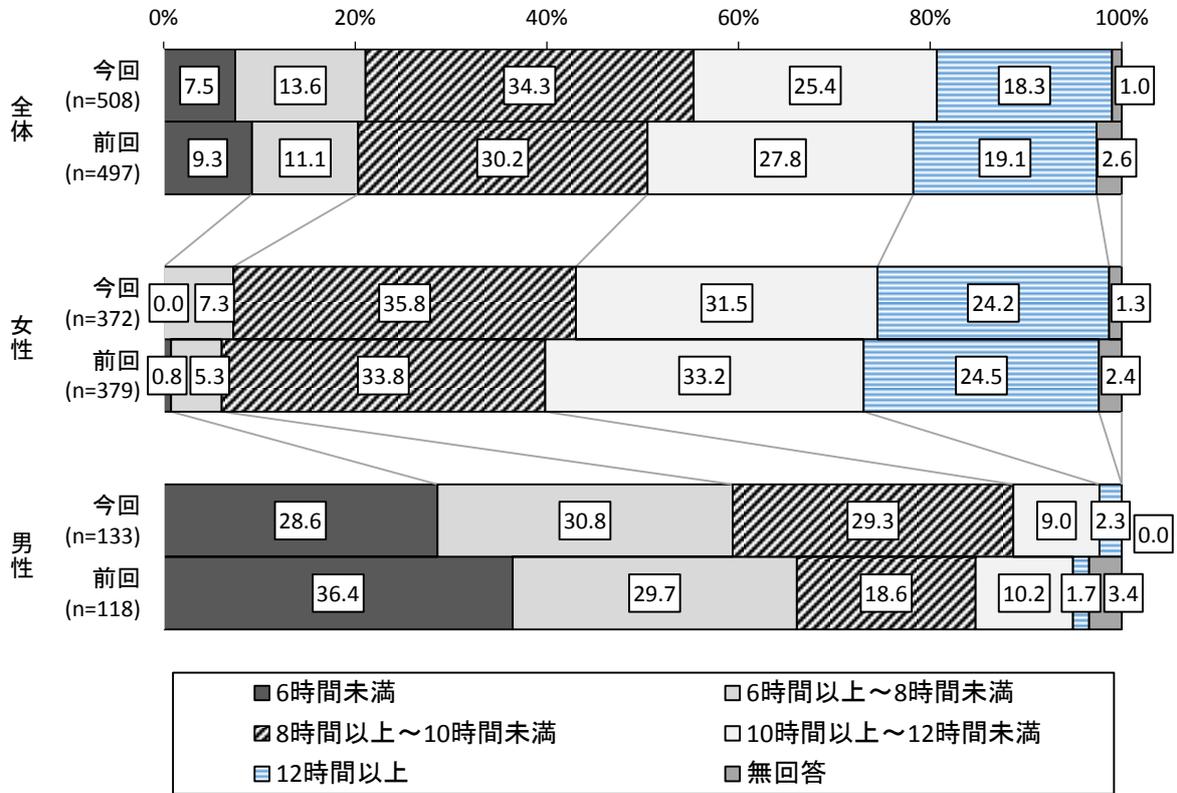
図表(6)-1 配偶者の職業形態(全体、性別、前回比較)



(件数)	合計	自営業、自由業	正規の社(職)員	契約社(職)員	パート、アルバイト、内職	専業主婦・主夫	学生	無職	その他	無回答
全体	633	39	404	15	50	78	0	10	0	37
女性	403	30	335	3	4	1	0	2	0	28
男性	227	9	66	12	46	77	0	8	0	9
無回答	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0

(7) 配偶者の仕事従事時間（1日あたり）

図表(7)-1 配偶者の仕事従事時間(全体、性別、前回比較)

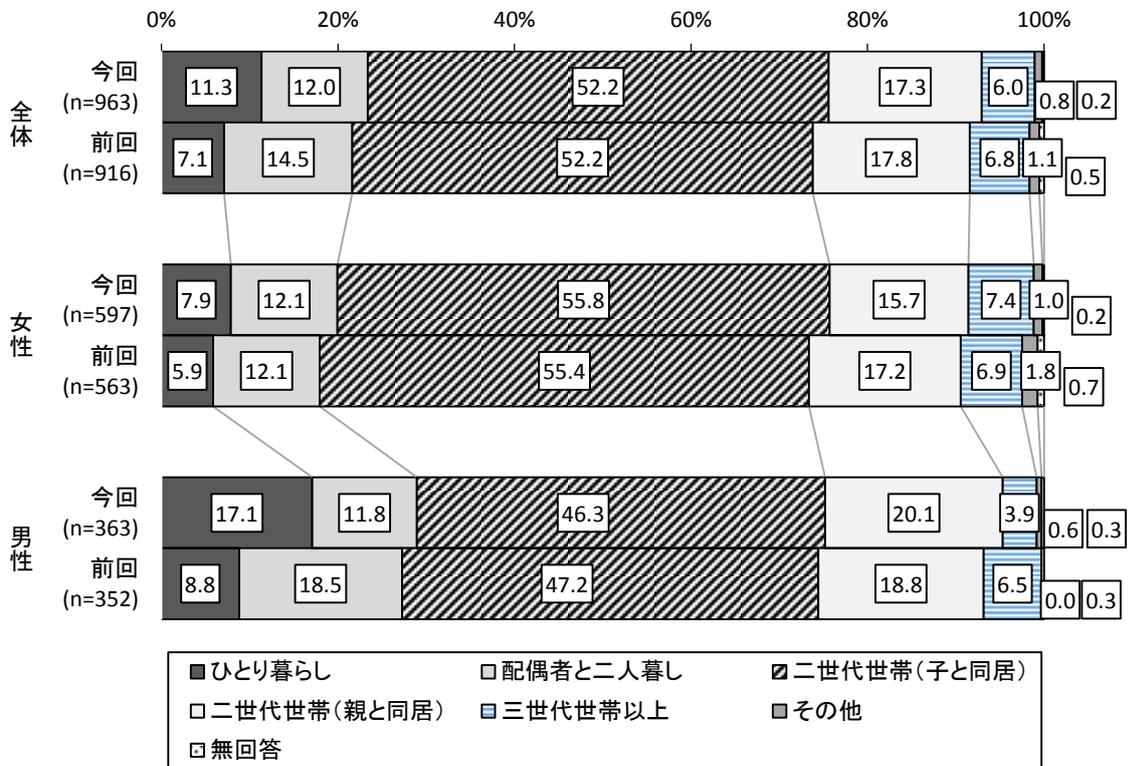


(件数)	合計	6時間未満	6時間以上～8時間未満	8時間以上～10時間未満	10時間以上～12時間未満	12時間以上	無回答
全体	508	38	69	174	129	93	5
女性	372	0	27	133	117	90	5
男性	133	38	41	39	12	3	0
無回答	3	0	1	2	0	0	0

(8) 家族構成

図表(8)-1 家族構成(全体、性別、前回比較)

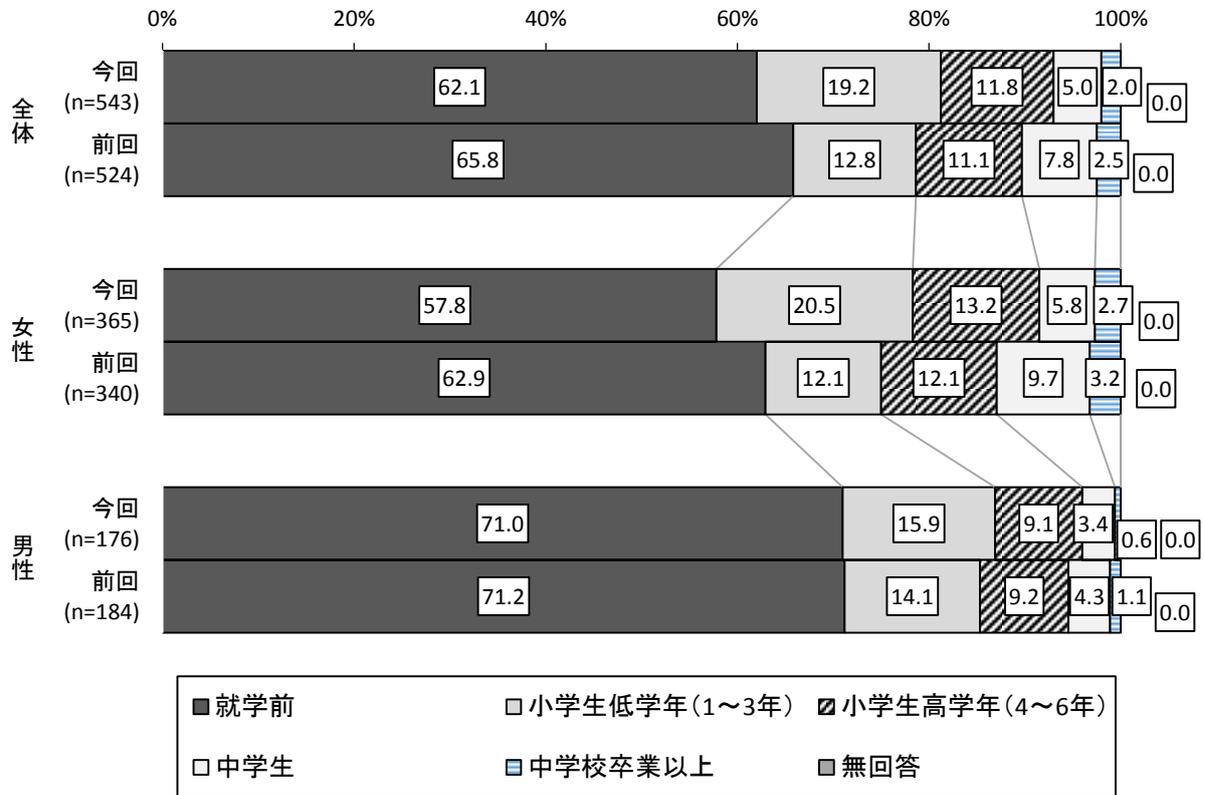
上段:件数 下段:%	合計	親	配偶者・ パートナー	子	祖父母	兄弟姉妹	その他	同居人なし	無回答
全体	963	224	593	543	21	69	7	109	2
	100.0	23.3	61.6	56.4	2.2	7.2	0.7	11.3	0.2
女性	597	137	379	365	15	50	7	47	1
	100.0	22.9	63.5	61.1	2.5	8.4	1.2	7.9	0.2
男性	363	87	211	176	6	19	0	62	1
	100.0	24.0	58.1	48.5	1.7	5.2	0.0	17.1	0.3
無回答	3	0	3	2	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	100.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



(件数)	合計	ひとり暮らし	配偶者と二人暮らし	二世帯世帯(子と同居)	二世帯世帯(親と同居)	三世帯世帯以上	その他	無回答
全体	963	109	116	503	167	58	8	2
女性	597	47	72	333	94	44	6	1
男性	363	62	43	168	73	14	2	1
無回答	3	0	1	2	0	0	0	0

(9) 最年少の子どもの成長段階

図表(9)-1 最年少の子どもの成長段階(全体、性別、前回比較)



(件数)	合計	就学前	小学生低学年	小学生高学年	中学生	中学校卒業以上	無回答
合計	543	337	104	64	27	11	0
女性	365	211	75	48	21	10	0
男性	176	125	28	16	6	1	0
無回答	2	1	1	0	0	0	0

Ⅱ. 調査結果

1. 「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」

(1) 「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」という言葉の認知度

問1 あなたは、以下の言葉を知っていますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ ○をつけてください。

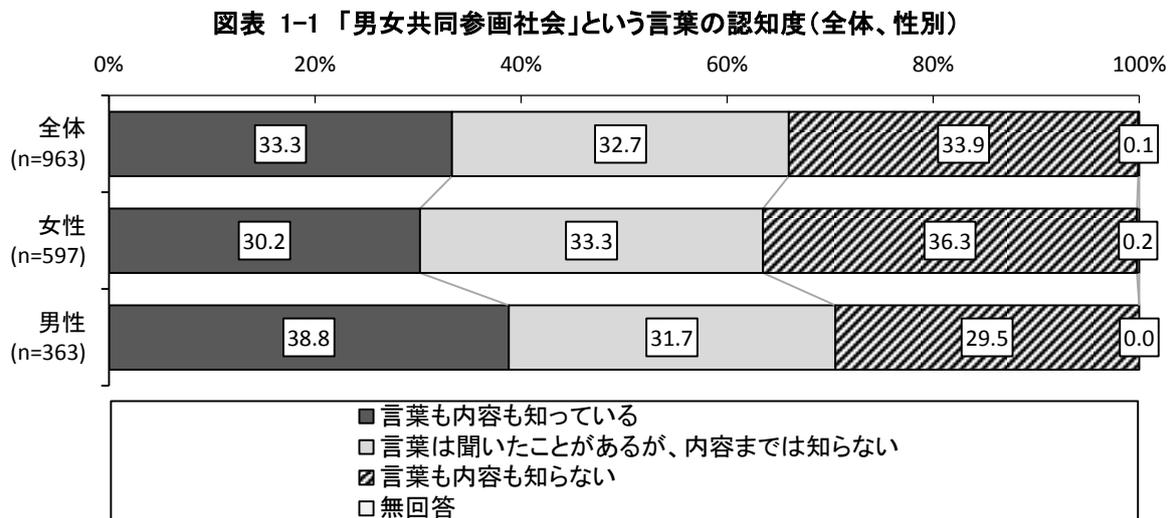
男女共同参画社会

7割近くが“言葉を知っている（聞いたことがある）”と回答。

全体では、「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の両者を合わせた“言葉を知っている（聞いたことがある）”は66.0%である。

性別で見ると、女性では「言葉も内容も知らない」が36.3%で最も多いが、男性では「言葉も内容も知っている」が38.8%で最も多い。「言葉も内容も知っている」（女性30.2%、男性38.8%）は、男性の方が女性より8.6ポイント多い。

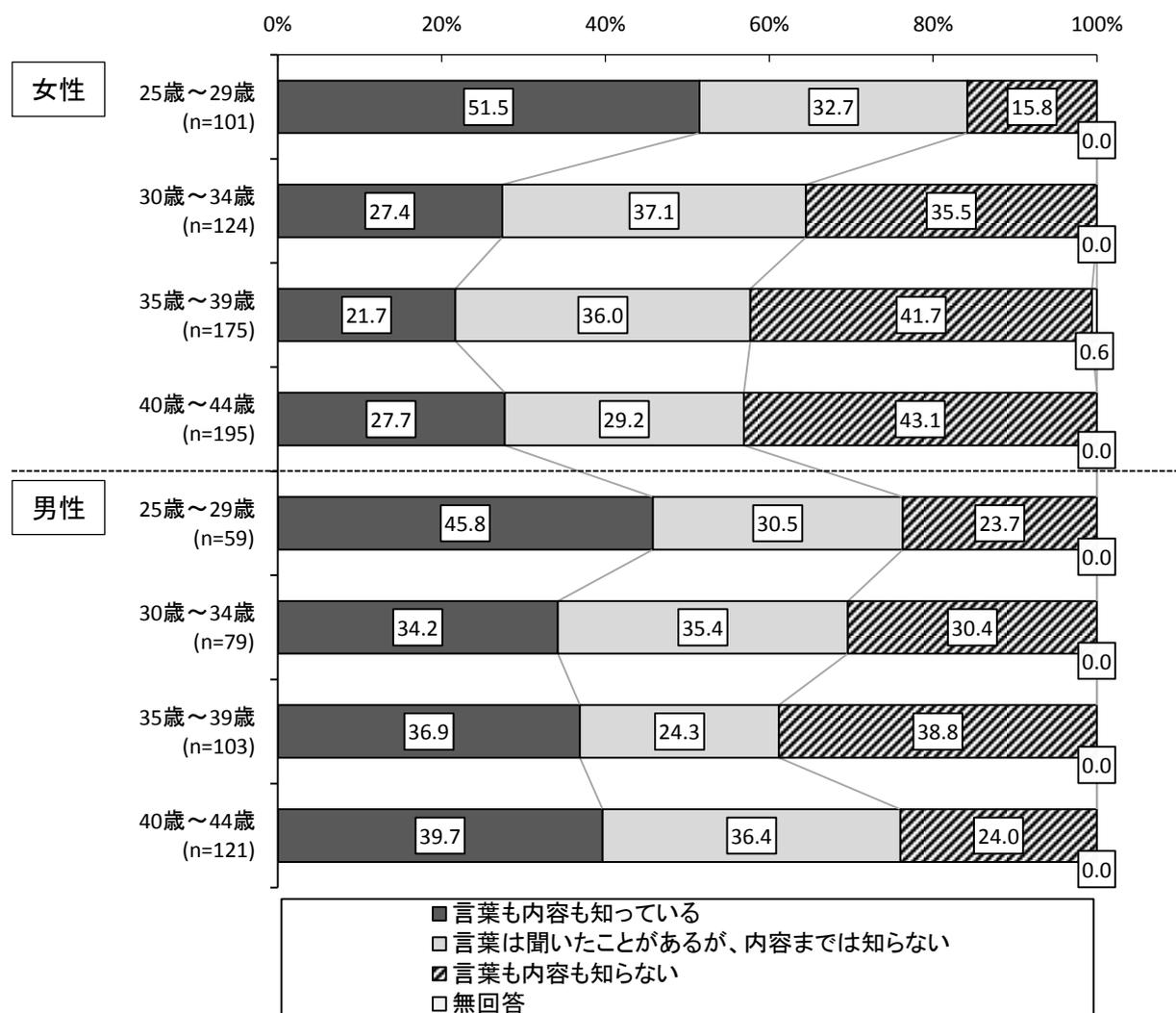
【図表 1-1 参照】



男女それぞれを年代別にみると、男女ともに「言葉も内容も知っている」は25歳～29歳で最も多く、女性で51.5%、男性で45.8%である。30歳～44歳までの各年代ではいずれも「言葉も内容も知っている」は、男性の方が女性より多い。

【図表 1-2 参照】

図表 1-2 「男女共同参画社会」という言葉の認知度(性別・年代別)



仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

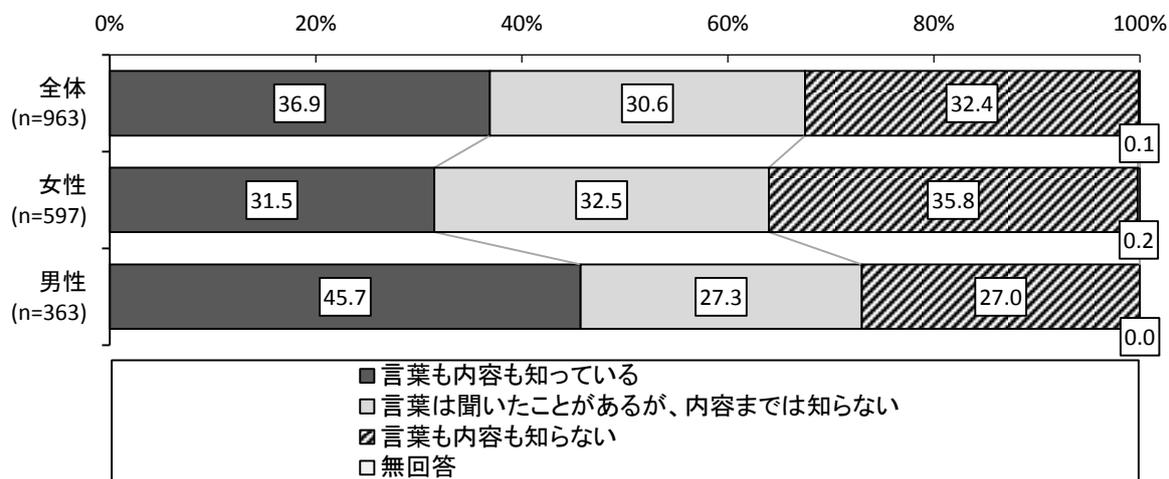
7割近くが“言葉を知っている（聞いたことがある）”と回答。

全体では、「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の両者を合わせた“言葉を知っている（聞いたことがある）”は67.5%である。

性別で見ると、女性では「言葉も内容も知らない」が35.8%で最も多いが、男性では「言葉も内容も知っている」が45.7%で最も多い。「言葉も内容も知っている」（女性31.5%、男性45.7%）は、男性の方が女性より14.2ポイント多い。

【図表 1-3 参照】

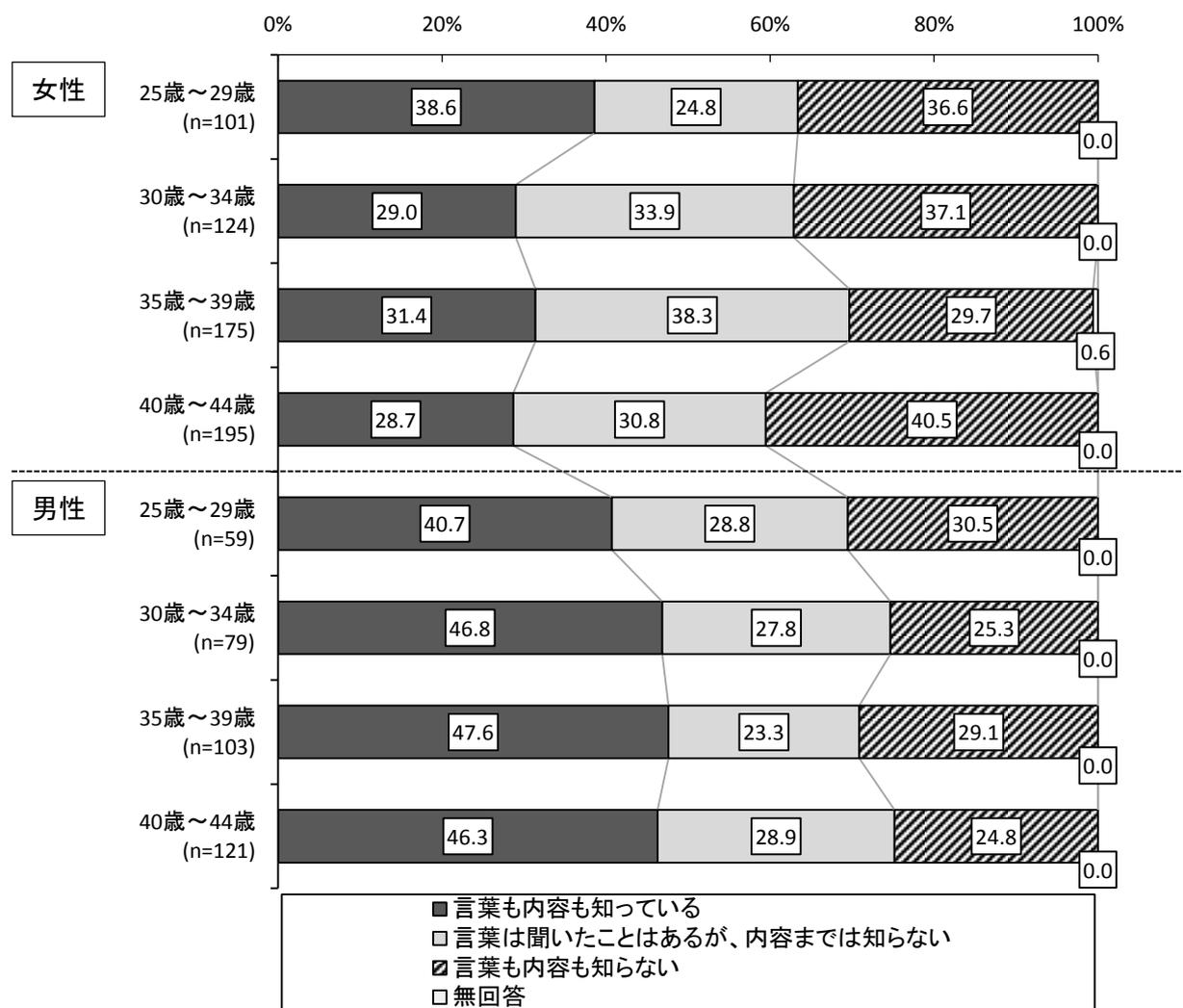
図表 1-3 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉の認知度（全体、性別）



男女それぞれを年代別にみると、「言葉も内容も知っている」は女性では25歳～29歳で最も多く38.6%、男性では30歳～44歳までの各年代で5割近い。いずれの年代でも「言葉も内容も知っている」は、男性の方が女性より多い。

【図表 1-4 参照】

図表 1-4 「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉の認知度(性別・年代別)



(2) 「仕事」、「家庭」、「自分の時間」の満足度

問2 あなたは現在、「仕事」、「家庭」、「自分の時間」についてどう感じていますか。

(A)～(C)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

(A) 仕事の満足度

男女ともに6割近くが仕事に“満足”と回答。

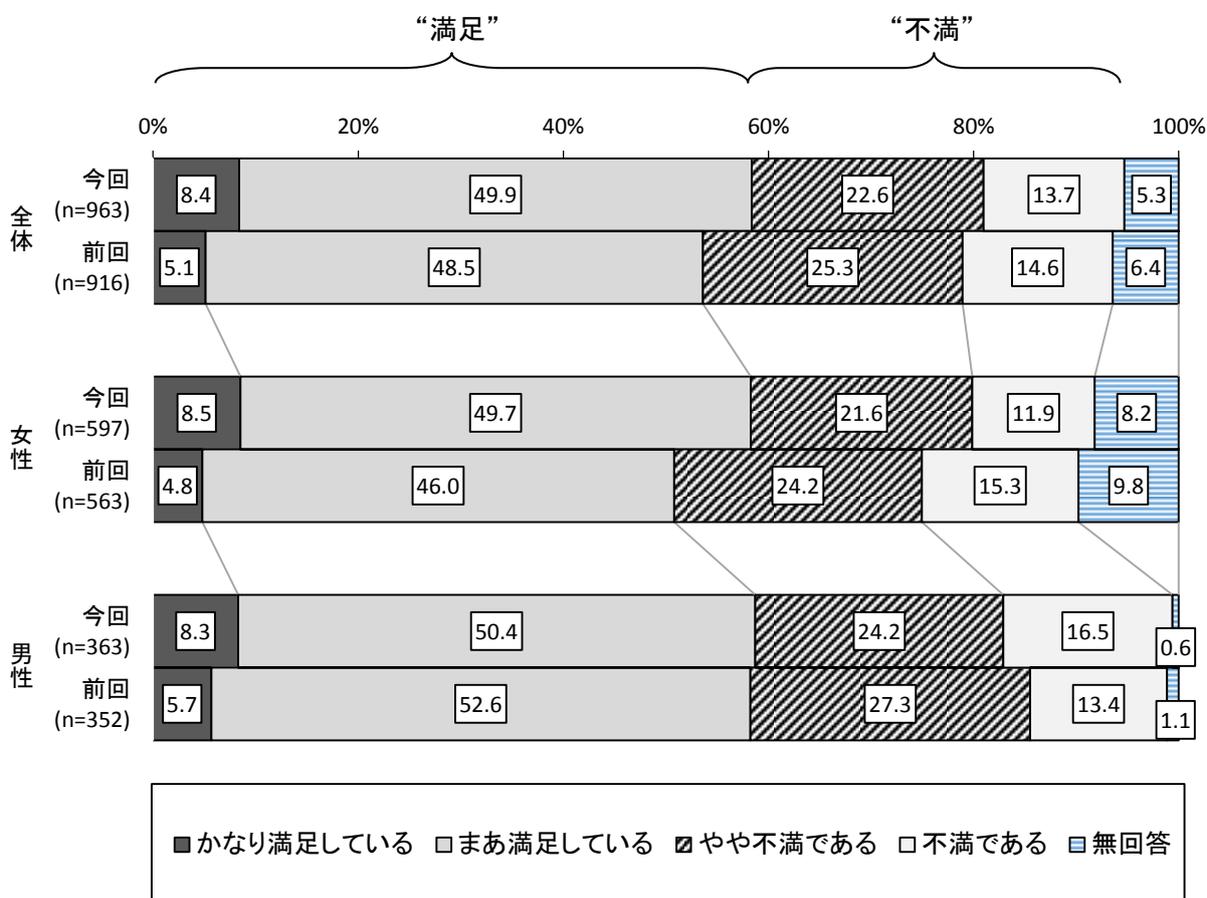
全体では、「かなり満足している」、「まあ満足している」の両者を合わせた“満足”は58.3%である。一方、「やや不満である」、「不満である」の両者を合わせた“不満”は36.3%である。

性別で見ると、男女ともに“満足”（女性58.2%、男性58.7%）が6割近い。“不満”（女性33.5%、男性40.7%）は、男性の方が女性より7.2ポイント多い。

前回調査と比較すると、全体では“満足”が4.7ポイント増加している。

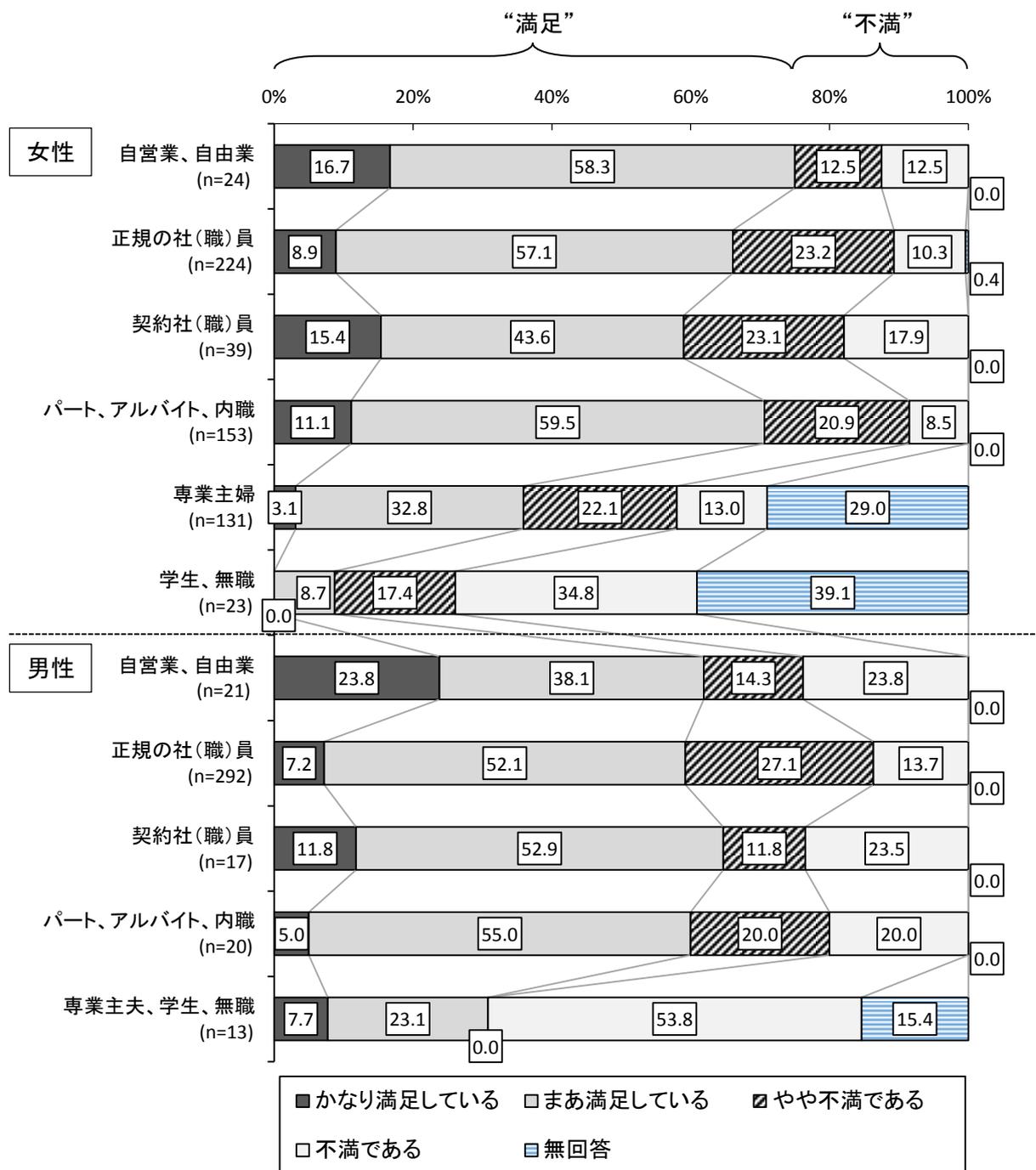
【図表 1-5 参照】

図表 1-5 (A)仕事の満足度(全体、性別、前回比較)



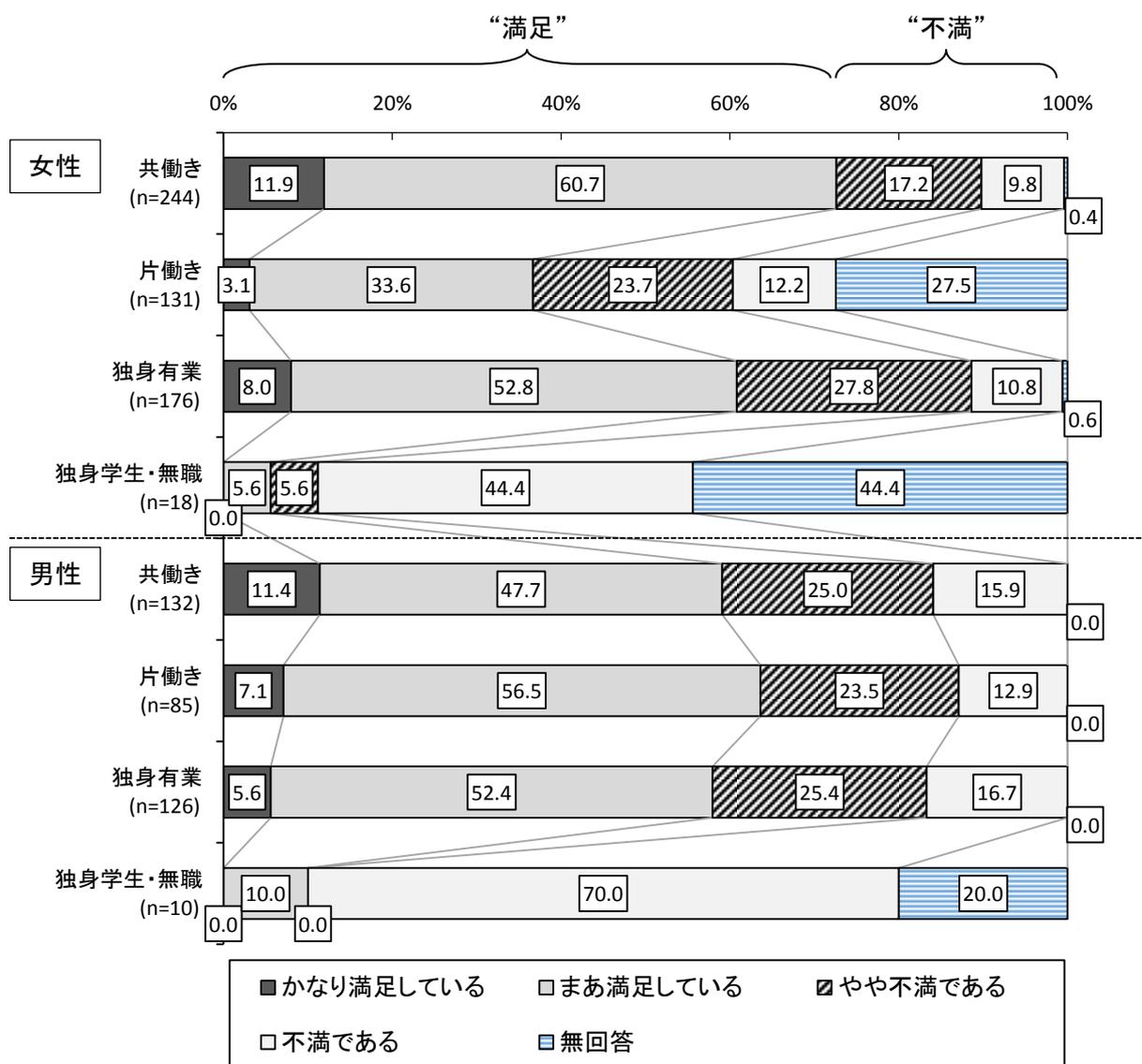
男女それぞれを職業形態別にみると、“満足”が多いのは、女性では「パート、アルバイト、内職」で70.6%、男性では「正規の社（職）員」で59.3%となっている。回答数は少ないが、女性の「自営業、自由業」が75.0%、男性の「契約社（職）員」が64.7%となっている。【図表 1-6 参照】

図表 1-6 (A) 仕事の満足度(性別・職業形態別)



男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、「共働き」では“満足”が女性で72.6%、男性が59.1%と、女性の方が男性より13.5ポイント多い。 【図表 1-7 参照】

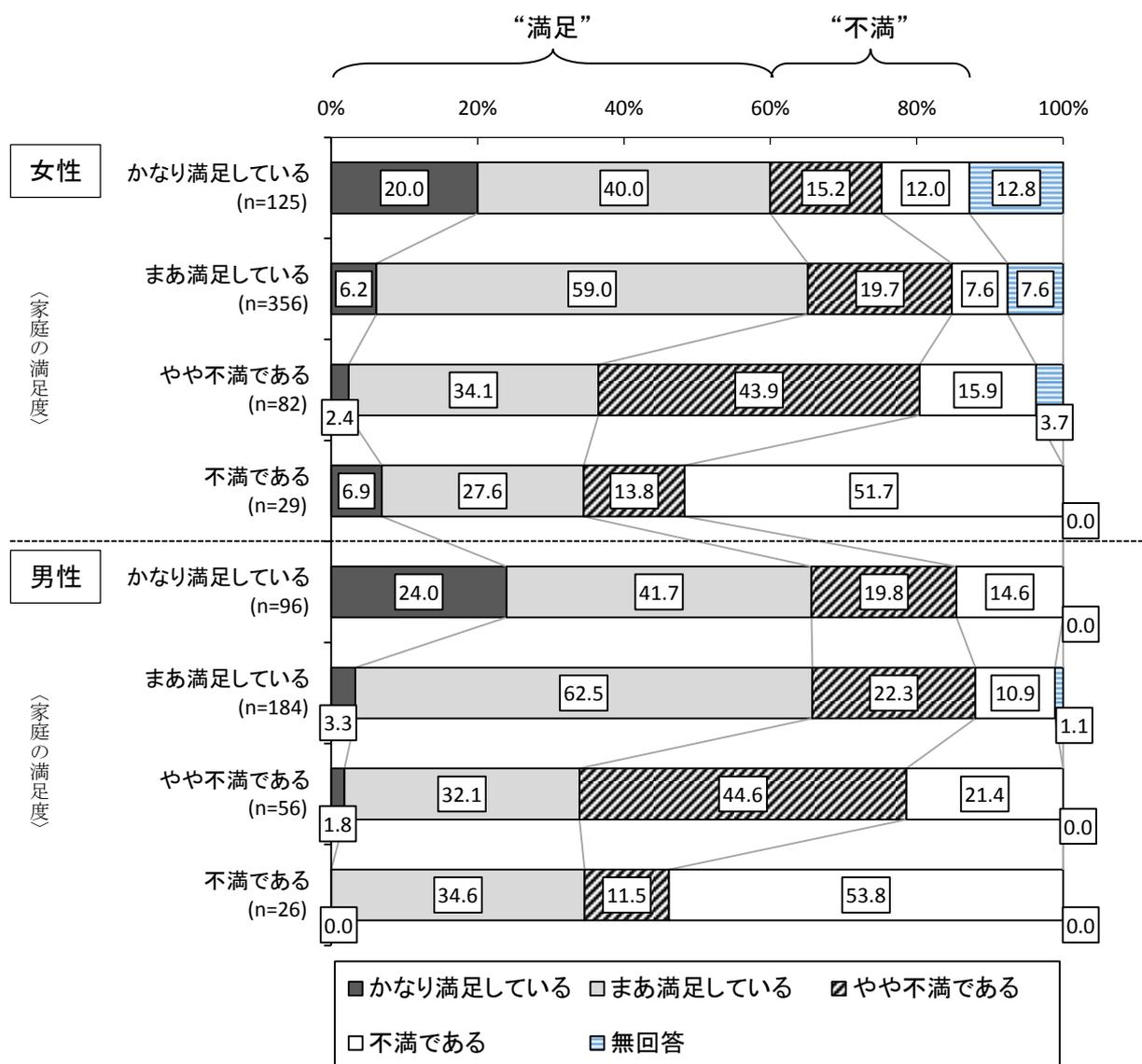
図表 1-7 (A) 仕事の満足度(性別・夫婦の働き方別)



※片働き：既婚の中で自分または配偶者のどちらか片方が有業の者

家庭の満足度の回答別（P.23 参照）にみると、男女ともに、家庭に「かなり満足している」人と「まあ満足している」人で、仕事に“満足”が6割台となっているのに対し、家庭に「やや不満である」と「不満である」人で、仕事に“満足”が3割台となっている。 【図表 1-8 参照】

図表 1-8 (A) 仕事の満足度(性別・〈家庭の満足度〉の回答別)



(B) 家庭の満足度

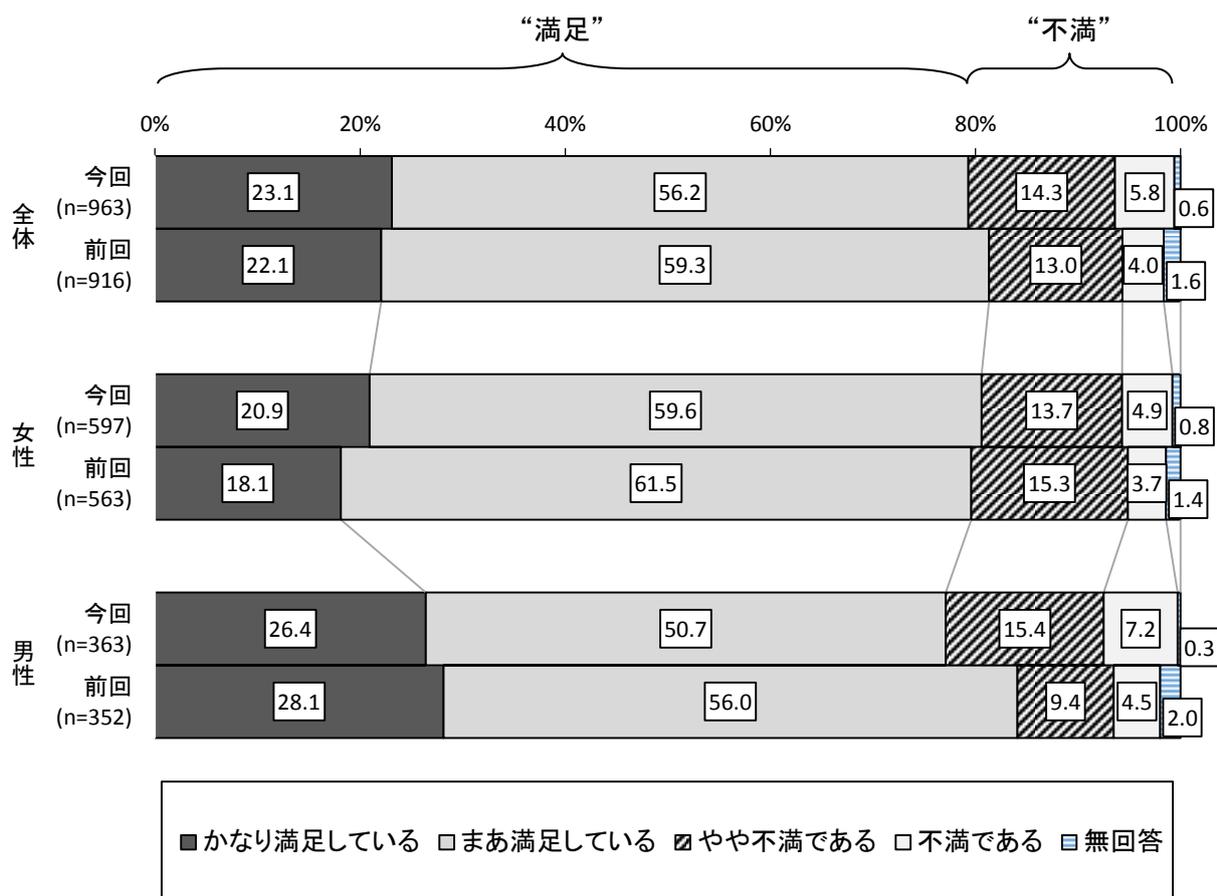
男性は8割近く、女性は約8割が家庭に“満足”と回答。

全体では、「かなり満足している」、「まあ満足している」の両者を合わせた“満足”は79.3%である。一方、「やや不満である」、「不満である」の両者を合わせた“不満”は20.1%である。

性別で見ると、男女ともに「まあ満足している」(女性 59.6%、男性 50.7%)が最も多く、女性の方が男性より8.9ポイント多い。「かなり満足している」は男性が26.4%、女性が20.9%で、男性の方が女性より5.5ポイント多い。

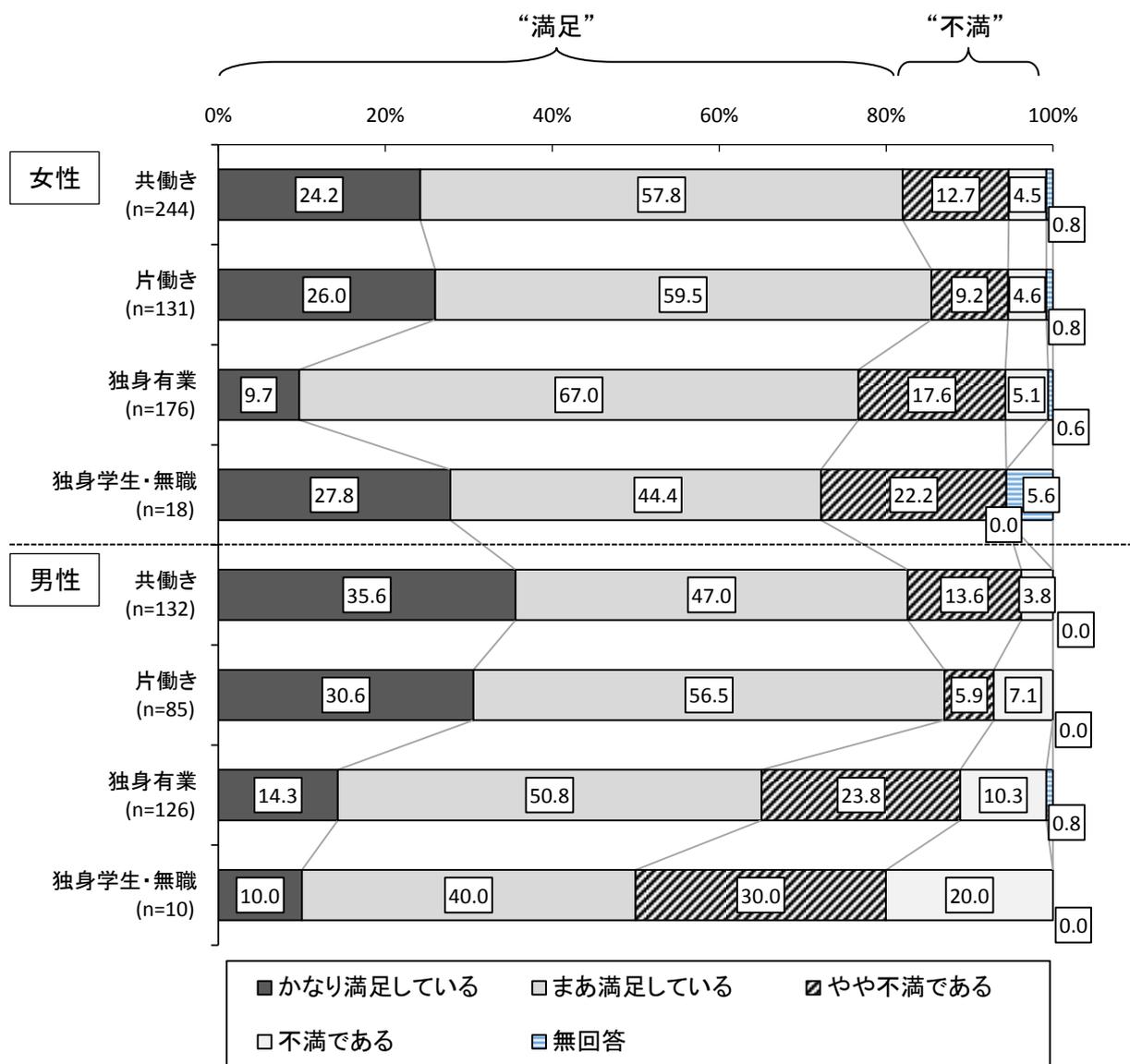
前回調査と比較すると、全体は大きな変化はみられないが、男性では“満足”が7.0ポイント減少している。【図表 1-9 参照】

図表 1-9 (B)家庭の満足度(全体、性別、前回比較)



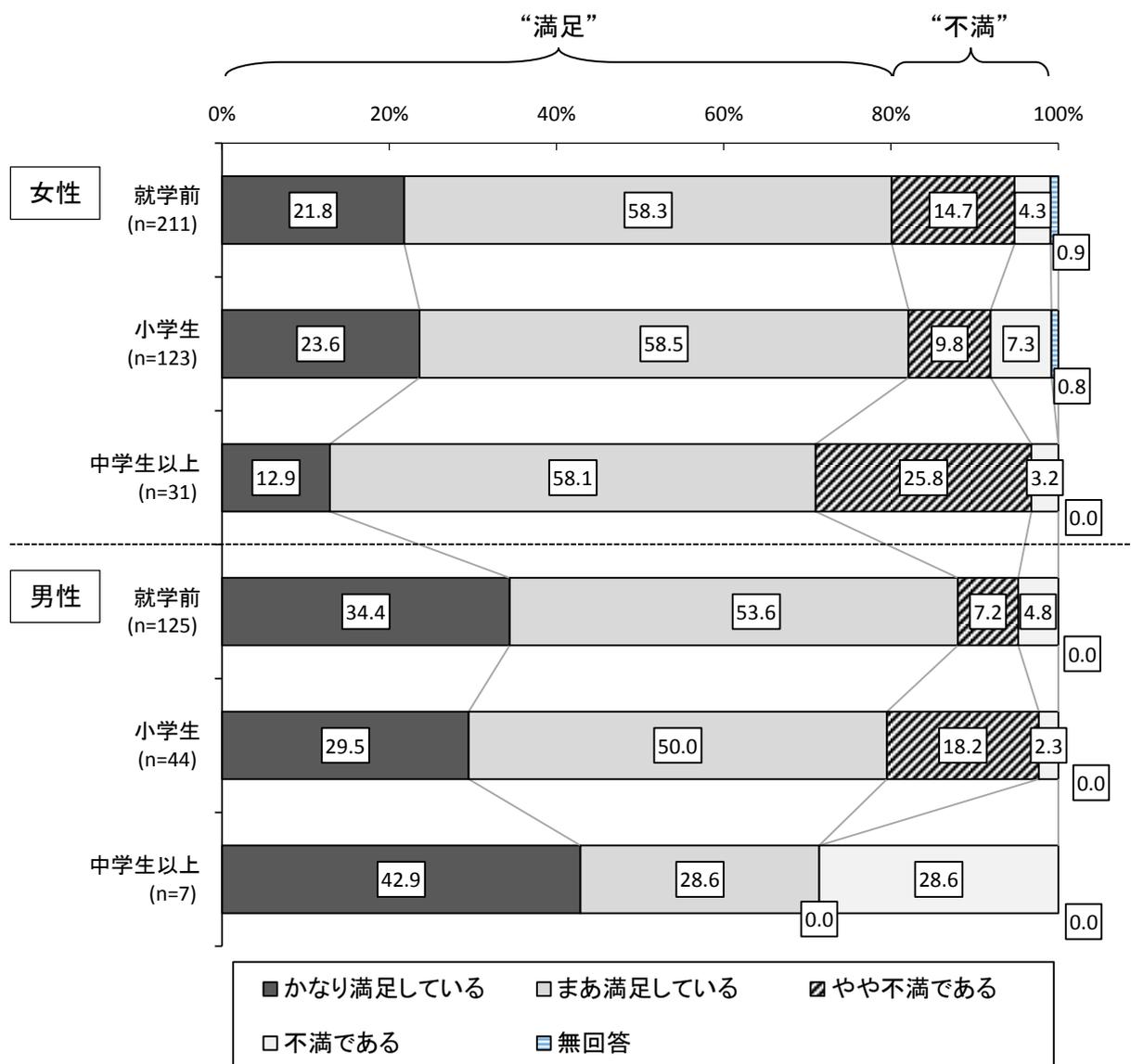
男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、“満足”は、男女とも「片働き」（女性 85.5%、男性 87.1%）で最も多く、続いて「共働き」（女性 82.0%、男性 82.6%）である。女性の「独身有業」は“満足”が 76.7%、男性の「独身有業」は 65.1%と、女性の方が男性より 11.6 ポイント多い。【図表 1-10 参照】

図表 1-10 (B) 家庭の満足度(性別・夫婦の働き方別)



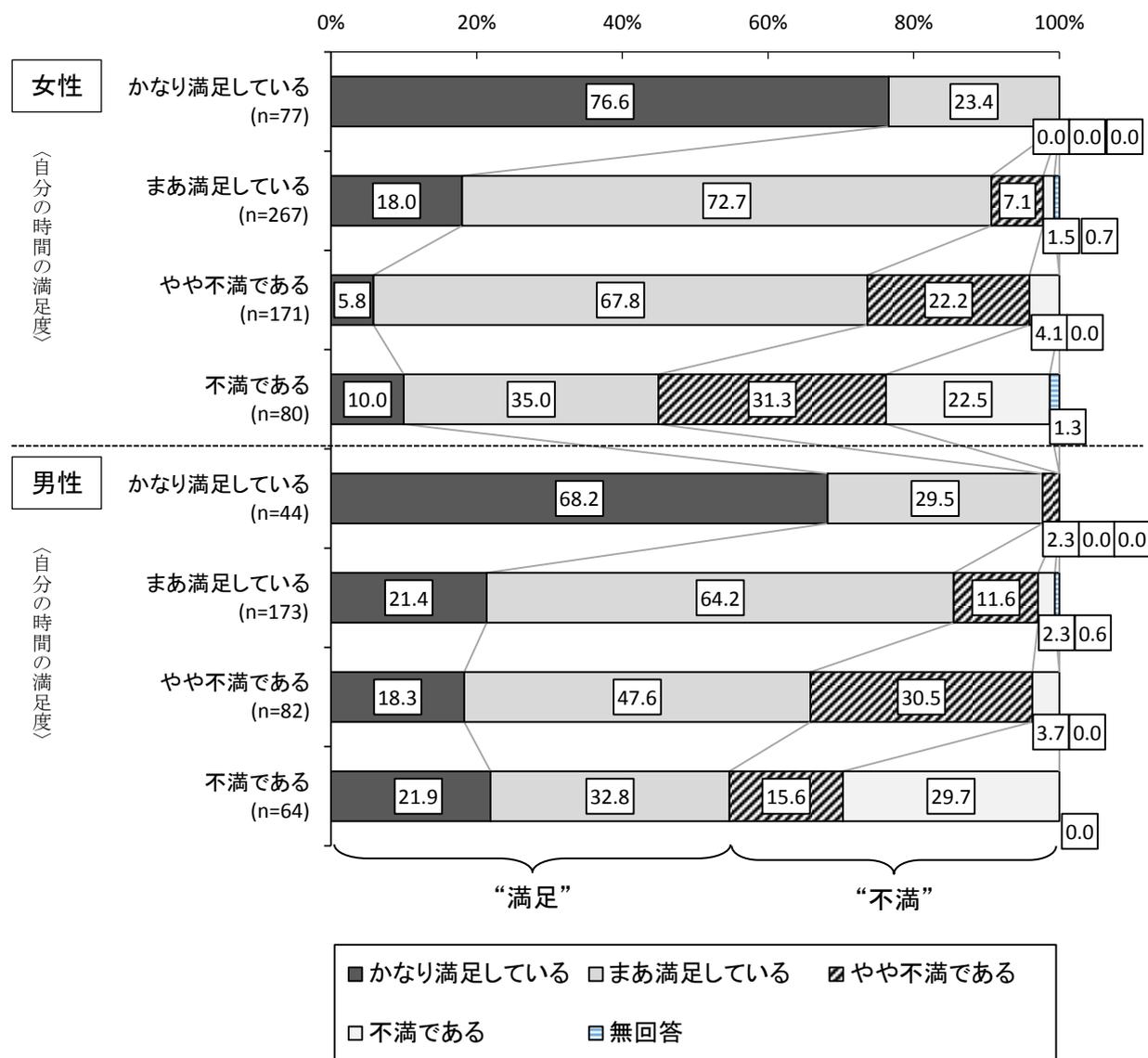
男女それぞれを最年少の子どもの成長段階別にみると、女性では“満足”が「小学生」で最も多く 82.1%、続いて「就学前」で 80.1%、「中学生以上」で 71.0%となっている。男性では、子どもの成長段階が低いほど、家庭の満足度が多い傾向が表れ、「就学前」で 88.0%に達している。 【図表 1-11 参照】

図表 1-11 (B) 家庭の満足度(性別・最年少の子どもの成長段階別)



〈自分の時間の満足度〉の回答別（P.27 参照）にみると、男女ともに自分の時間の満足度が多い人ほど、家庭の満足度が多い傾向がみられ、自分の時間に「かなり満足している」人では女性で 100.0%、男性で 97.7%が家庭に“満足”と回答している。 【図表 1-12 参照】

図表 1-12 (B) 家庭の満足度(性別・〈自分の時間の満足度〉の回答別)



(C) 自分の時間の満足度

男女ともに5割以上が自分の時間について“満足”と回答。

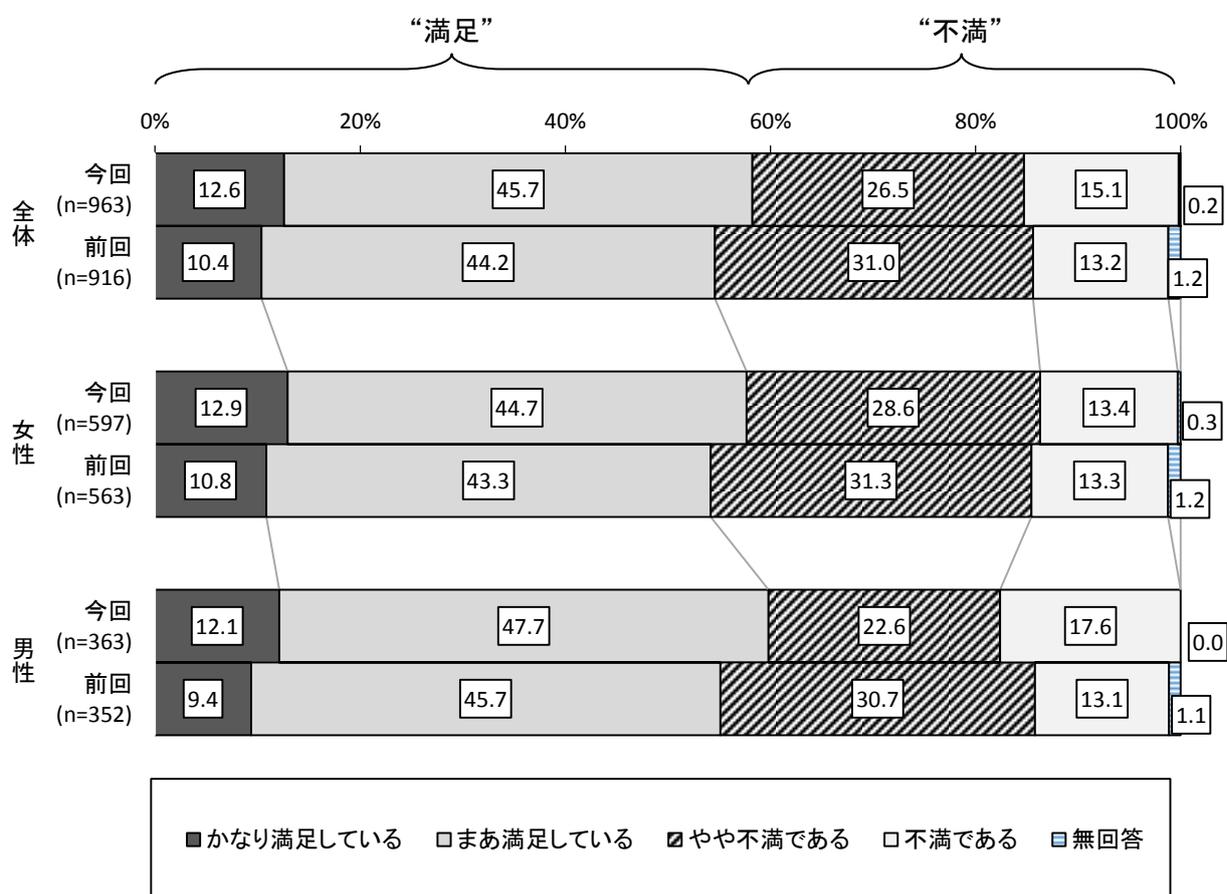
全体では、「かなり満足している」、「まあ満足している」の両者を合わせた“満足”は58.3%である。

性別で見ると、“満足”は女性が57.6%、男性が59.8%で、性別による大きな差はみられない。

前回調査と比較すると、全体、女性、男性いずれも“満足”が増加している。

【図表 1-13 参照】

図表 1-13 (C)自分の時間の満足度(全体、性別、前回比較)

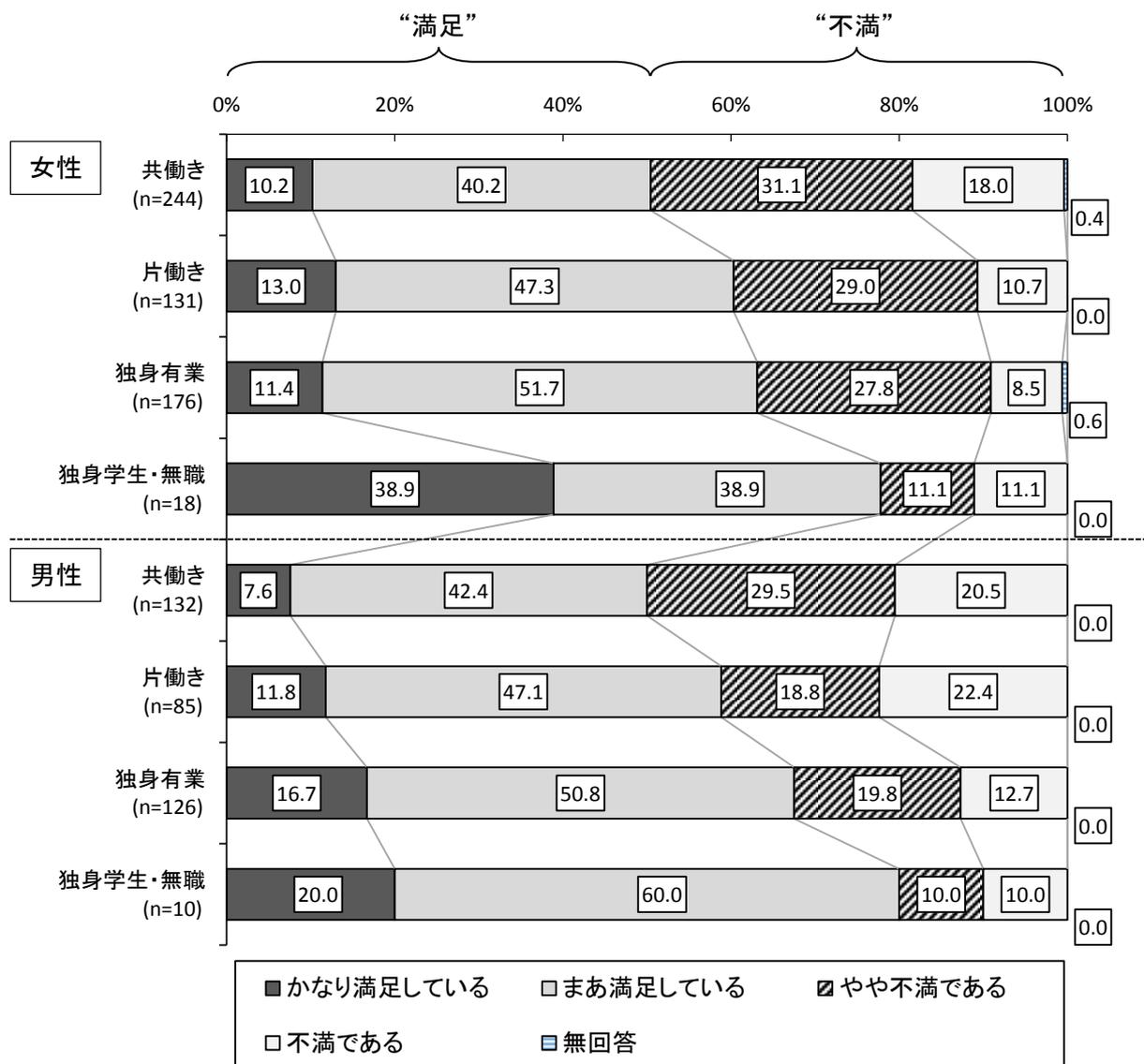


男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、「独身学生・無職」を除くと、男女ともに“満足”は「独身有業」（女性 63.1%、男性 67.5%）で最も多い。

一方、男女ともに「共働き」では“不満”が女性で 49.1%、男性で 50.0%である。

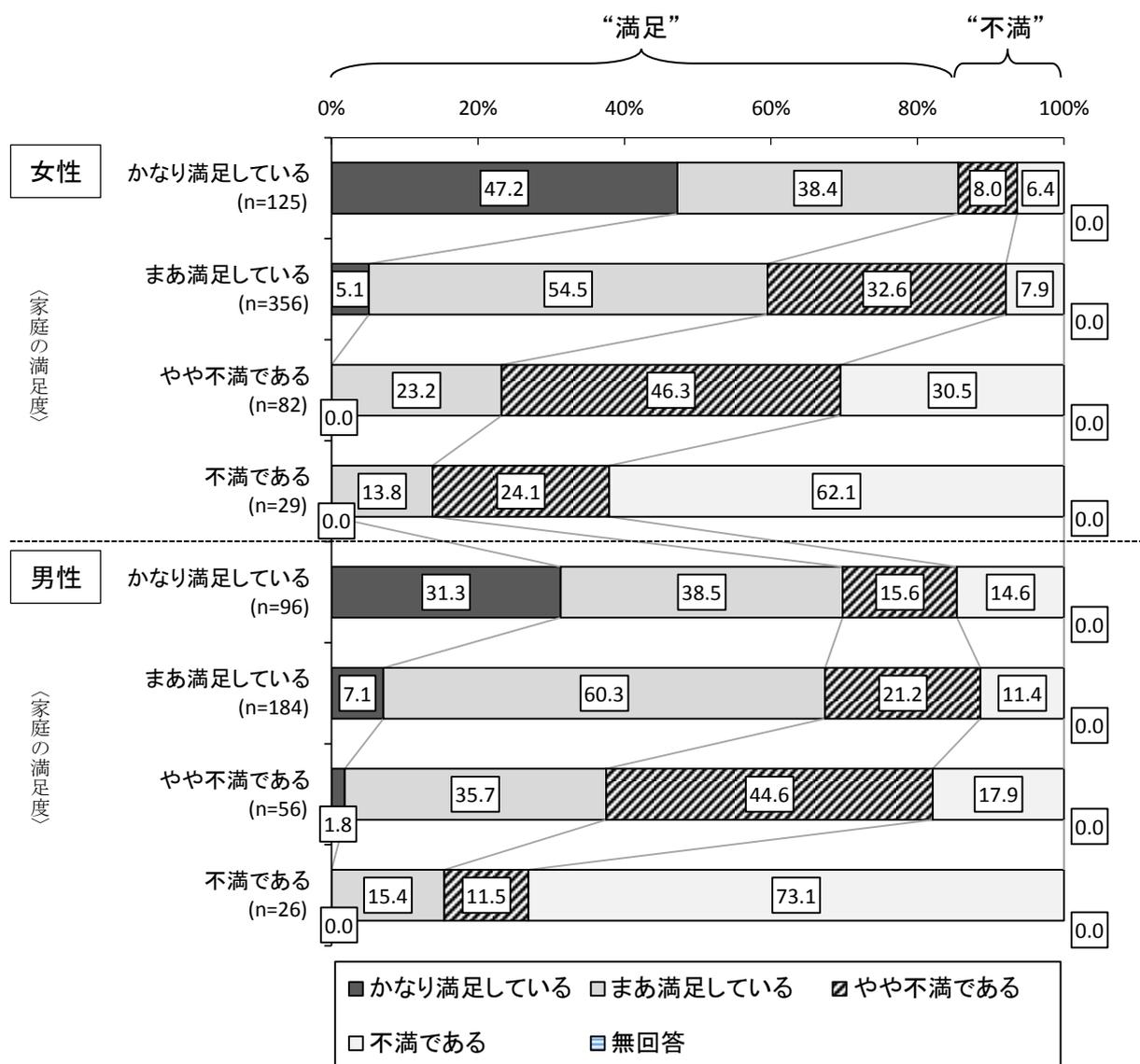
【図表 1-14 参照】

図表 1-14 (C) 自分の時間の満足度(性別・夫婦の働き方別)



〈家庭の満足度〉の回答別（P.23 参照）にみると、男女ともに、家庭の満足度が多い人ほど、自分の時間の満足度が多い傾向がみられる。家庭に「かなり満足している」人で自分の時間に“満足”は女性で 85.6%、男性で 69.8%と、女性の方が男性より 15.8 ポイント多い。 【図表 1-15 参照】

図表 1-15 (C) 自分の時間の満足度(性別・〈家庭の満足度〉の回答別)



(A) 仕事・(B) 家庭の満足度

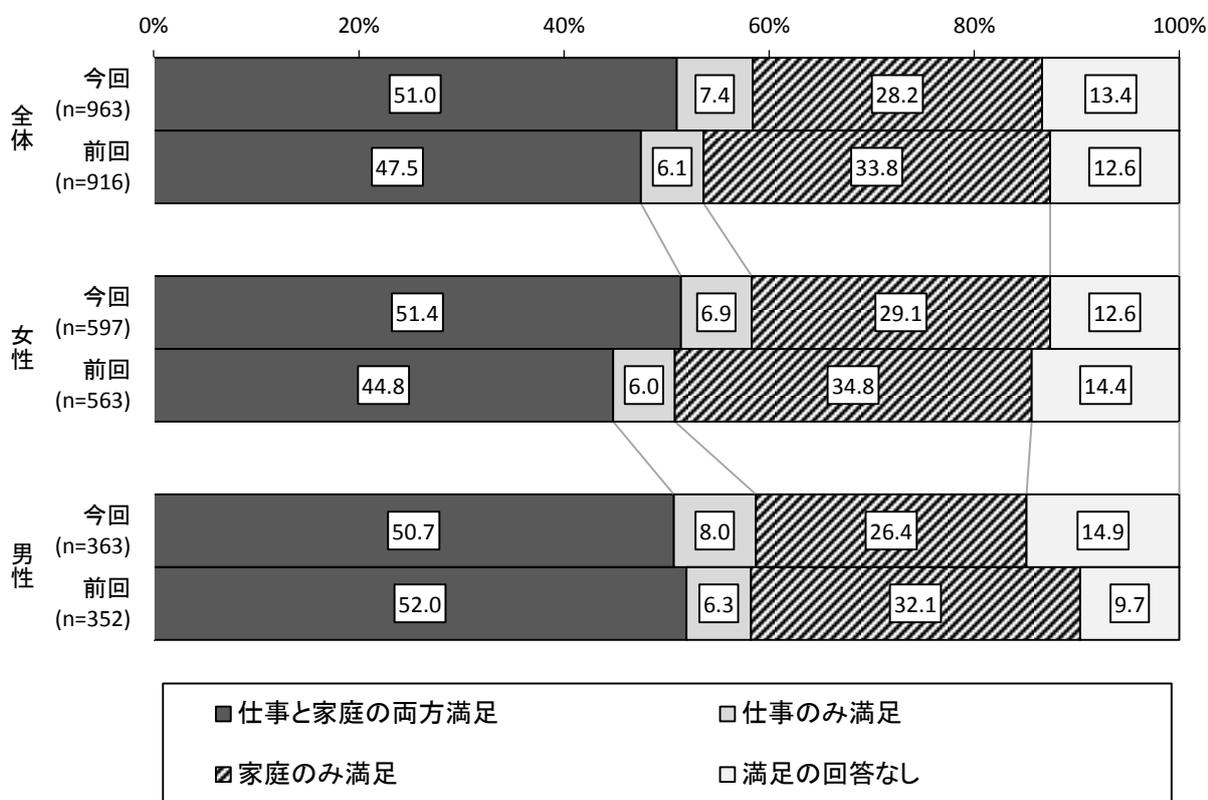
約5割が「仕事・家庭の両方満足」と回答。

全体では、「仕事・家庭の両方満足」は51.0%で最も多く、続いて「家庭のみ満足」は28.2%、「満足の回答なし」は13.4%、「仕事のみ満足」は7.4%である。

性別で見ると、「仕事・家庭の両方満足」は女性が51.4%、男性が50.7%で、大きな差はみられない。

前回調査と比較すると、女性で「仕事・家庭の両方満足」が6.6ポイント増加している。 【図表 1-16 参照】

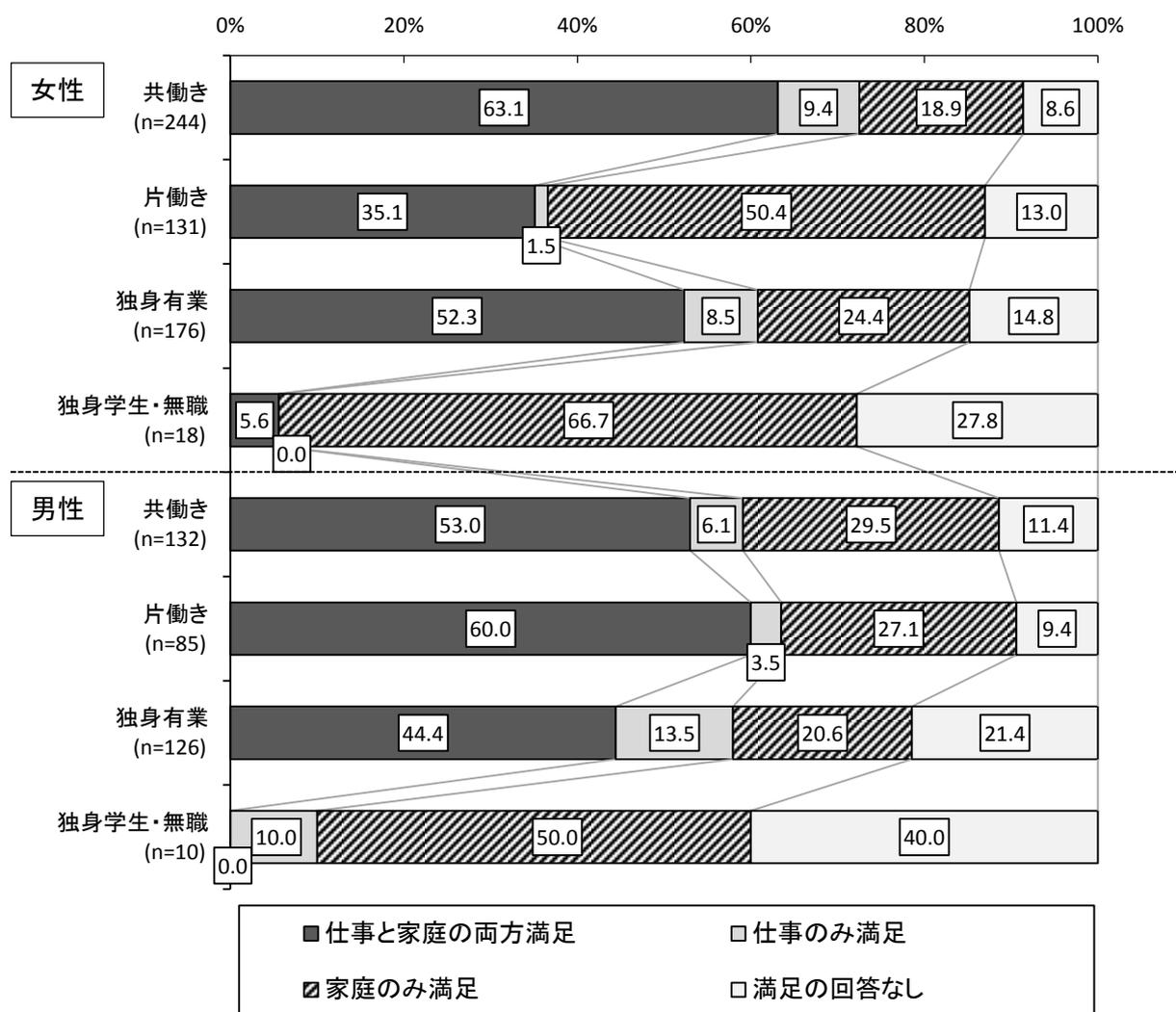
図表 1-16 (A)仕事・(B)家庭の満足度(全体、性別、前回比較)



注) 仕事と家庭の両方満足：仕事の満足度、家庭の満足度の項目でともに“満足”
 仕事のみ満足：仕事の満足度の項目のみ“満足”
 家庭のみ満足：家庭の満足度の項目のみ“満足”

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、女性では、「仕事・家庭の両方満足」は「共働き」(63.1%)で最も多い。男性では、「仕事・家庭の両方満足」は「片働き」(60.0%)で最も多い。
【図表 1-17 参照】

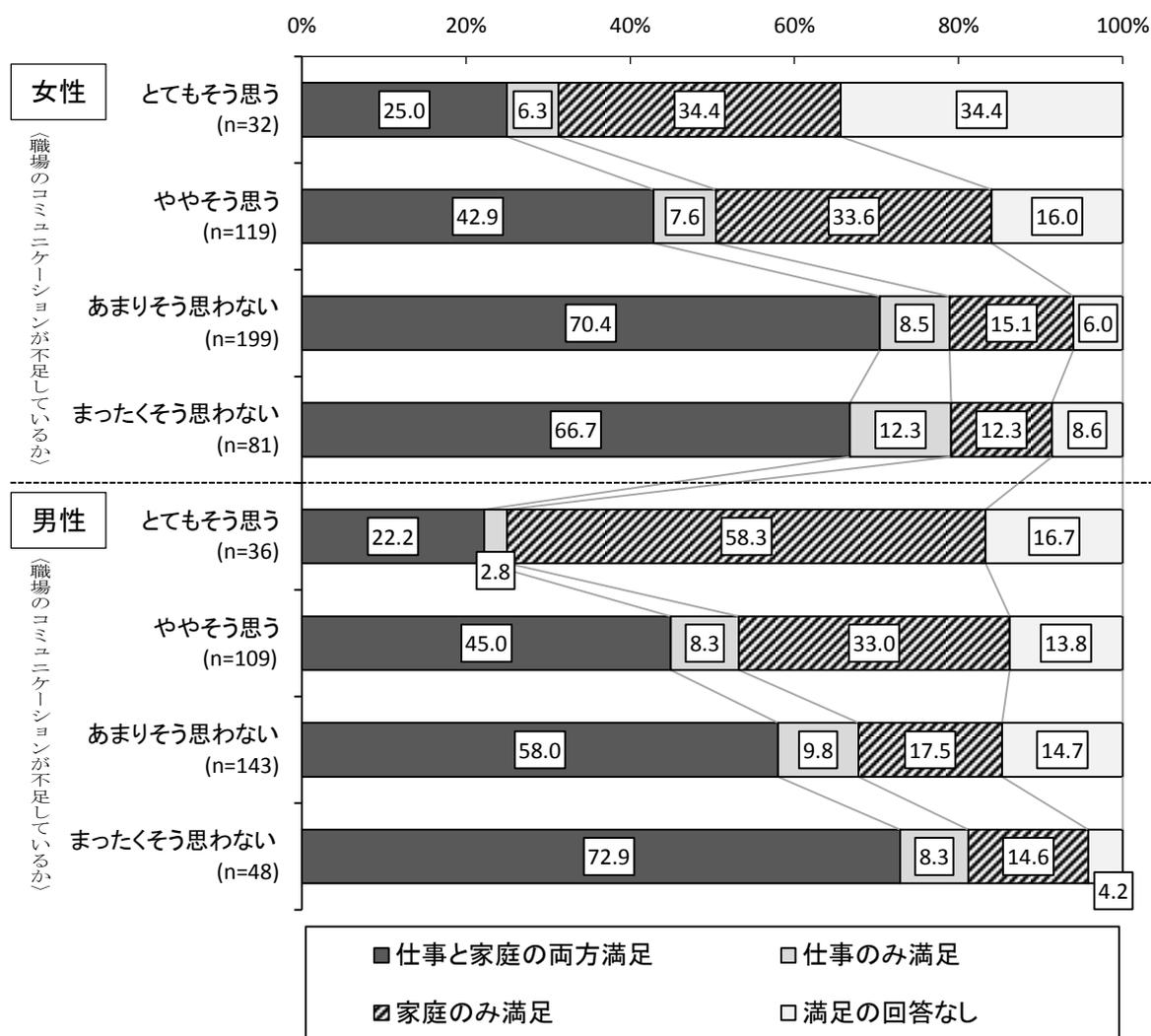
図表 1-17 (A)仕事・(B)家庭の満足度(性別・夫婦の働き方別)



男女それぞれを問 13 (A) <職場のコミュニケーション> (職場のコミュニケーションが不足しているか) の回答別 (P.57 参照) にみると、男女ともに、「まったくそう思わない」(女性 66.7%、男性 72.9%)、「あまりそう思わない」(女性 70.4%、男性 58.0%) で「仕事・家庭の両方満足」が多い。職場のコミュニケーションが不足していると感じている人ほど、「仕事・家庭の両方満足」が少ない傾向がみられる。

【図表 1-18 参照】

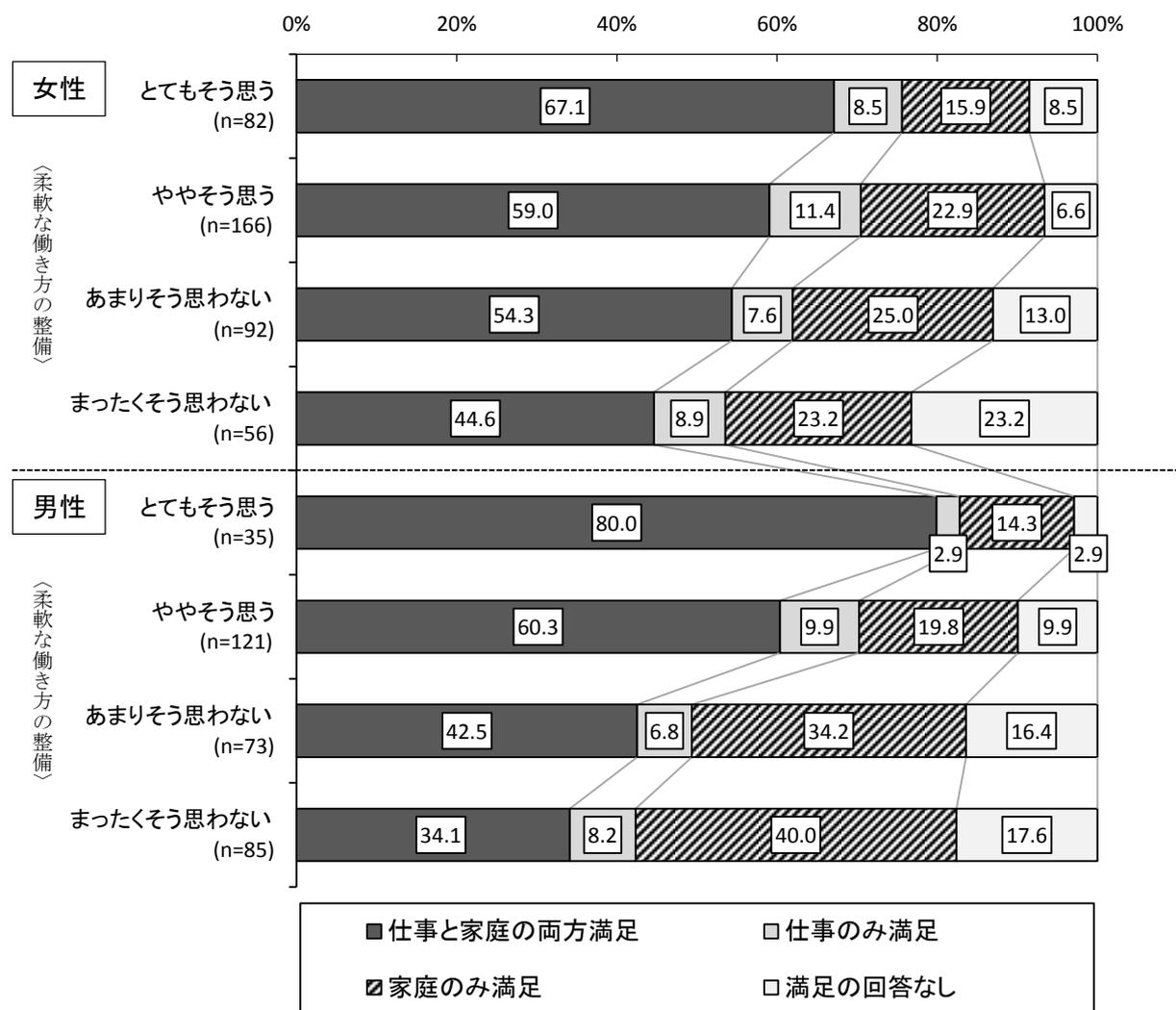
図表 1-18 (A)仕事・(B)家庭の満足度(性別・問 13(A)<職場のコミュニケーション>)の回答別



男女それぞれを問 13 (D) <柔軟な働き方の整備> (育児・介護休業制度や短時間勤務など、柔軟な働き方ができる制度が整備されているか) の回答別 (P.63 参照) にみると、男女ともに、柔軟な働き方が整備されていると思う人ほど「仕事・家庭の両方満足」の割合が多くなる傾向がみられる。「とてもそう思う」では、女性は 67.1%、男性は 80.0%で、男性の方が女性より 12.9 ポイント多い。

【図表 1-19 参照】

図表 1-19 (A)仕事・(B)家庭の満足度(性別・問 13(D)<柔軟な働き方の整備>の回答別)



(3) 女性が働くことについて

問3 女性が働く（仕事に就く）ことについて、あなたのお考えに近いものの番号に 1つ〇をつけてください。女性はご自分のこととして、男性は配偶者・パートナーのこと（いない場合は、一般的なお考え）をお答えください。

「(子どもができて、)ずっと働き続ける方がよい(以降、「継続就労型」と表記)」が4割以上で、前回調査より増加。特に男性では「継続就労型」が14.0ポイント増加。

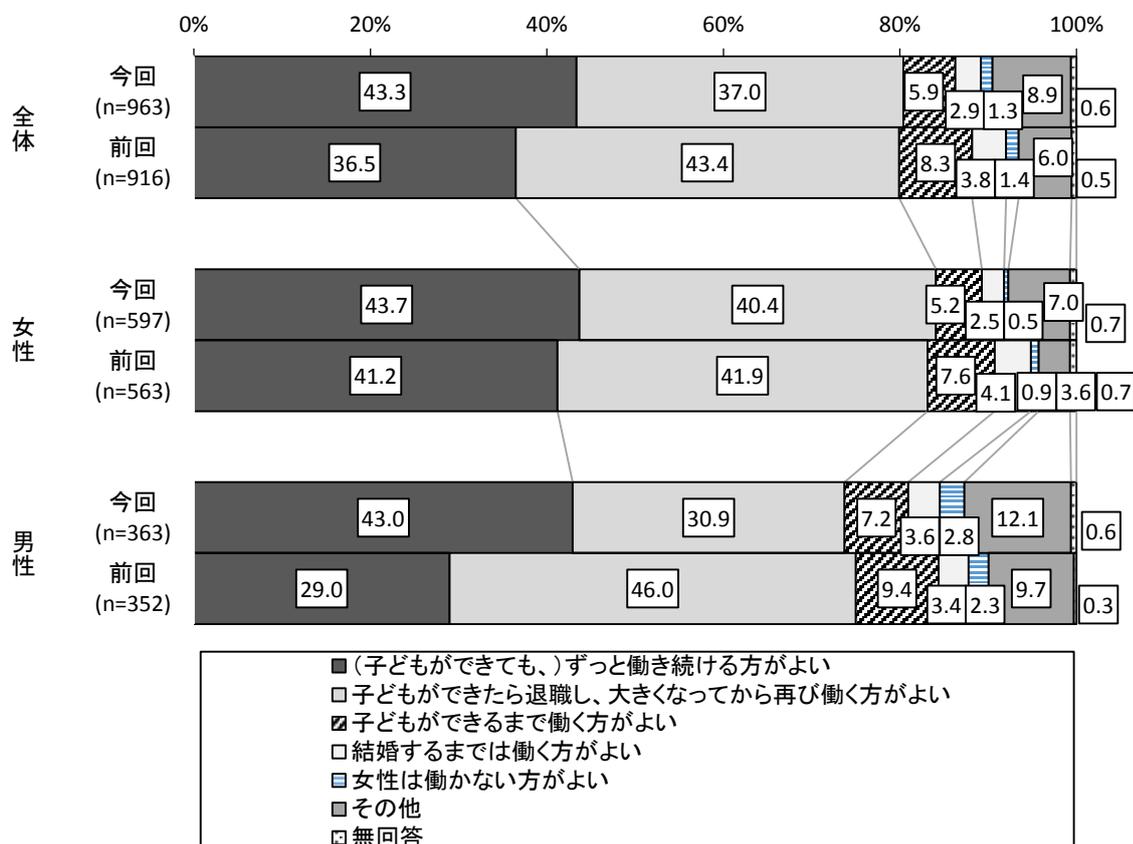
全体では、「継続就労型」(43.3%)が最も多く、続いて「子どもができたなら退職し、大きくなってから再び働く方がよい(以降、「一時中断型」と表記)」(37.0%)、「子どもができるまで働く方がよい」(5.9%)、「結婚するまでは働く方がよい」(2.9%)、「女性は働かない方がよい」(1.3%)である。

性別で見ると、「継続就労型」は女性が43.7%、男性が43.0%で、大きな差はみられない。一方、「一時中断型」は女性(40.4%)の方が男性(30.9%)より9.5ポイント多い。

前回調査と比較すると、男性では「一時中断型」が15.1ポイント減少し、「継続就労型」が14.0ポイント増加している。女性は大きな変化はみられない。

【図表 1-20 参照】

図表 1-20 女性が働くことについて(全体、性別、前回比較)

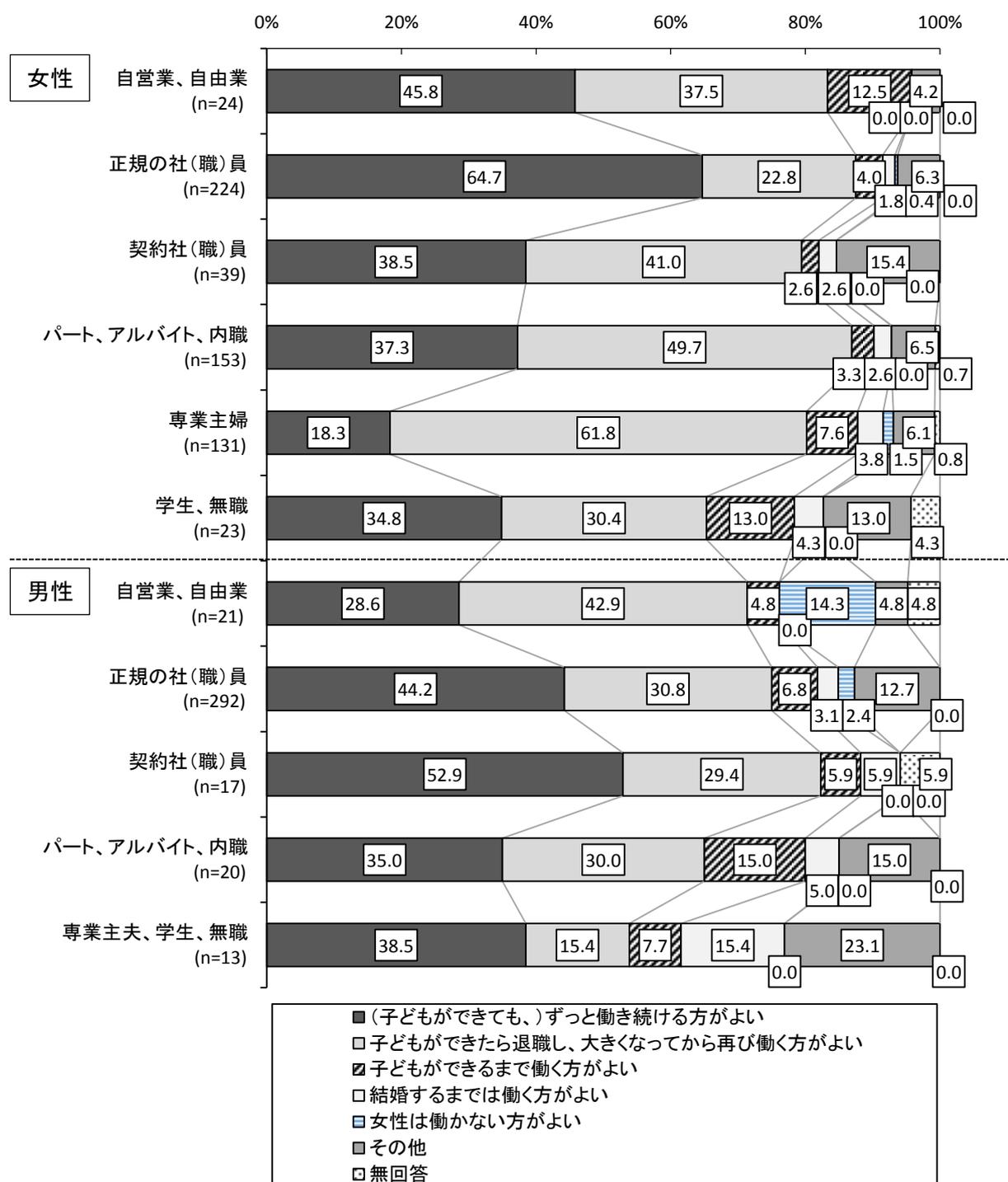


P.103 内閣府世論調査 資料①参照

男女それぞれを職業形態別にみると、女性で「一時中断型」が最も多いのは、「専業主婦」(61.8%)で、続いて、「パート、アルバイト、内職」(49.7%)、「契約社(職員)」(41.0%)である。一方、「正規の社(職)員」では「継続就労型」が64.7%と他の職業形態よりも多くなっている。男性では「自営業、自由業」以外の職業形態では「継続就労型」が最も多い。

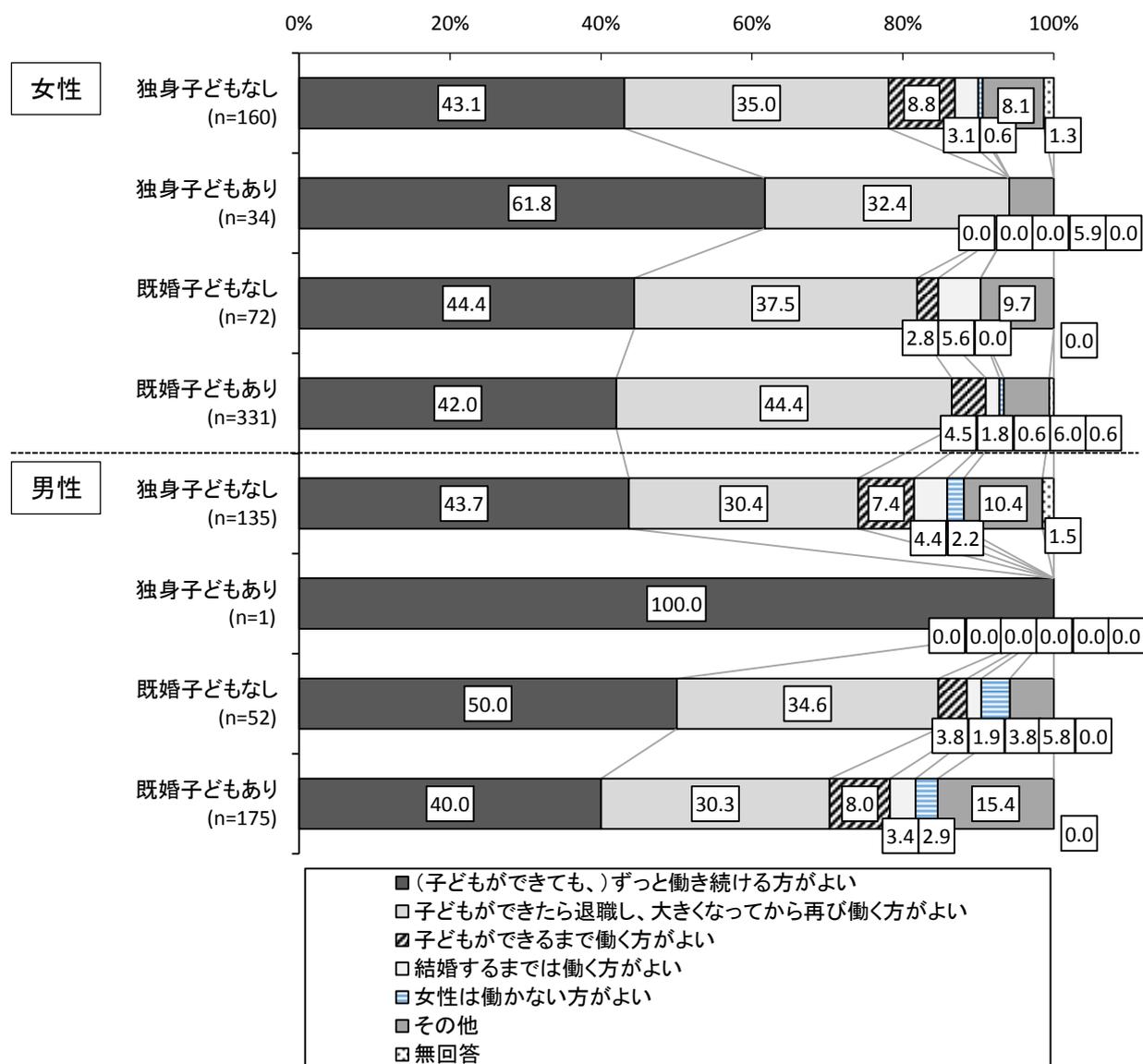
【図表 1-21 参照】

図表 1-21 女性が働くことについて(性別・職業形態別)



男女それぞれを結婚の有無・子どもの有無別にみると、女性では、「既婚子どもあり」は「一時中断型」(44.4%)が最も多いが、それ以外は「継続就労型」が多い。男性では、いずれも「継続就労型」が最も多くなっている。【図表 1-22 参照】

図表 1-22 女性が働くことについて(性別・結婚の有無・子どもの有無別)



2. 育児と介護

(1) 育児休業・介護休業の取得経験

問4 あなたは、これまで育児休業・介護休業を取得したことがありますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

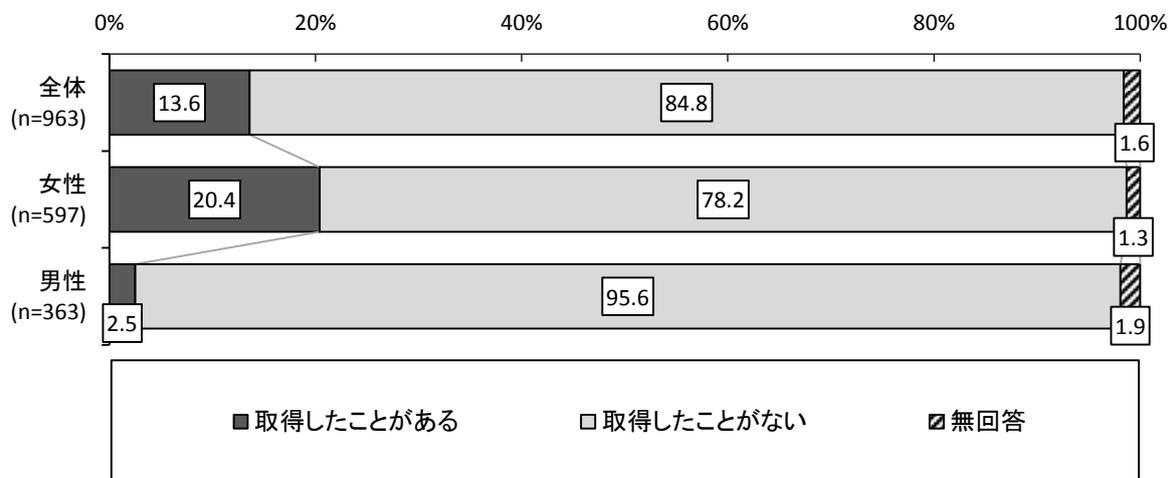
(A) 育児休業

育児休業を「取得したことがある」のは、女性で20.4%、男性で2.5%。

全体では、育児休業を「取得したことがある」が13.6%、「取得したことがない」が84.8%である。

性別で見ると、女性では「取得したことがある」が20.4%（122人）で、男性の2.5%（9人）に比べ17.9ポイント多い。男性の95.6%が「取得したことがない」と回答している。 【図表2-1 参照】

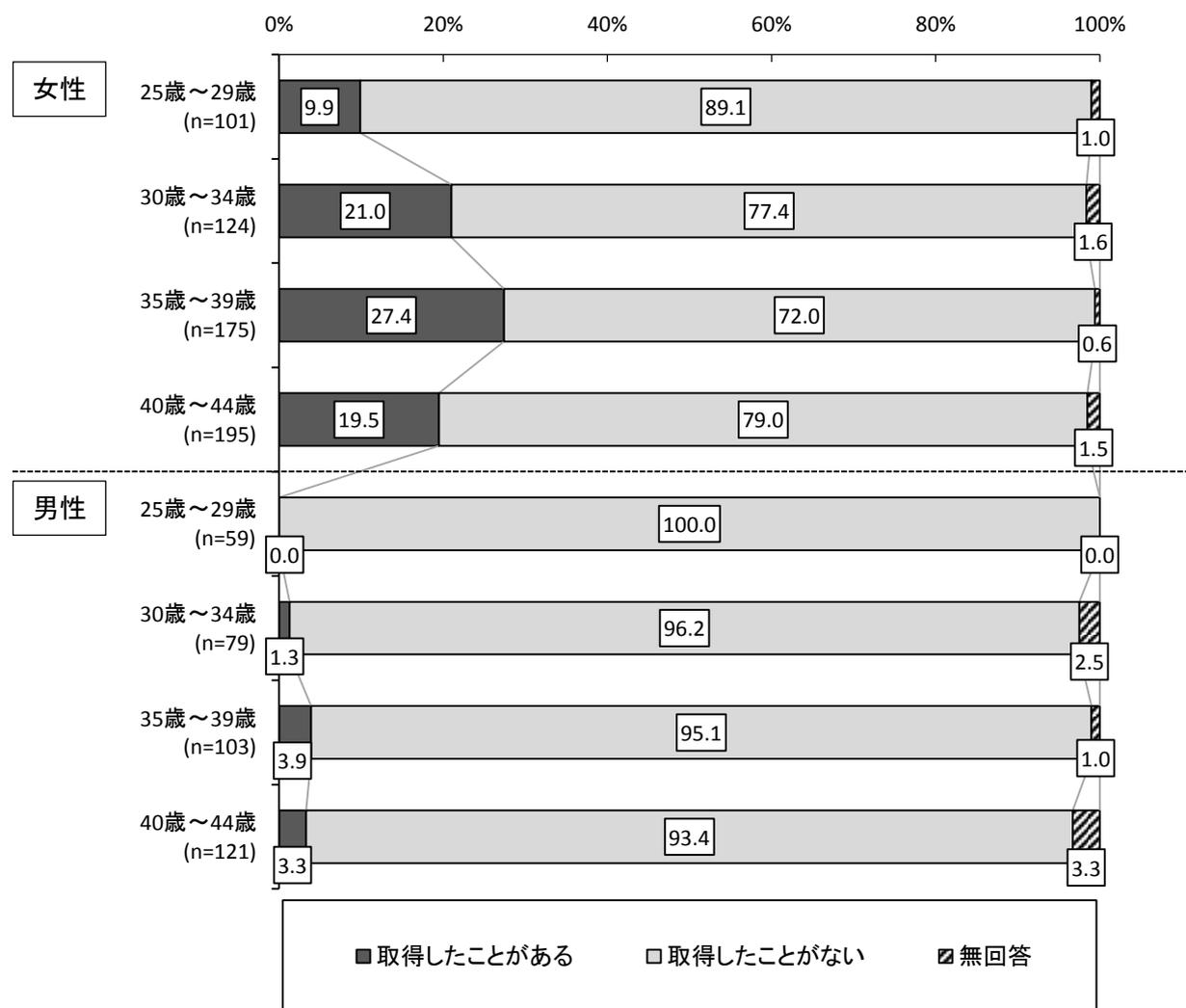
図表 2-1 育児休業の取得経験(全体、性別)



男女それぞれを年代別にみると、女性では「取得したことがある」は35歳～39歳で最も多く27.4%、続いて30歳～34歳で21.0%、40歳～44歳で19.5%である。男性では「取得したことがある」は35歳～39歳で3.9%、40歳～44歳で3.3%である。

【図表 2-2 参照】

図表 2-2 育児休業の取得経験(性別・年代別)



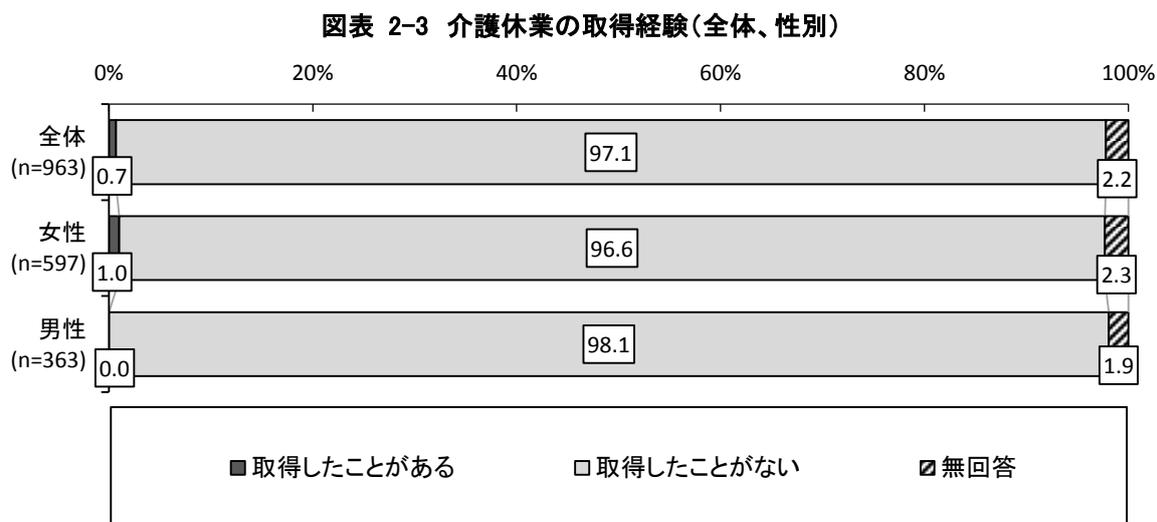
(B) 介護休業

介護休業を「取得したことがある」のは、女性で1.0%、男性は全くない。

全体では、介護休業を「取得したことがある」が0.7%、「取得したことがない」が97.1%である。

性別で見ると、女性では「取得したことがある」が1.0%（6人）で、男性では全くない。

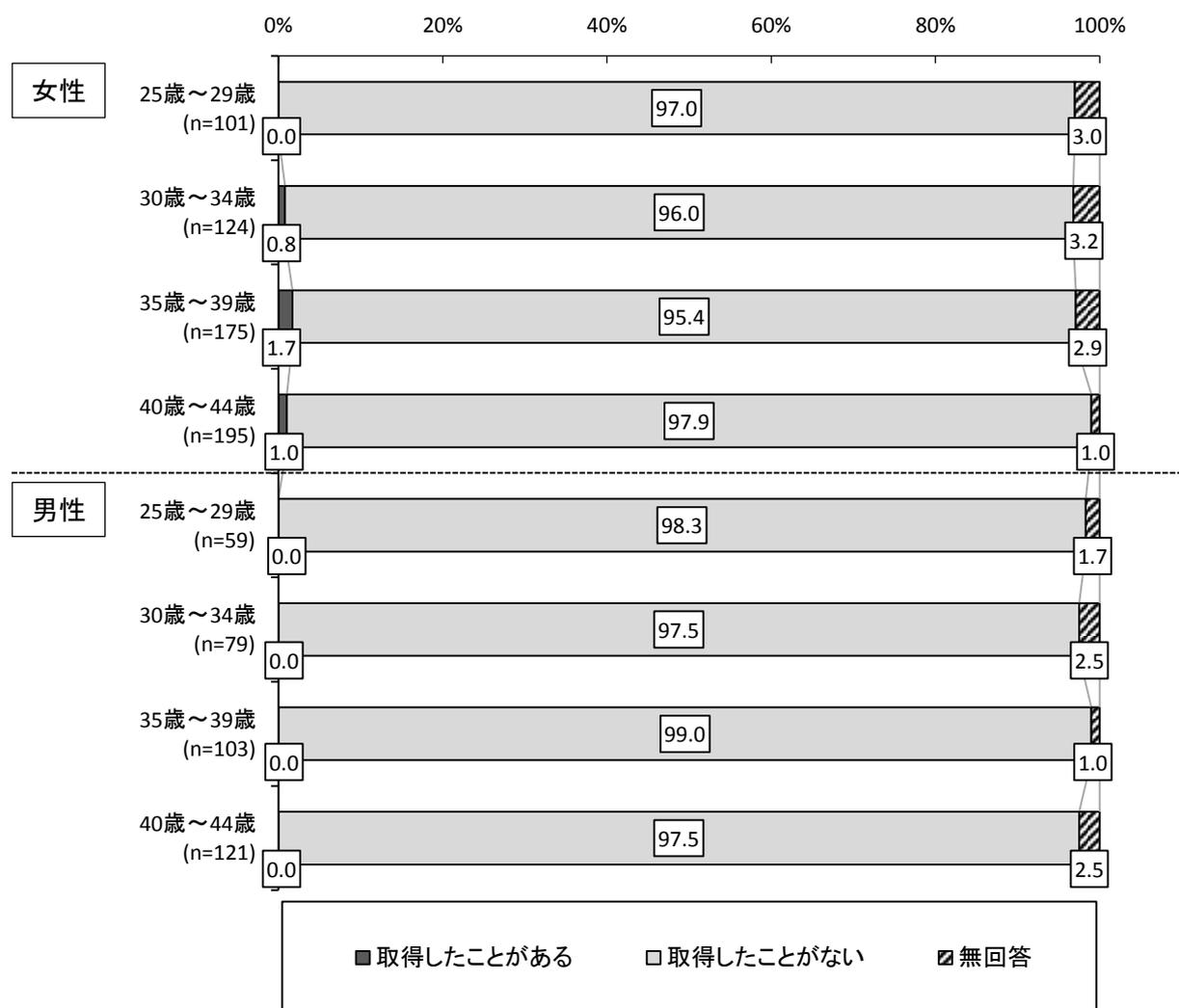
【図表 2-3 参照】



男女それぞれを年代別にみると、女性では「取得したことがある」は35歳～39歳で最も多く1.7%、続いて40歳～44歳で1.0%、30歳～34歳で0.8%である。

【図表 2-4 参照】

図表 2-4 介護休業の取得経験(性別・年代別)



(2) 男性が育児休業を取得することについて

問5 男性が育児休業を取得することについて、あなたのお考えに近いものの番号に1つ〇をつけてください。

男性はご自分のことについて、女性は配偶者・パートナーのこと（いない場合は、一般的なお考え）についてお答えください。

約6割が「取得したいが、現実的には難しい（だろう）」と回答。

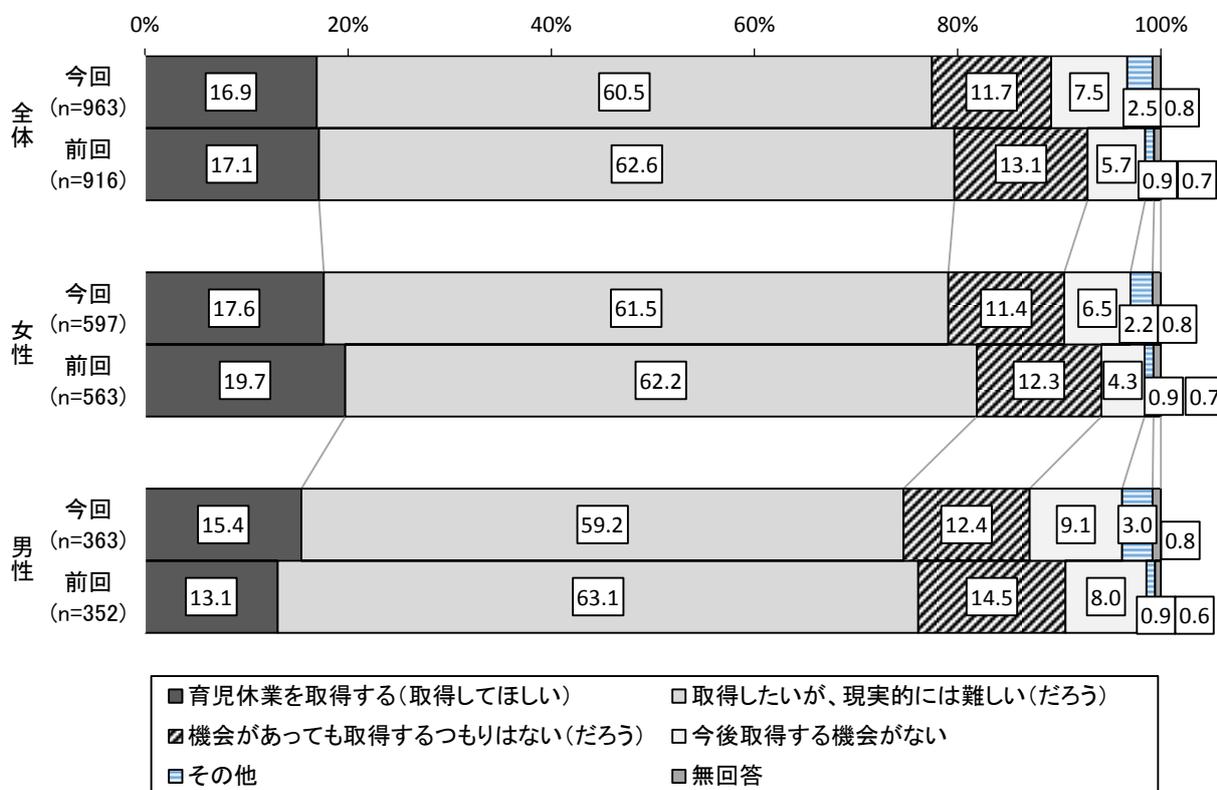
全体では、「取得したいが、現実的には難しい（だろう）（以降、「取得したいが難しい」と表記）」が60.5%で最も多い。続いて、「育児休業を取得する（取得してほしい）（以降、「取得する」と表記）」（16.9%）、「機会があっても取得するつもりはない（だろう）（以降、「取得するつもりはない」と表記）」（11.7%）である。

性別で見ると、男女ともに「取得したいが難しい」（女性61.5%、男性59.2%）が最も多い。また、「取得する」は女性で17.6%、男性で15.4%である。

前回調査と比較すると、男性では「取得したいが難しい」が3.9ポイント減少している。女性では、大きな変化はみられない。

【図表2-5 参照】

図表 2-5 男性の育児休業取得について(全体、性別、前回比較)



(3) 男性が育児休業を取得しない・するのが難しい理由

問6 <問5で2、3を選んだ方にお聞きします。>

その理由は何ですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

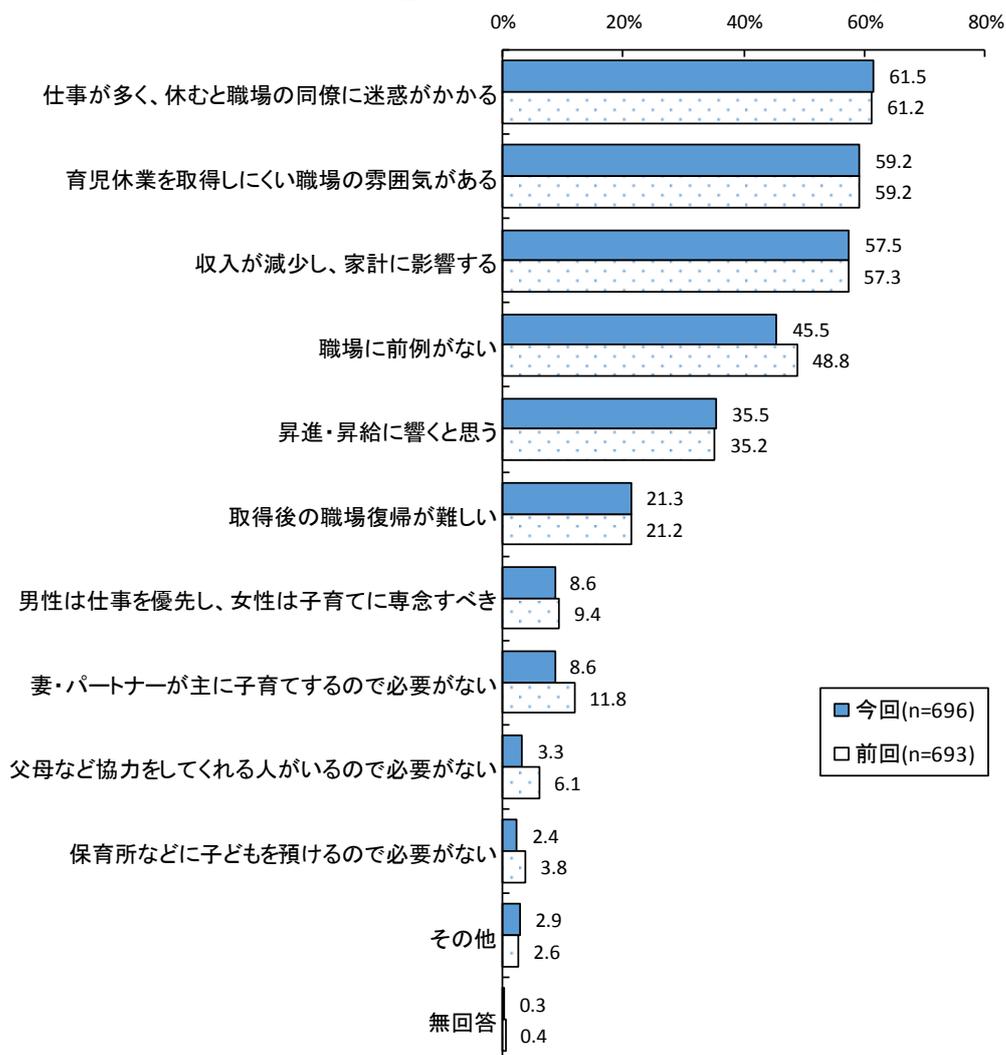
「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」が最も多く、6割以上。

問5で育児休業を「取得するつもりはない」「取得するのが難しい」と回答した人（696人）に、その理由について尋ねたところ、**全体**では、「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」（61.5%）が最も多く、続いて、「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある」（59.2%）、「収入が減少し、家計に影響する」（57.5%）、「職場に前例がない」（45.5%）である。

前回調査と大きな変化はみられない。

【図表 2-6 参照】

図表 2-6 男性が育児休業を取得しない・するのが難しい理由(全体、前回比較)

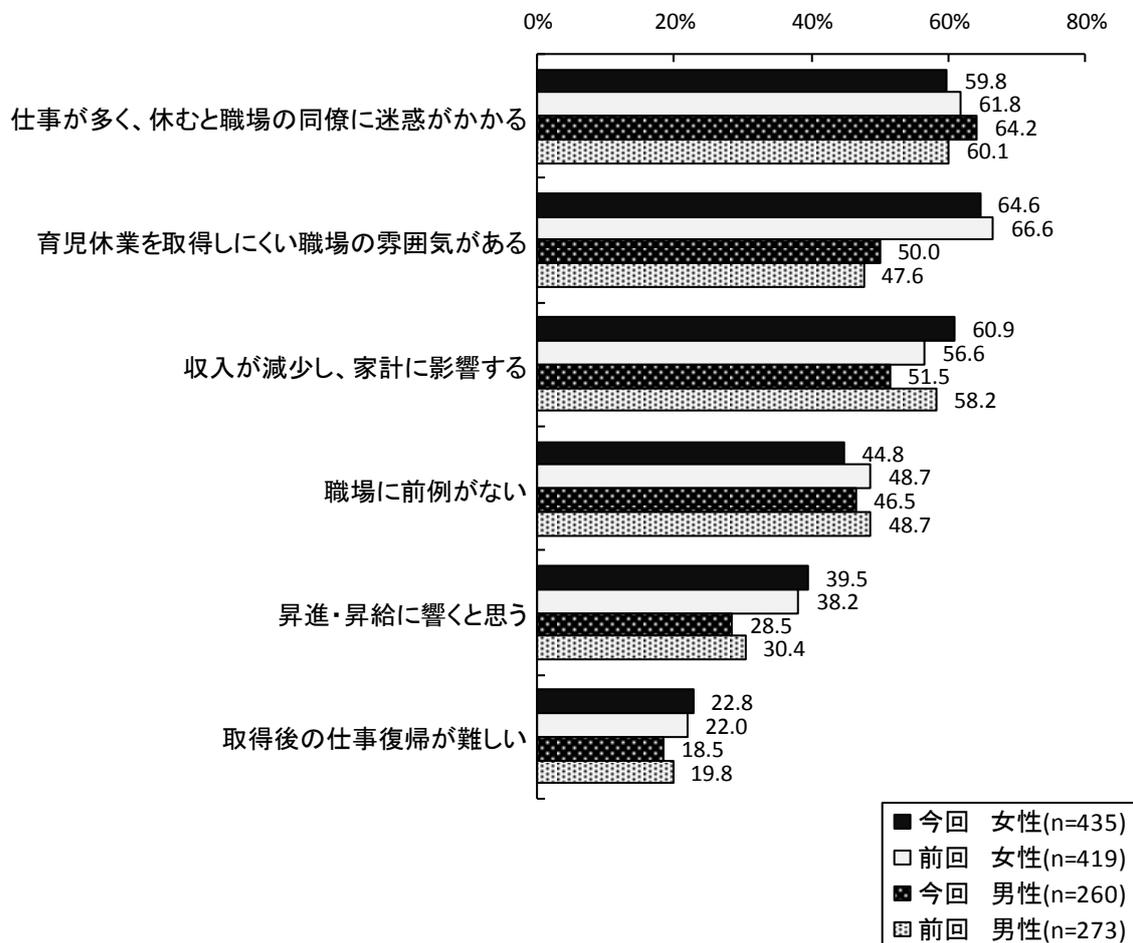


性別でみると、女性では「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある」(64.6%)、男性では「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」(64.2%)が最も多い。続いて、男女とも「収入が減少し、家計に影響する」(女性 60.9%、男性 51.5%)である。

男女で差が大きく女性の方が男性より多いものは、「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある」で 14.6 ポイント、「昇進・昇給に響くと思う」で 11.0 ポイント、「収入が減少し、家計に影響する」で 9.4 ポイントである。

前回調査と比較すると、「収入が減少し、家計に影響する」が女性では 4.3 ポイント増加し、男性では 6.7 ポイント減少している。【図表 2-7 参照】

図表 2-7 男性が育児休業を取得しない・するのが難しい理由(上位 6 項目、性別、前回比較)



問5（男性が育児休業を取得することについて）の回答別（P.41 参照）にみると、女性では、「取得したいが難しい」理由として「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある」（69.5%）、「取得するつもりはない」では「収入が減少し、家計に影響する」（58.8%）が最も多い。男性では、「取得したいが難しい」理由として「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」（67.4%）が最も多く、「取得するつもりはない」では「収入が減少し、家計に影響する」、「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」（ともに48.9%）が最も多い。

【図表 2-8 参照】

図表 2-8 男性が育児休業を取得しない・するのが難しい理由(性別・問5の回答別)

		(%)												
		に仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる	育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある	収入が減少し、家計に影響する	職場に前例がない	昇進・昇給に響くと思う	取得後の仕事復帰が難しい	女性は子育てに専念すべき	男性は仕事を優先し、子育てはパートナーが主になる	妻・パートナーが必要がない	父母など協力をしてくれない	保育所などに子どもを預けるので必要がない	その他	無回答
全体		(n=696)	61.5	59.2	57.5	45.5	35.5	21.3	8.6	8.6	3.3	2.4	2.9	0.3
女性 (n=435)	取得したいが難しい	(n=367)	61.6	69.5	61.3	47.7	41.1	23.7	4.6	5.2	2.2	1.1	2.7	0.0
	取得するつもりはない	(n=68)	50.0	38.2	58.8	29.4	30.9	17.6	22.1	29.4	7.4	8.8	2.9	0.0
男性 (n=260)	取得したいが難しい	(n=215)	67.4	55.3	52.1	49.3	29.3	18.1	7.4	2.8	0.5	1.4	2.3	0.5
	取得するつもりはない	(n=45)	48.9	24.4	48.9	33.3	24.4	20.0	26.7	33.3	20.0	8.9	6.7	2.2

(4) 将来介護をする時の不安の有無

問7 <すべての方にお聞きします。>

あなたは、将来、親などの介護をすることに不安を感じますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

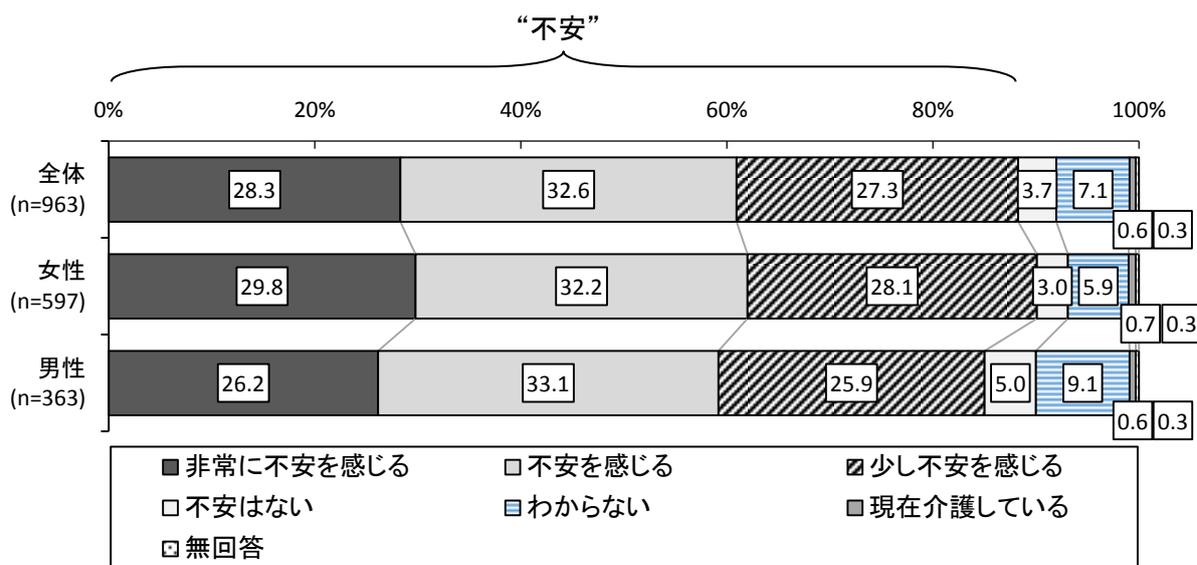
9割近くが「将来、親などの介護をすることに不安を感じる」と回答。

全体では、「非常に不安を感じる」、「不安を感じる」、「少し不安を感じる」を合わせた“不安”は88.2%である。一方、「不安はない」は3.7%である。

性別でみると、“不安”は女性（90.1%）の方が男性（85.2%）より4.9ポイント多くなっている。

【図表 2-9 参照】

図表 2-9 将来介護をする時の不安の有無(全体、性別)

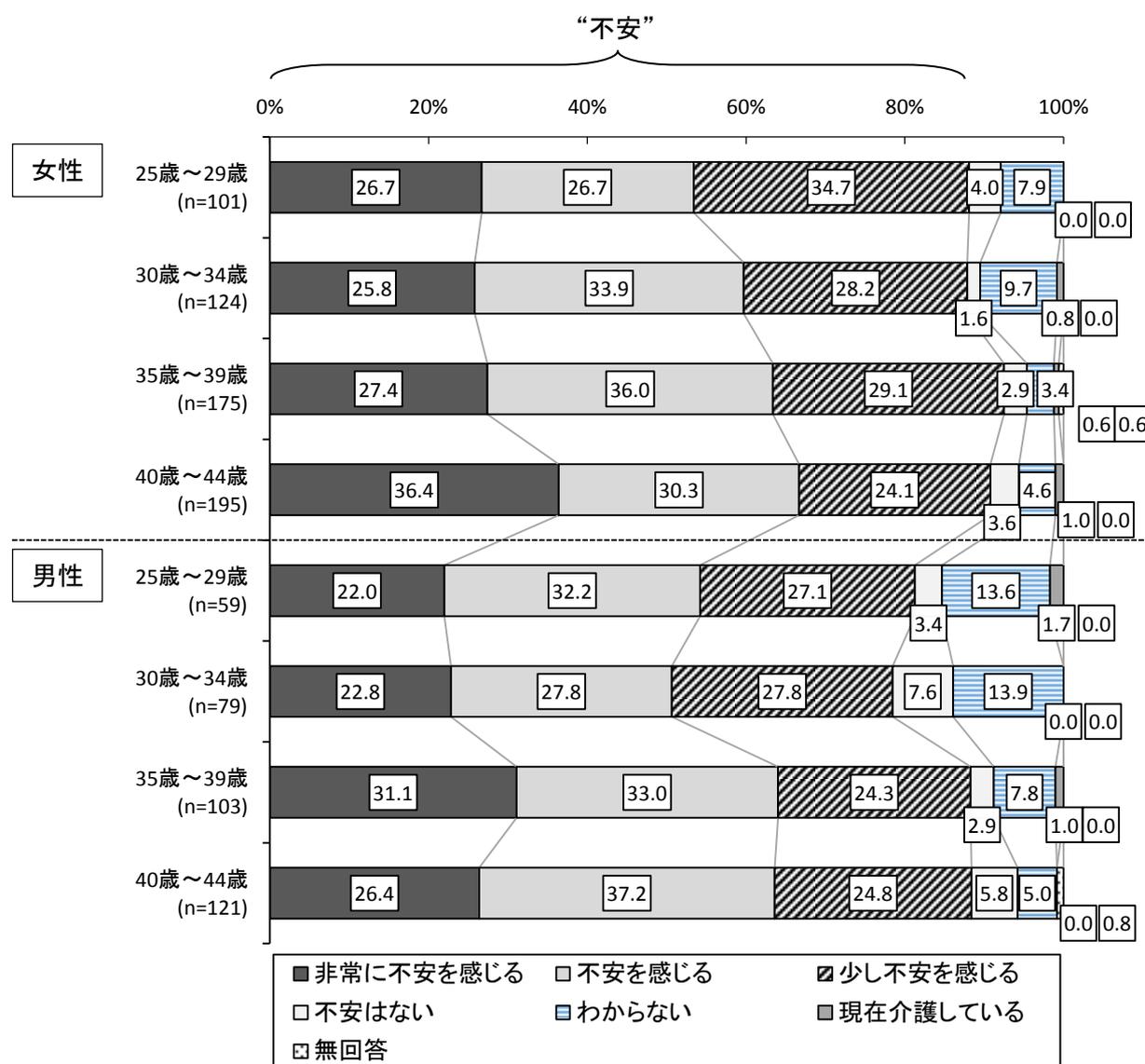


男女それぞれを年代別にみると、「非常に不安を感じる」が女性では40歳～44歳（36.4%）、男性では35歳～39歳（31.1%）で最も多い。40歳～44歳では、女性の方が男性（26.4%）より10.0ポイント多くなっている。

一方、「不安はない」は、女性では25歳～29歳（4.0%）、男性では30歳～34歳（7.6%）で最も多い。

【図表 2-10 参照】

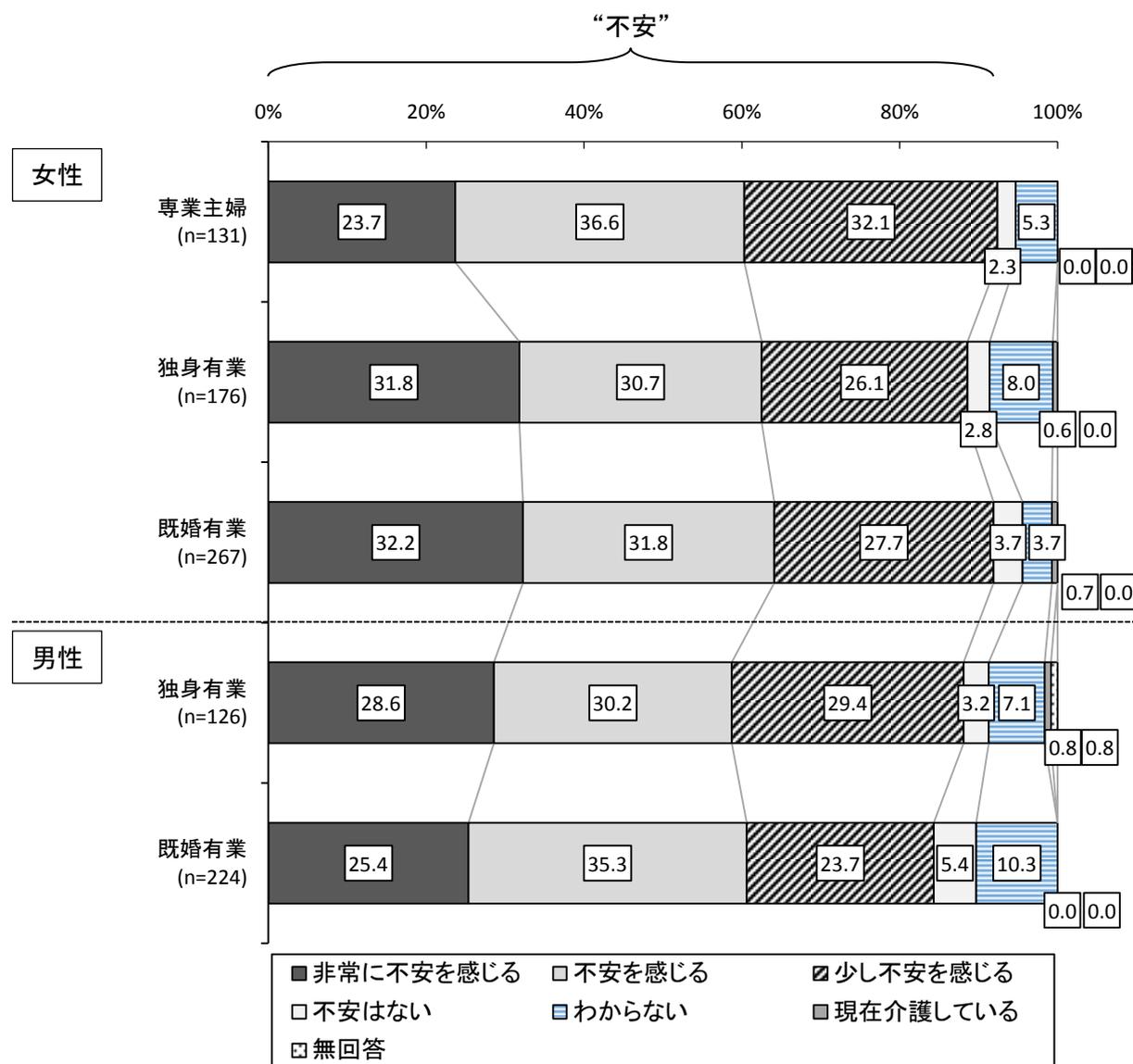
図表 2-10 将来介護をする時の不安の有無(性別・年代別)



男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、「非常に不安を感じる」は女性の「既婚有業」(32.2%)、「独身有業」(31.8%)で3割を超えている。男性では「独身有業」が28.6%、「既婚有業」が25.4%である。また、「独身有業」「既婚有業」ともに女性の方が男性より多い。

【図表 2-11 参照】

図表 2-11 将来介護をする時の不安の有無(性別・夫婦の働き方別)



(5) 介護の不安の内容

問8 現在、介護をしている場合、不安や困難を感じることは何ですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

※介護をしていない人は、そのような状況に直面したとして、お答えください。

「ストレスや精神的負担が大きいこと」が最も多く、7割半。

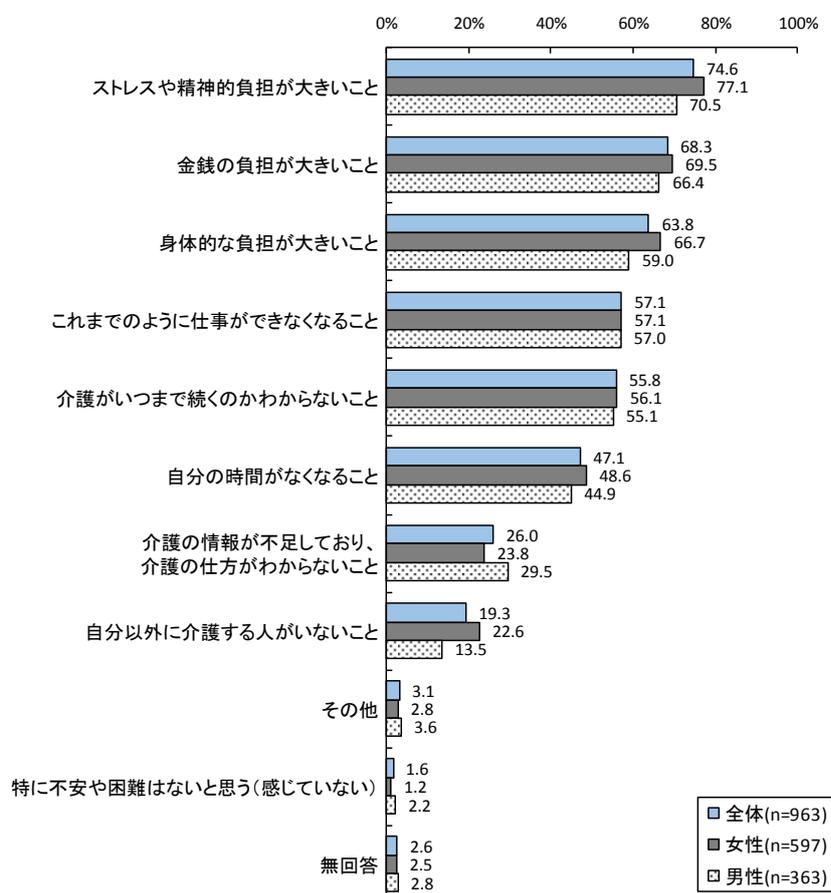
全体でみると、「ストレスや精神的負担が大きいこと」(74.6%)が最も多い。続いて「金銭の負担が大きいこと」(68.3%)、「身体的な負担が大きいこと」(63.8%)、「これまでのように仕事ができなくなること」(57.1%)である。

性別でみると、男女ともに「ストレスや精神的負担が大きいこと」(女性77.1%、男性70.5%)、「金銭の負担が大きいこと」(女性69.5%、男性66.4%)、「身体的な負担が大きいこと」(女性66.7%、男性59.0%)の順に多い。

男女間での差をみると、女性の方が男性より多いのは、「自分以外に介護する人がいないこと」で9.1ポイント、「身体的な負担が大きいこと」で7.7ポイント、「ストレスや精神的負担が大きいこと」で6.6ポイントである。一方、「介護の情報が不足しており、介護の仕方がわからないこと」では男性の方が女性より5.7ポイント多い。

【図表 2-12 参照】

図表 2-12 介護の不安の内容(全体、性別)



男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、男女ともに夫婦の働き方に関わらず「ストレスや精神的負担が大きいこと」が最も多い。続いて女性では「独身有業」と「既婚有業」で「金銭の負担が大きいこと」（順に 75.0%、69.3%）が多く、「専業主婦」では「身体的な負担が大きいこと」（68.7%）が多い。男性では「独身有業」「既婚有業」ともに「金銭の負担が大きいこと」（順に 68.3%、67.9%）が続く。性別に関わりなく、既婚、独身ともに精神的な負担、金銭的な負担を感じていることが表れている。

また、男女の「独身有業」を比較すると、「これまでのように仕事ができなくなる事」（女性 69.3%、男性 52.4%）では、女性の方が男性より 16.9 ポイント多い。男女の「既婚有業」を比較すると、「介護の情報が不足しており、介護の仕方がわからないこと」（女性 20.2%、男性 31.3%）では、男性の方が女性より 11.1 ポイント多い。

【図表 2-13 参照】

図表 2-13 介護の不安の内容(性別・夫婦の働き方別)

			大きいこと	金銭の負担が大きいこと	身体的な負担が大きいこと	これまでのように仕事ができなくなる事	介護がいつまで続くのかわからないこと	自分の時間がなくなる事	介護の仕方がわからず、介護の情報が不足しており、	自分以外に介護する人がいないこと	その他	特に不安や困難はないと思う（感じていない）	無回答
全体		(n=963)	74.6	68.3	63.8	57.1	55.8	47.1	26.0	19.3	3.1	1.6	2.6
女性 (n=574)	専業主婦	(n=131)	79.4	65.6	68.7	30.5	58.8	46.6	30.5	26.0	2.3	0.8	1.5
	独身有業	(n=176)	77.8	75.0	65.3	69.3	57.4	50.6	25.6	23.3	1.7	1.1	1.7
	既婚有業	(n=267)	76.4	69.3	67.8	63.3	55.1	49.8	20.2	21.7	4.1	1.5	2.2
男性 (n=350)	独身有業	(n=126)	71.4	68.3	60.3	52.4	54.0	52.4	29.4	19.8	4.0	2.4	1.6
	既婚有業	(n=224)	71.4	67.9	59.8	61.2	56.7	42.9	31.3	9.8	3.1	1.8	2.7

(6) 仕事と介護の両立に対する考え

問9 あなたは、仕事と介護の両立について、どのようにお考えですか。最も近いものについて、あてはまる番号に1つ○をつけてください。今現在、仕事をされていない方も、仕事をしていると仮定して、回答してください。
※介護をしていない人は、そのような状況に直面したと想定して、お答えください。

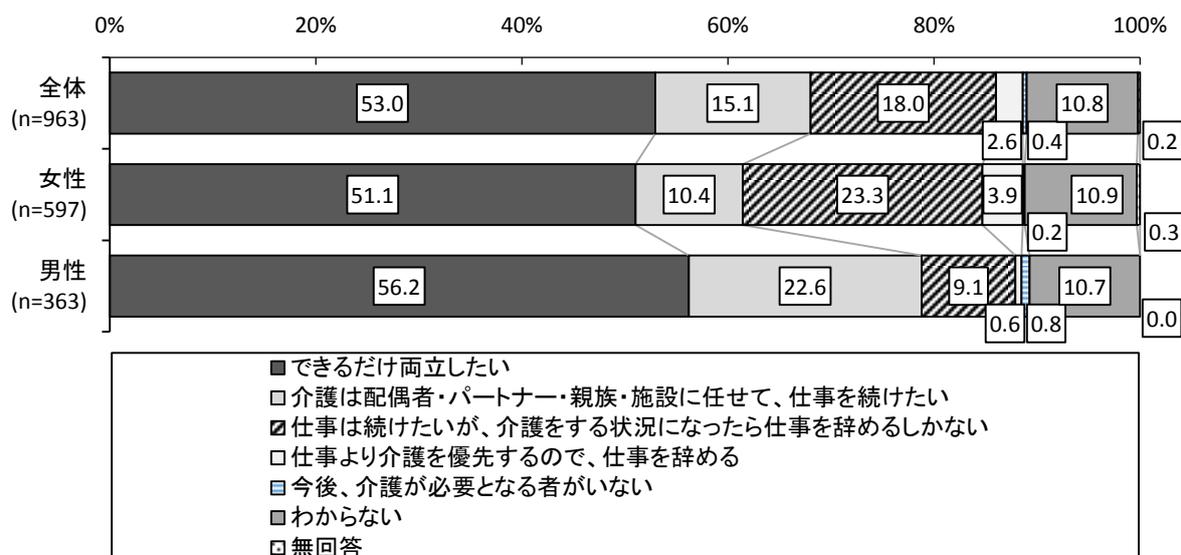
5割以上が「できるだけ両立したい」と回答。

全体では、「できるだけ両立したい」が53.0%で最も多く、続いて「仕事は続けたいが、介護をする状況になったら仕事を辞めるしかない」が18.0%、「介護は配偶者・パートナー・親族・施設に任せて、仕事を続けたい」が15.1%である。

性別で見ると、男女ともに「できるだけ両立したい」（女性51.1%、男性56.2%）が最も多い。続いて、女性では「仕事は続けたいが、介護をする状況になったら仕事を辞めるしかない」が23.3%、男性では「介護は配偶者・パートナー・親族・施設に任せて、仕事を続けたい」が22.6%である。「仕事は続けたいが、介護をする状況になったら仕事を辞めるしかない」（女性23.3%、男性9.1%）は、女性の方が男性より14.2ポイント多い。「介護は配偶者・パートナー・親族・施設に任せて、仕事を続けたい」（女性10.4%、男性22.6%）は、男性の方が女性より12.2ポイント多い。

【図表 2-14 参照】

図表 2-14 仕事と介護の両立に対する考え(全体、性別)



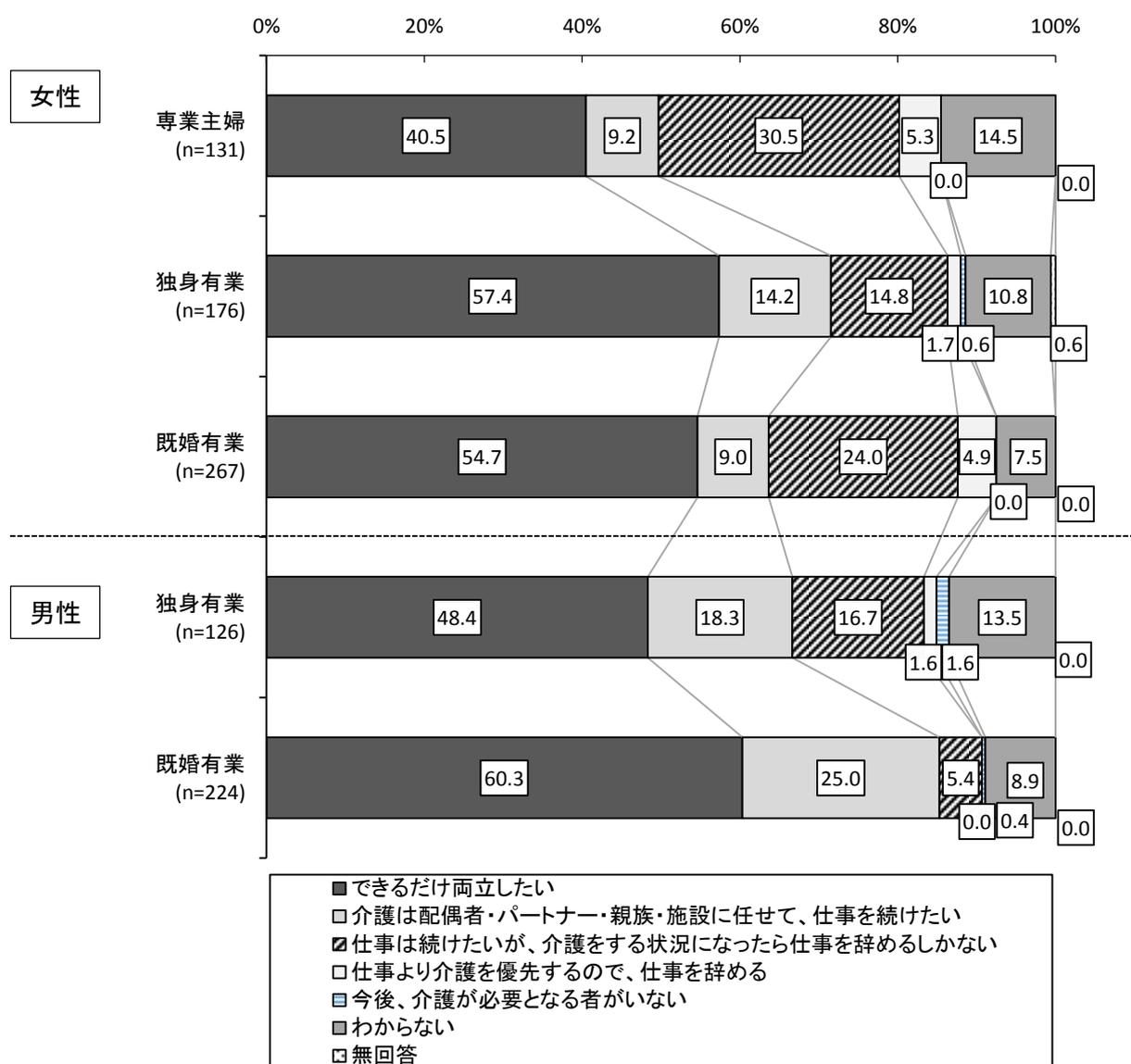
男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、男女ともに「できるだけ両立したい」が最も多く、女性では「独身有業」（57.4%）と「既婚有業」（54.7%）が多い。男性では「既婚有業」（60.3%）の方が「独身有業」（48.4%）より多い。

続いて、女性では「仕事は続けたいが、介護をする状況になったら仕事を辞めるしかない」が「専業主婦」（30.5%）、「既婚有業」（24.0%）が多い。男性では「介護は配偶者・パートナー・親族・施設に任せて、仕事を続けたい」が「既婚有業」（25.0%）、「独身有業」（18.3%）である。

また、男女の「独身有業」を比較すると、「できるだけ両立したい」（女性 57.4%、男性 48.4%）では、女性の方が男性より 9.0 ポイント多い。男女の「既婚有業」を比較すると、「仕事は続けたいが、介護をする状況になったら仕事を辞めるしかない」（女性 24.0%、男性 5.4%）では、女性の方が男性より 18.6 ポイント多い。

【図表 2-15 参照】

図表 2-15 仕事と介護の両立に対する考え（性別・夫婦の働き方別）



(7) 仕事と介護の両立に直面した場合の課題

問10 <仕事に就いている（F3で1～4、8を選んだ）方にお聞きします。>

あなたが仕事と介護の両立に直面した場合、職場では、どのような課題がありますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

「介護のために休むなどすると、同じ職場の人の業務量が増えてしまう」が最も多く、6割以上。

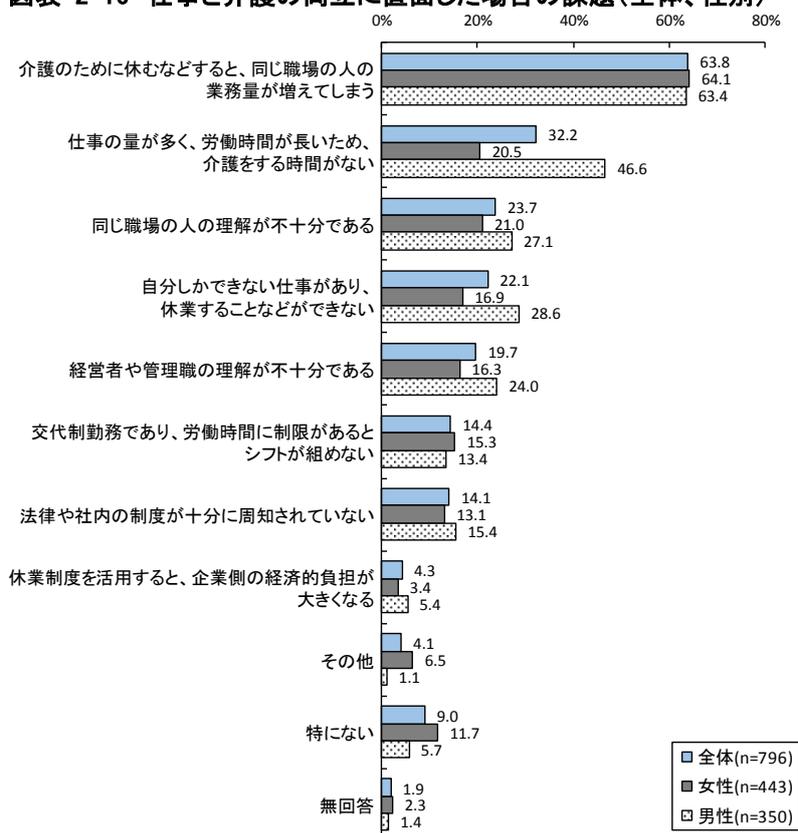
全体でみると、「介護のために休むなどすると、同じ職場の人の業務量が増えてしまう」（63.8%）が最も多い。続いて「仕事の量が多く、労働時間が長いため、介護をする時間がない」（32.2%）である。

性別でみると、男女ともに「介護のために休むなどすると、同じ職場の人の業務量が増えてしまう」（女性 64.1%、男性 63.4%）が最も多い。続いて、女性は「同じ職場の人の理解が不十分である」（21.0%）、「仕事の量が多く、労働時間が長いため、介護をする時間がない」（20.5%）である。男性は「仕事の量が多く、労働時間が長いため、介護をする時間がない」（46.6%）、「自分しかできない仕事があり、休業することなどができない」（28.6%）である。

男女間で最も大きな差がみられたものは、「仕事の量が多く、労働時間が長いため、介護をする時間がない」で、男性の方が女性より 26.1 ポイント多い。

【図表 2-16 参照】

図表 2-16 仕事と介護の両立に直面した場合の課題(全体、性別)



男女それぞれを職業形態別にみると、男女とも「正規の社（職）員」、「契約社（職）員」、「パート、アルバイト、内職」では「介護のために休むなどすると、同じ職場の人の業務量が増えてしまう」が最も多い。続いて、男女とも「正規の社（職）員」では「仕事の量が多く、労働時間が長いため、介護をする時間がない」（女性 32.6%、男性 49.0%）、「パート、アルバイト、内職」では「交代制勤務であり、労働時間に制限があるとシフトが組めない」（女性 21.6%、男性 40.0%）である。

また、「正規の社（職）員」を男女で比較すると、「仕事の量が多く、労働時間が長いため、介護する時間がない」は男性が女性より 16.4 ポイント多い。

【図表 2-17 参照】

図表 2-17 仕事と介護の両立に直面した場合の課題（性別・職業形態別）

		(%)														
		同じ職場の人の業務量が増える	介護をする時間がない	仕事の量が多く、労働時間が長い	同じ職場の人の理解が不十分である	休業することなどできない	自分しかできない仕事があり、	経営者や管理職の理解が不十分である	制限があるとシフトが組めない	交代制勤務であり、労働時間に	法律や社内の制度が十分に周知されて	負担が大きくなる	休業制度を活用すると、企業側の経済的	その他	特にな	無回答
全体 (n=796)		63.8	32.2	23.7	22.1	19.7	14.4	14.1	4.3	4.1	9.0	1.9				
女性 (n=440)	自営業、自由業 (n=24)	25.0	16.7	20.8	54.2	12.5	4.2	8.3	0.0	12.5	20.8	4.2				
	正規の社（職）員 (n=224)	75.0	32.6	24.1	19.2	20.5	13.4	12.9	4.5	4.5	4.5	1.3				
	契約社（職）員 (n=39)	66.7	15.4	23.1	15.4	15.4	10.3	17.9	7.7	17.9	7.7	2.6				
	パート、アルバイト、内職 (n=153)	54.9	5.2	16.3	8.5	11.1	21.6	13.1	1.3	5.9	20.9	2.6				
男性 (n=350)	自営業、自由業 (n=21)	23.8	42.9	9.5	66.7	23.8	0.0	9.5	4.8	4.8	0.0	9.5				
	正規の社（職）員 (n=292)	67.8	49.0	27.1	27.4	22.3	12.0	15.8	4.8	0.7	5.5	0.3				
	契約社（職）員 (n=17)	52.9	23.5	52.9	17.6	52.9	23.5	17.6	5.9	0.0	5.9	11.8				
	パート、アルバイト、内職 (n=20)	50.0	35.0	25.0	15.0	25.0	40.0	15.0	15.0	5.0	15.0	0.0				

(8) 企業における仕事と介護の両立支援として重要だと思うこと

問11 <仕事に就いている（F3で1～4、8を選んだ）方にお聞きします。>

あなたは、企業・事業所における仕事と介護の両立支援として、どのようなことが重要とお考えですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。介護経験のない方は、そのような状況に直面した場合を想像してお答えください。

「制度を利用しやすい職場づくりをすること」が最も多く、7割近い。

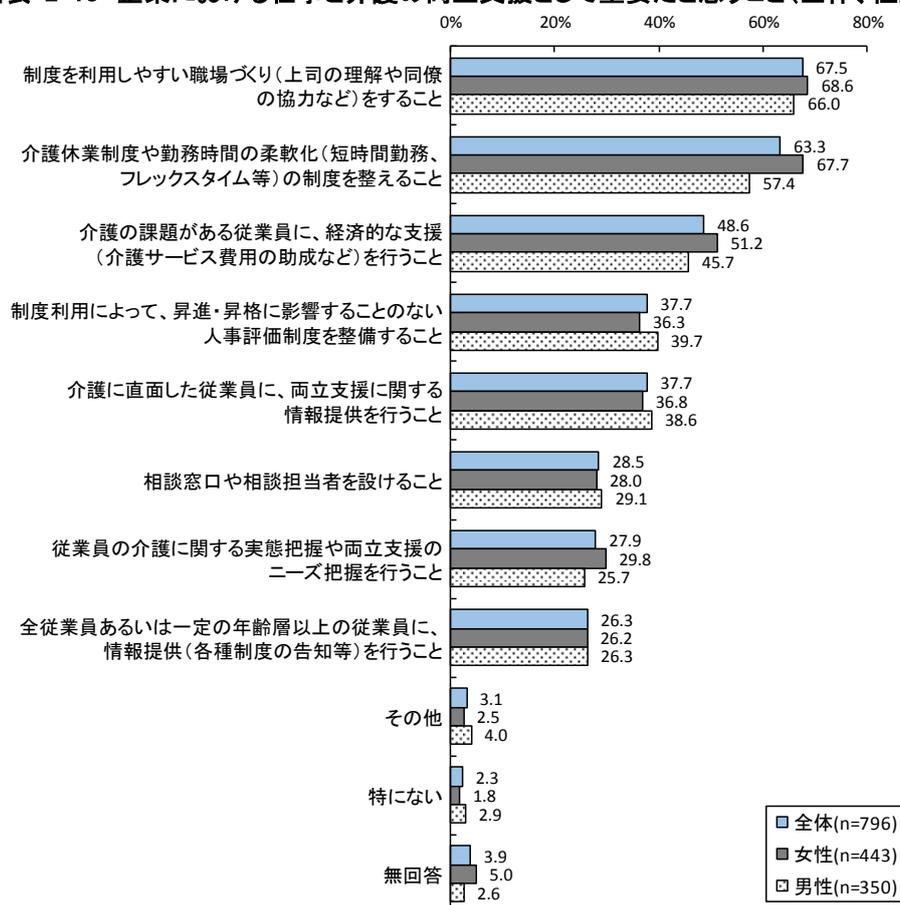
全体でみると、「制度を利用しやすい職場づくり（上司の理解や同僚の協力など）をすること」（67.5%）が最も多い。続いて、「介護休業制度や勤務時間の柔軟化（短時間勤務、フレックスタイム等）の制度を整えること」（63.3%）である。

性別でみると、男女ともに「制度を利用しやすい職場づくり（上司の理解や同僚の協力など）をすること」（女性68.6%、男性66.0%）が最も多く、続いて、「介護休業制度や勤務時間の柔軟化（短時間勤務、フレックスタイム等）の制度を整えること」（女性67.7%、男性57.4%）である。

男女間で最も大きな差がみられたものは、「介護休業制度や勤務時間の柔軟化（短時間勤務、フレックスタイム等）の制度を整えること」で、女性の方が男性より10.3ポイント多い。

【図表 2-18 参照】

図表 2-18 企業における仕事と介護の両立支援として重要だと思うこと(全体、性別)



男女それぞれを結婚の有無別にみると、女性では「独身有業」で「介護休業制度や勤務時間の柔軟化（短時間勤務、フレックスタイム等）の制度を整えること」（71.6%）が最も多く、続いて、「制度を利用しやすい職場づくり（上司の理解や同僚の協力など）をすること」（68.2%）である。「既婚有業」では「制度を利用しやすい職場づくり（上司の理解や同僚の協力など）をすること」（68.9%）が最も多く、続いて、「介護休業制度や勤務時間の柔軟化（短時間勤務、フレックスタイム等）の制度を整えること」（65.2%）である。男性では「独身有業」「既婚有業」ともに「制度を利用しやすい職場づくり（上司の理解や同僚の協力など）をすること」（順に69.0%、64.3%）が最も多く、「介護休業制度や勤務時間の柔軟化（短時間勤務、フレックスタイム等）の制度を整えること」（順に57.9%、57.1%）が続く。

また、「介護休業制度や勤務時間の柔軟化（短時間勤務、フレックスタイム等）の制度を整えること」は「独身有業」、「既婚有業」ともに女性の方が男性より多い。「介護の課題がある従業員に、経済的な支援（介護サービス費用の助成など）を行うこと」は女性の「独身有業」、「既婚有業」と男性の「既婚有業」で約5割となっているが、男性の「独身有業」（37.3%）では4割近くとなっている。

【図表 2-19 参照】

図表 2-19 企業における仕事と介護の両立支援として重要だと思うこと(性別・結婚の有無別)
(%)

		同僚の協力など)をすること	制度を利用しやすい職場づくり(上司の理解や)	介護休業制度や勤務時間の柔軟化(短時間勤務、フレックスタイム等)	介護サービス費用の助成など)を行うこと	介護の課題がある従業員に、経済的な支援	ない人事評価制度を整備すること	制度利用によって、昇進・昇格に影響すること	情報提供を行うこと	介護に直面した従業員に、両立支援に関する	相談窓口や相談担当者を設けること	従業員の介護に関する実態把握や両立支援の	二一ズ把握を行うこと	情報提供(各種制度の告知等)を行うこと	全従業員あるいは一定の年齢層以上の従業員に、	その他	特にな	無回答
全体	(n=796)	67.5	63.3	48.6	37.7	37.7	28.5	27.9	26.3	3.1	2.3	3.9						
女性 (n=443)	独身有業 (n=176)	68.2	71.6	52.3	40.3	39.8	30.7	29.0	23.3	2.3	0.6	5.7						
	既婚有業 (n=267)	68.9	65.2	50.6	33.7	34.8	26.2	30.3	28.1	2.6	2.6	4.5						
男性 (n=350)	独身有業 (n=126)	69.0	57.9	37.3	37.3	35.7	26.2	23.0	24.6	3.2	2.4	3.2						
	既婚有業 (n=224)	64.3	57.1	50.4	41.1	40.2	30.8	27.2	27.2	4.5	3.1	2.2						

3. 仕事について

(1) 仕事に対する意欲

問12 <仕事に就いている（F3で1～4、8を選んだ）方にお聞きします。>
 あなたは、今の仕事に対して意欲を持って積極的に取り組んでいますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

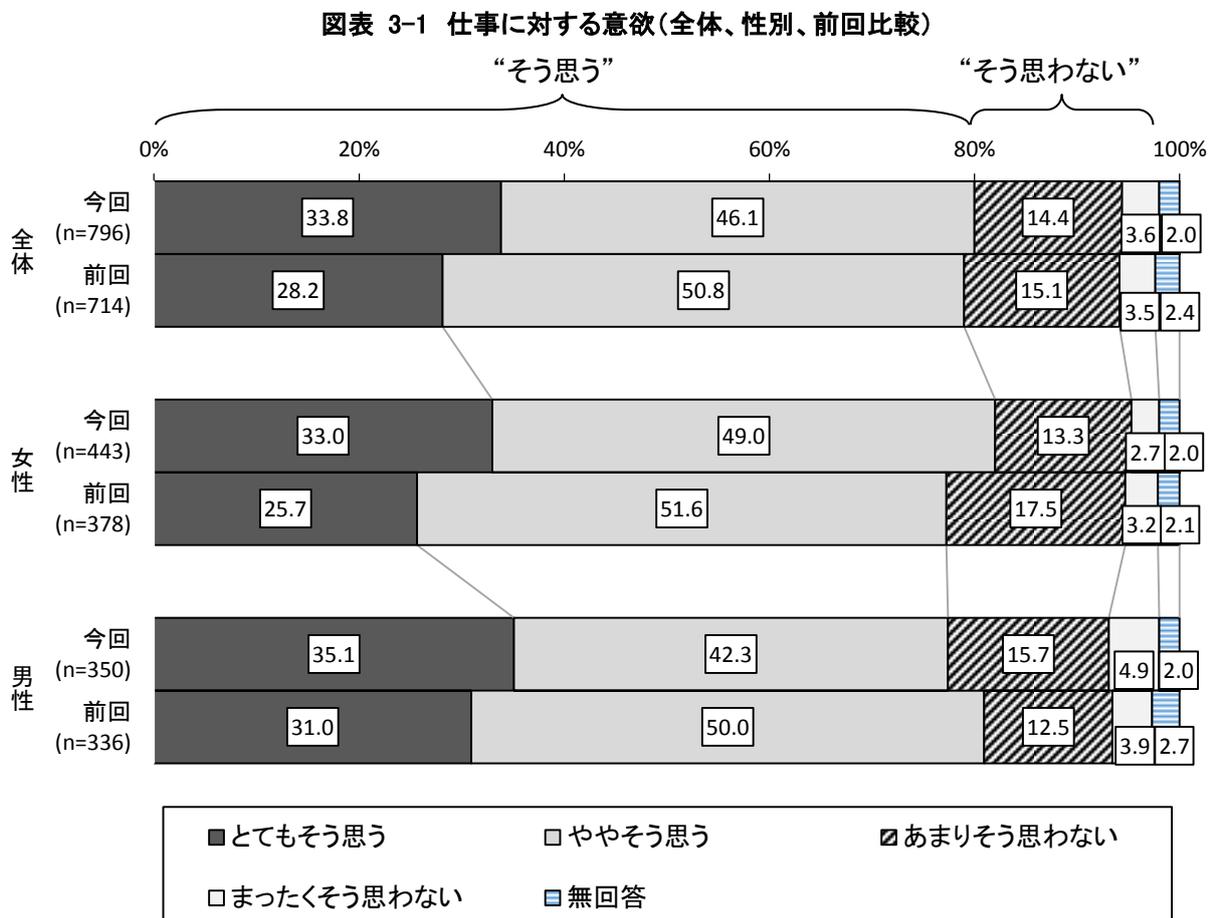
約8割が「意欲を持って積極的に仕事に取り組んでいる」と回答。

現在仕事に就いている人（796人）に、今の仕事に対して意欲を持って積極的に取り組んでいるか尋ねたところ、**全体**では、「とてもそう思う」、「ややそう思う」の両者を合わせた“そう思う”は**79.9%**である。一方、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の両者を合わせた“そう思わない”は**18.0%**である。

性別で見ると、“そう思う”が女性では**82.0%**、男性では**77.4%**で女性の方が男性より**4.6ポイント**多い。

前回調査と比較すると、女性で“そう思う”が**4.7ポイント**増加している。

【図表 3-1 参照】



(2) 職場の現状

問13 <仕事に就いている（F3で1～4、8を選んだ）方にお聞きします。>

あなたの職場の現状についてお聞きします。次の（A）～（E）のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

（A）職場のコミュニケーションが不足している

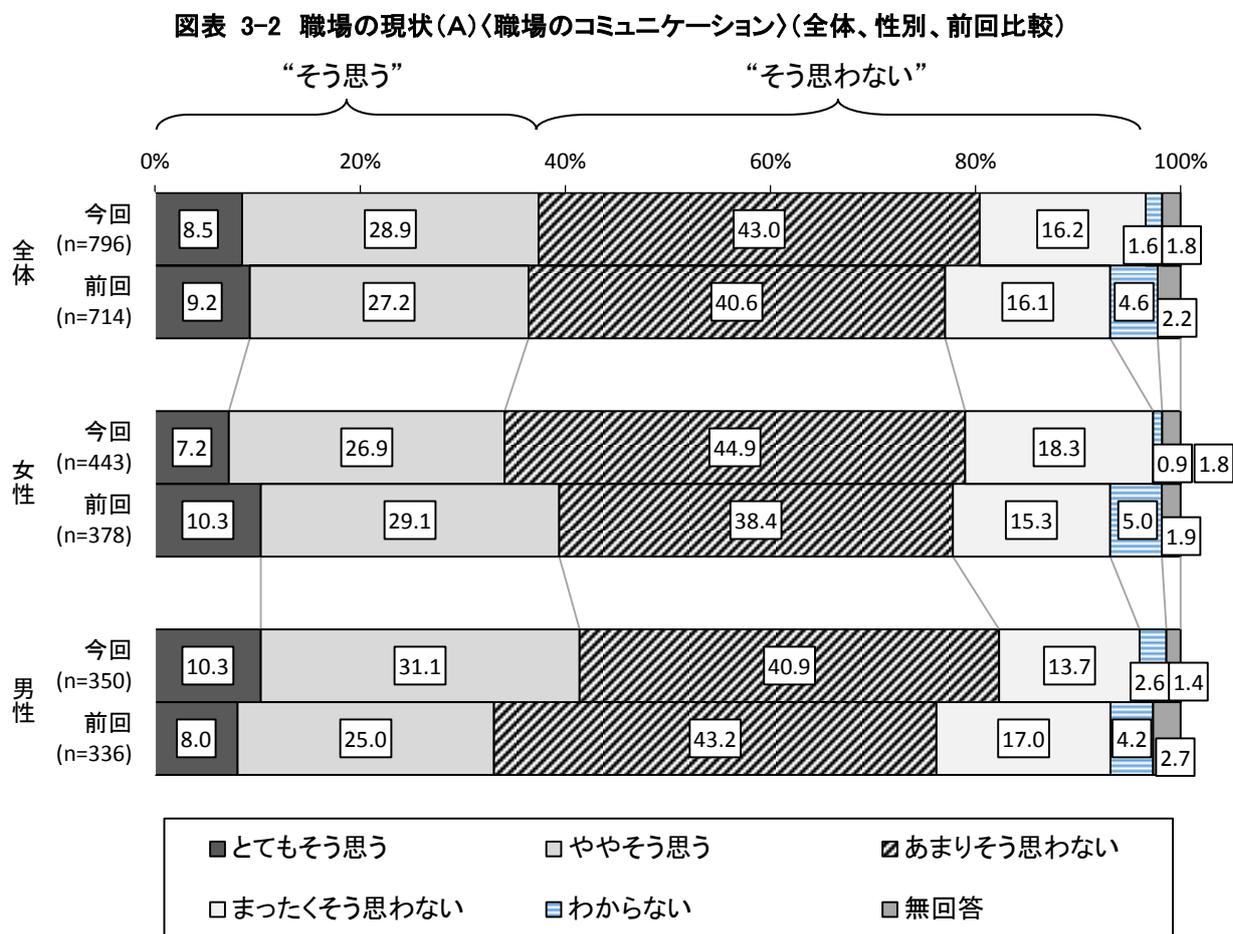
4割近くが「職場のコミュニケーションが不足している」と回答。

全体では、「とてもそう思う」、「ややそう思う」の両者を合わせた“そう思う”は37.4%である。一方、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の両者を合わせた“そう思わない”は59.2%である。“そう思わない”が“そう思う”を21.8ポイント上回る。

性別でみると、“そう思う”（女性34.1%、男性41.4%）は、男性の方が7.3ポイント多い。

前回調査と比較すると、“そう思う”は、女性では5.3ポイント減少し、男性では8.4ポイント増加している。

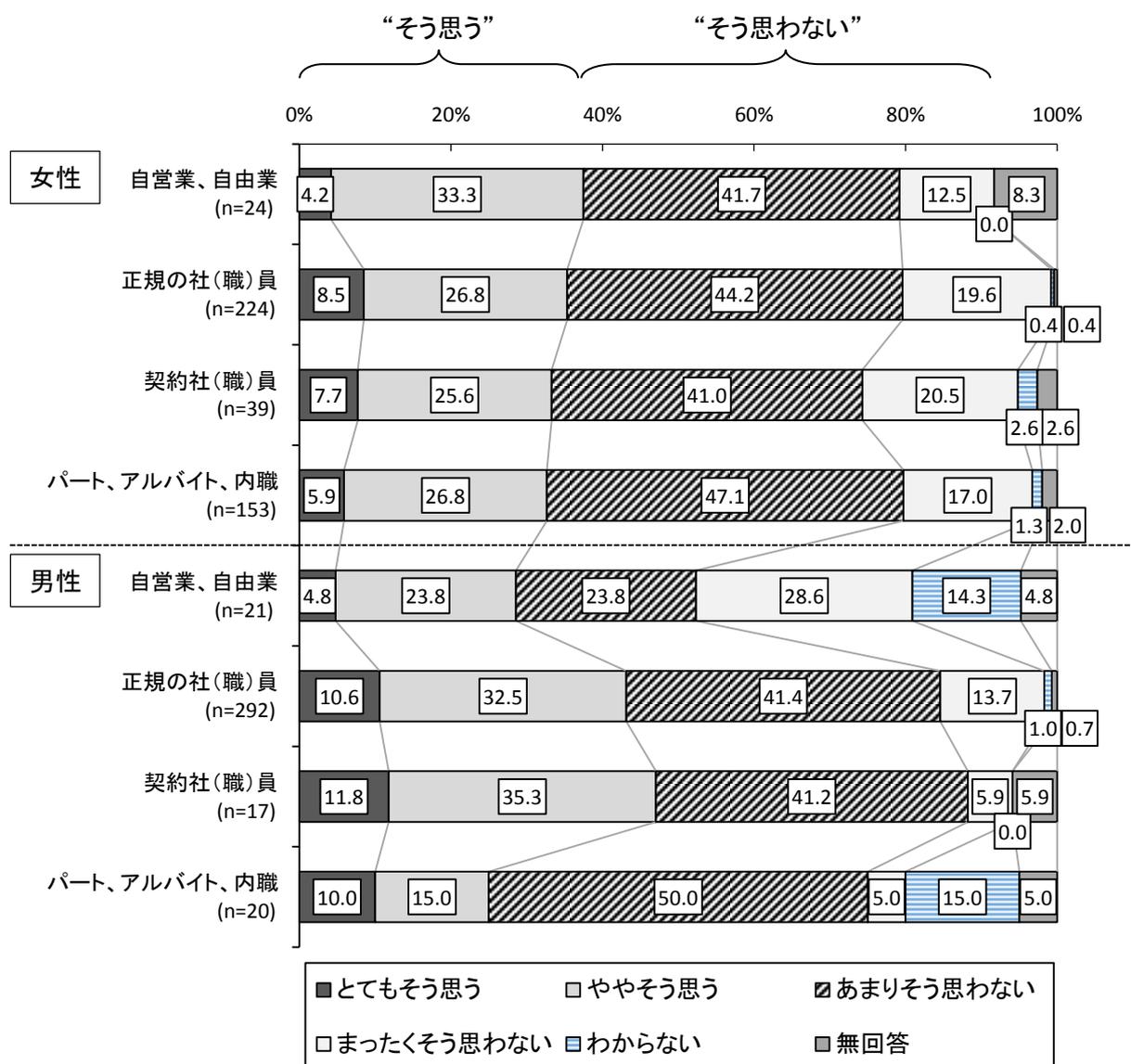
【図表3-2 参照】



男女それぞれを職業形態別にみると、男性の「契約社（職）員」を除くすべての職業形態で“そう思わない”が“そう思う”を上回る。女性では“そう思わない”が、「パート、アルバイト、内職」で64.1%と最も多く、男性では、「正規の社（職）員」で55.1%と最も多い。

また、男女の「正規の社（職）員」を比較すると、“そう思う”で男性（43.1%）の方が女性（35.3%）より7.8ポイント多い。【図表 3-3 参照】

図表 3-3 職場の現状(A)〈職場のコミュニケーション〉(性別・職業形態別)



(B) 残業が多い

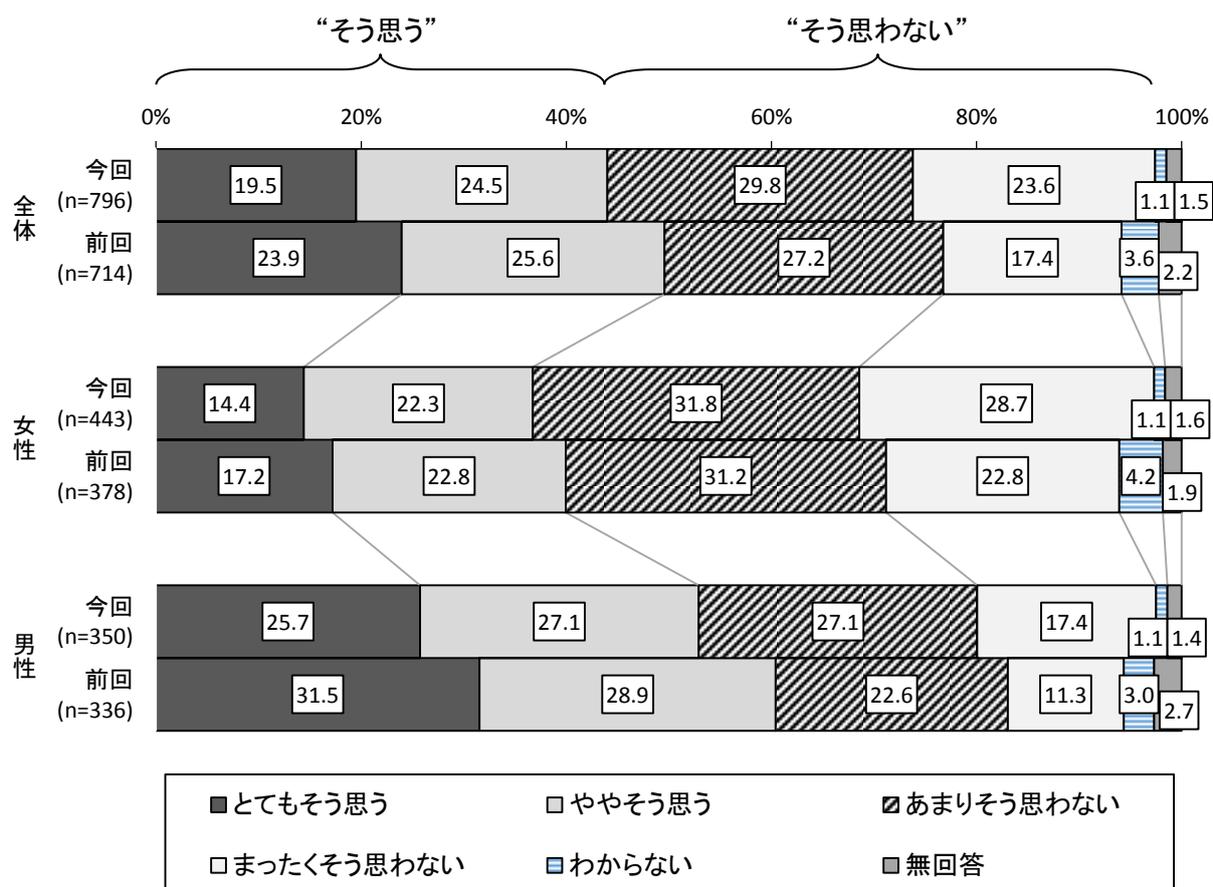
「残業が多い」と回答した男性は5割以上。前回調査と比べて7.6ポイント減少。

全体では、「とてもそう思う」、「ややそう思う」の両者を合わせた“そう思う”が44.0%である。一方、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の両者を合わせた“そう思わない”は53.4%である。“そう思わない”が“そう思う”を9.4ポイント上回る。

性別で見ると、女性では“そう思わない”が60.5%で、男性より16.0ポイント多い。一方、男性では“そう思う”が52.8%で、女性より16.1ポイント多い。

前回調査と比較すると、“そう思う”は、男性では7.6ポイント減少している。“そう思わない”は、男性で10.6ポイント増加している。 【図表 3-4 参照】

図表 3-4 職場の現状(B)〈残業が多い〉(全体、性別、前回比較)

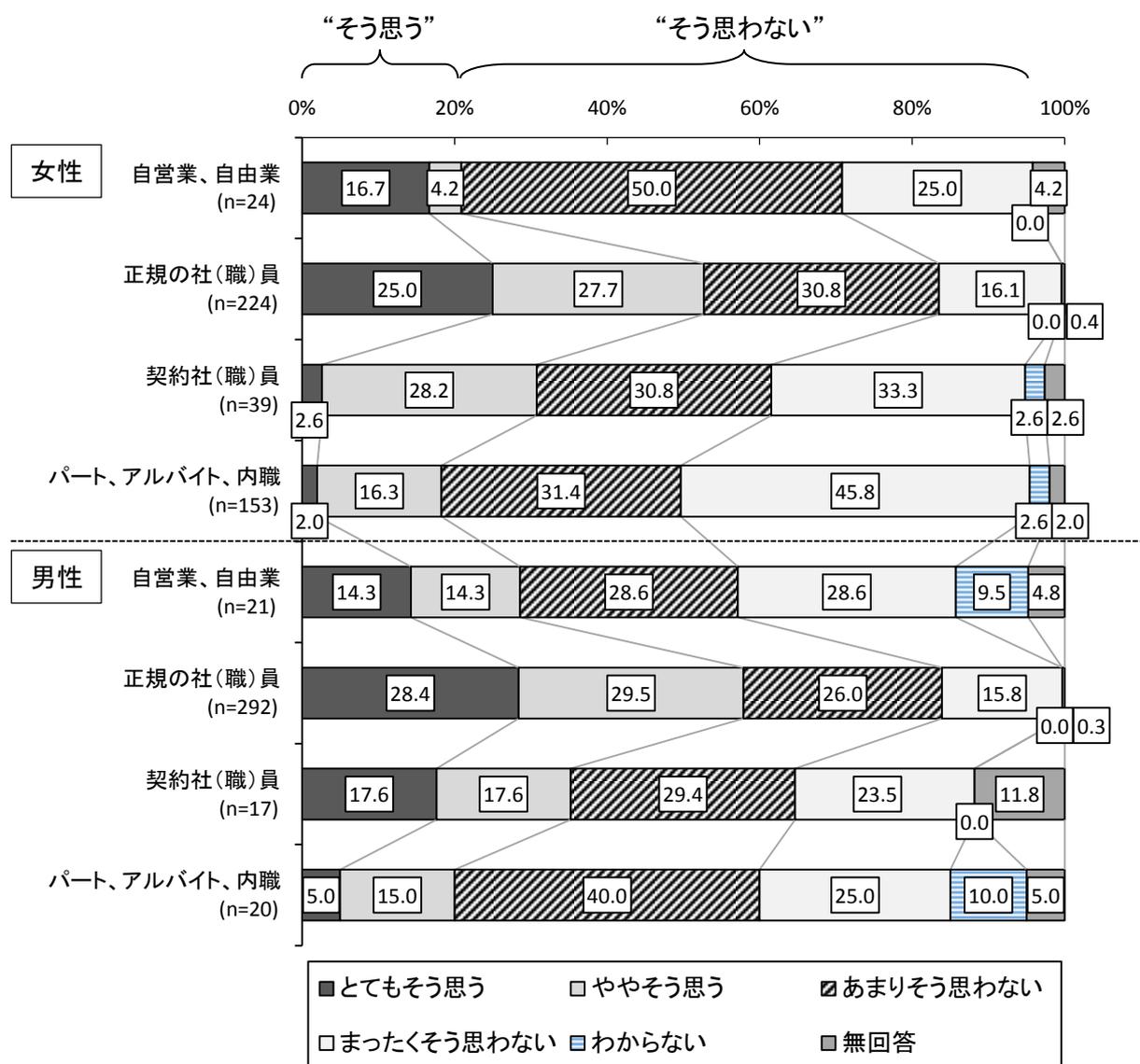


男女それぞれを職業形態別にみると、女性では、「正規の社（職）員」で“そう思う”は52.7%で他の職業形態より多くなっている。「パート、アルバイト、内職」では“そう思わない”（77.2%）が他の職業形態より多くなっている。男性では、「正規の社（職）員」で“そう思う”は57.9%で他の職業形態より多くなっている。

また、男女の「正規の社（職）員」を比較すると、“そう思う”で男性の方が女性より5.2ポイント多い。

【図表 3-5 参照】

図表 3-5 職場の現状(B)〈残業が多い〉(性別・職業形態別)



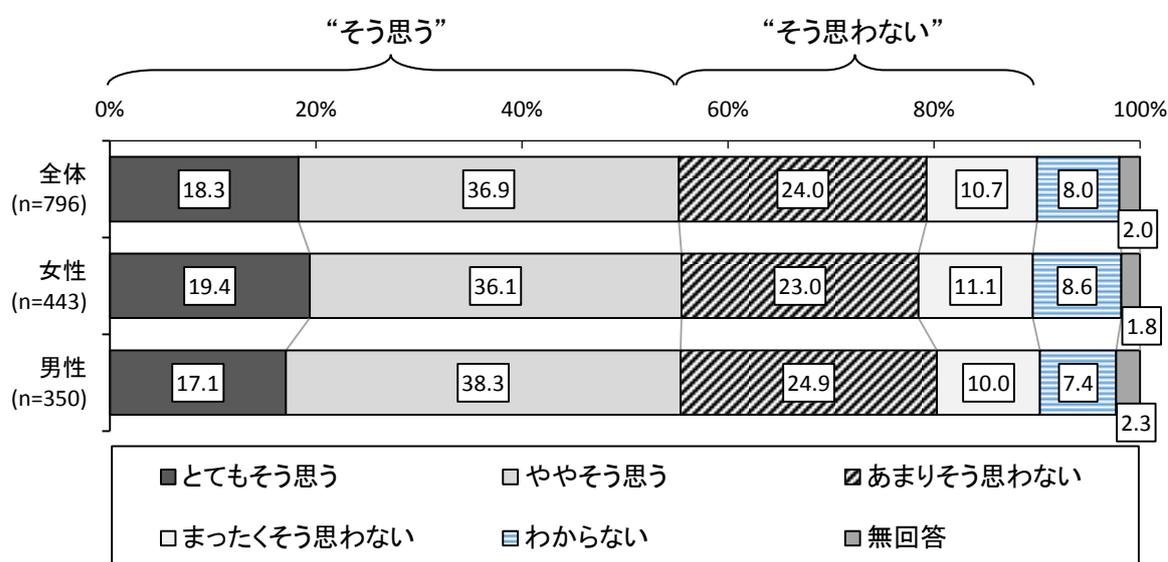
(C) 男性・女性が平等に昇進したり、責任ある仕事を任されている

5割半が「男性・女性が平等に昇進したり、責任ある仕事を任されている」と回答。

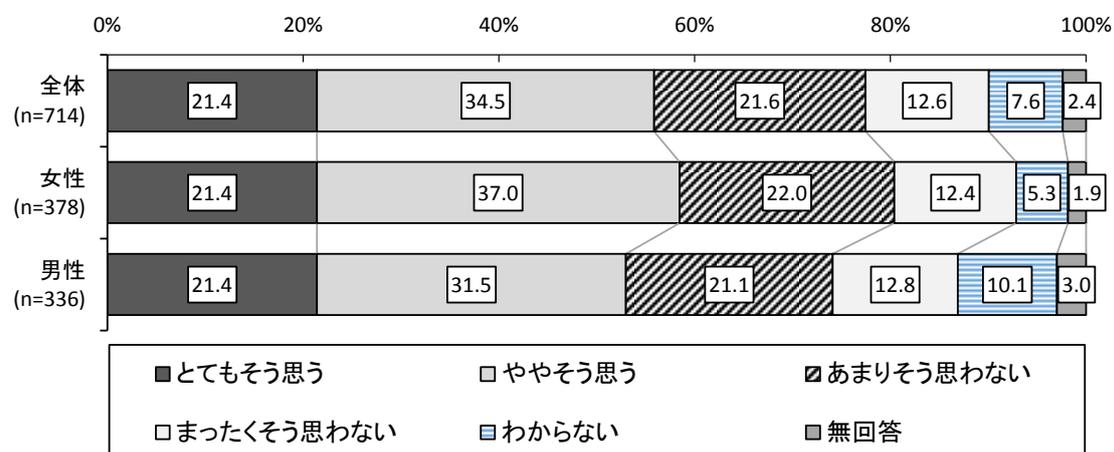
全体では、「とてもそう思う」、「ややそう思う」の両者を合わせた“そう思う”は55.2%である。一方、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の両者を合わせた“そう思わない”は34.7%である。“そう思う”が“そう思わない”を20.5ポイント上回る。

性別でみると、“そう思う”（女性55.5%、男性55.4%）、“そう思わない”（女性34.1%、男性34.9%）ともに、男女で大きな差がみられない。【図表3-6参照】

図表 3-6 職場の現状(C)〈男女の平等な昇進〉(全体、性別)

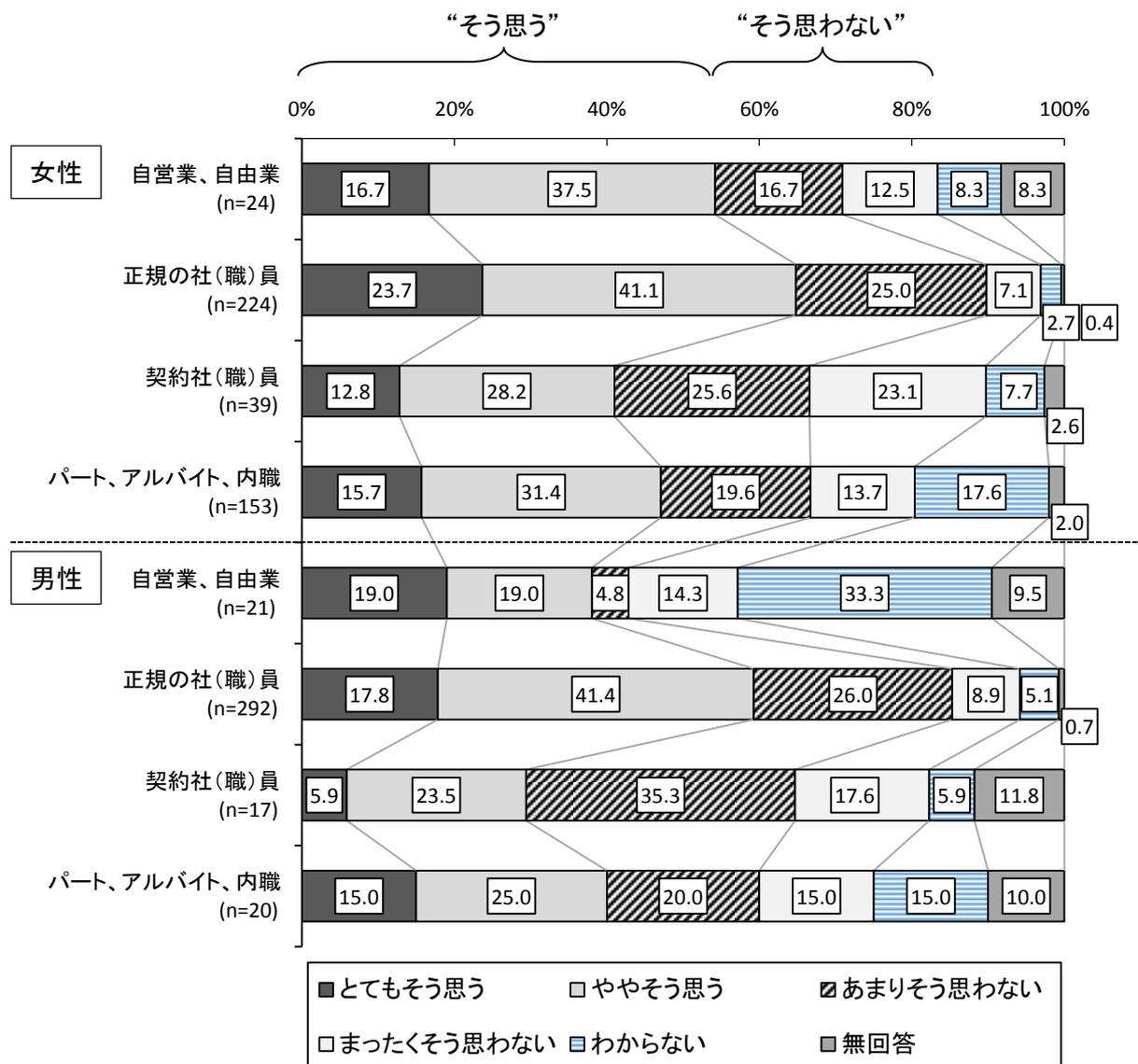


【参考資料】 前回調査より『女性が昇進する機会や責任ある仕事を任される機会がある』



男女それぞれを職業形態別にみると、男女ともに「正規の社（職）員」では“そう思う”（女性 64.8%、男性 59.2%）が最も多く、“そう思わない”（女性 32.1%、男性 34.9%）を上回っている。一方、女性の「契約社（職）員」では“そう思わない”（48.7%）の方が“そう思う”（41.0%）より多い。【図表 3-7 参照】

図表 3-7 職場の現状(C)〈男女の平等な昇進〉(性別・職業形態別)



(D) 育児・介護休業や短時間勤務など、柔軟な働き方ができる制度が整備されている

女性の5割半、男性の4割半が「育児・介護休暇制度や短時間勤務など、柔軟な働き方が整備されている」と回答。

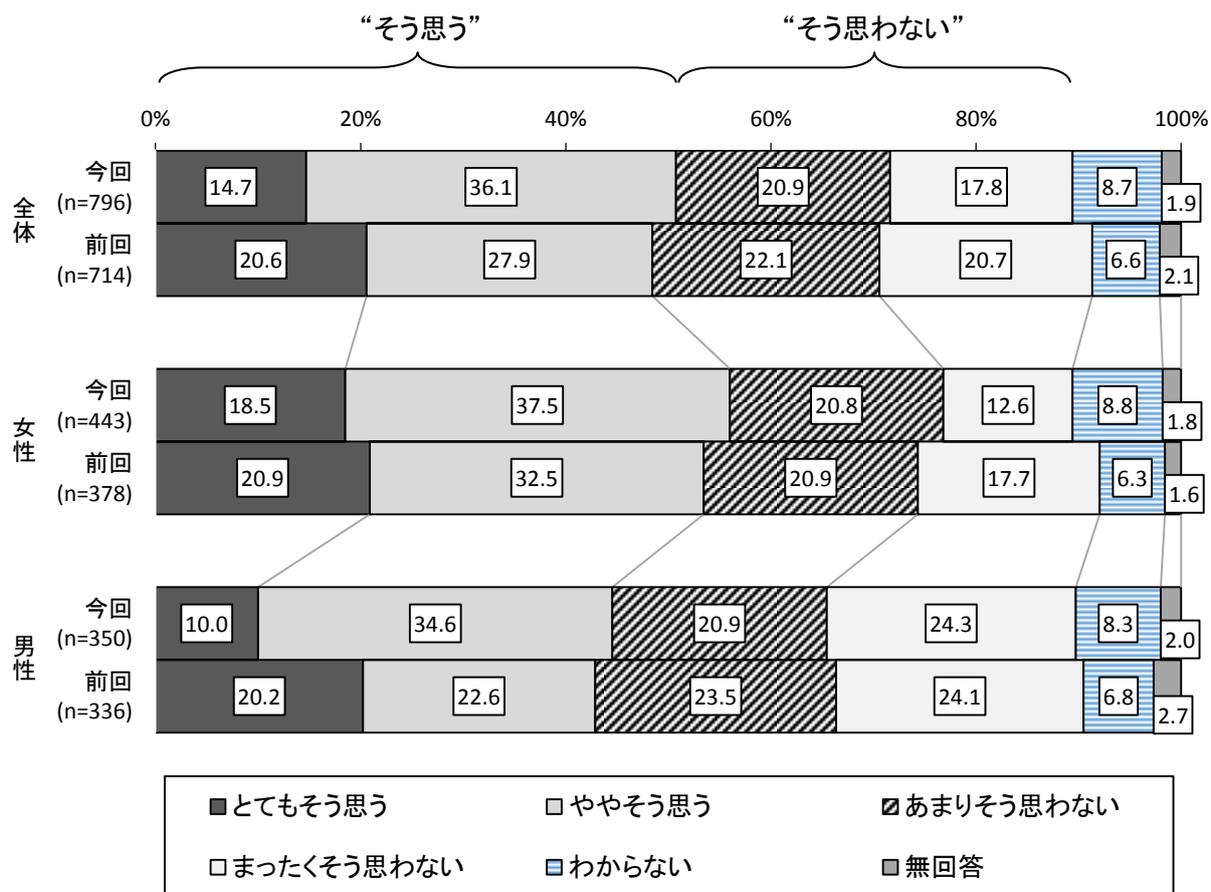
全体では、「とてもそう思う」、「ややそう思う」の両者を合わせた“そう思う”は50.8%である。一方、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の両者を合わせた“そう思わない”は38.7%である。“そう思う”が“そう思わない”を12.1ポイント上回る。

性別で見ると、女性では“そう思う”が56.0%、男性では44.6%で、女性の方が11.4ポイント多い。

前回調査と比較すると、“そう思わない”は、女性で5.2ポイント減少している。

【図表 3-8 参照】

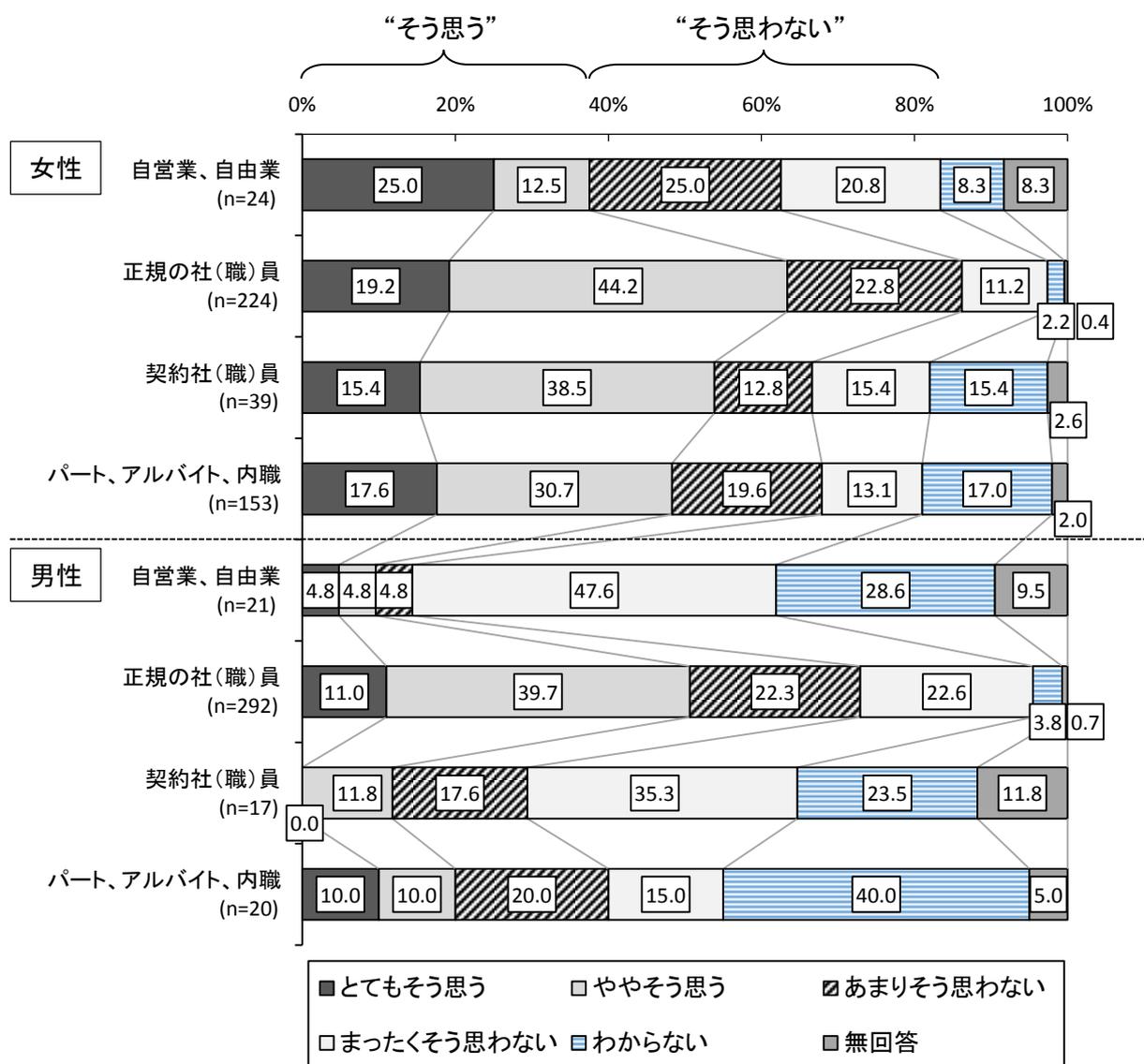
図表 3-8 職場の現状(D)〈柔軟な働き方の整備〉(全体、性別、前回比較)



男女それぞれを職業形態別にみると、女性では、「正規の社（職）員」で“そう思う”が63.4%と他の職業形態よりも多く、“そう思わない”の34.0%を29.4ポイント上回る。「パート、アルバイト、内職」は“そう思う”が48.3%で、「正規の社（職）員」より15.1ポイント少ない。男性では、「正規の社（職）員」で“そう思う”が50.7%と、“そう思わない”の44.9%を5.8ポイント上回る。

【図表 3-9 参照】

図表 3-9 職場の現状(D)〈柔軟な働き方の整備〉(性別・職業形態別)



(E) 男性への育児・介護休暇取得促進を行っている

約6割が「男性への育児・介護休暇取得促進を行っている」とは思わないと回答。

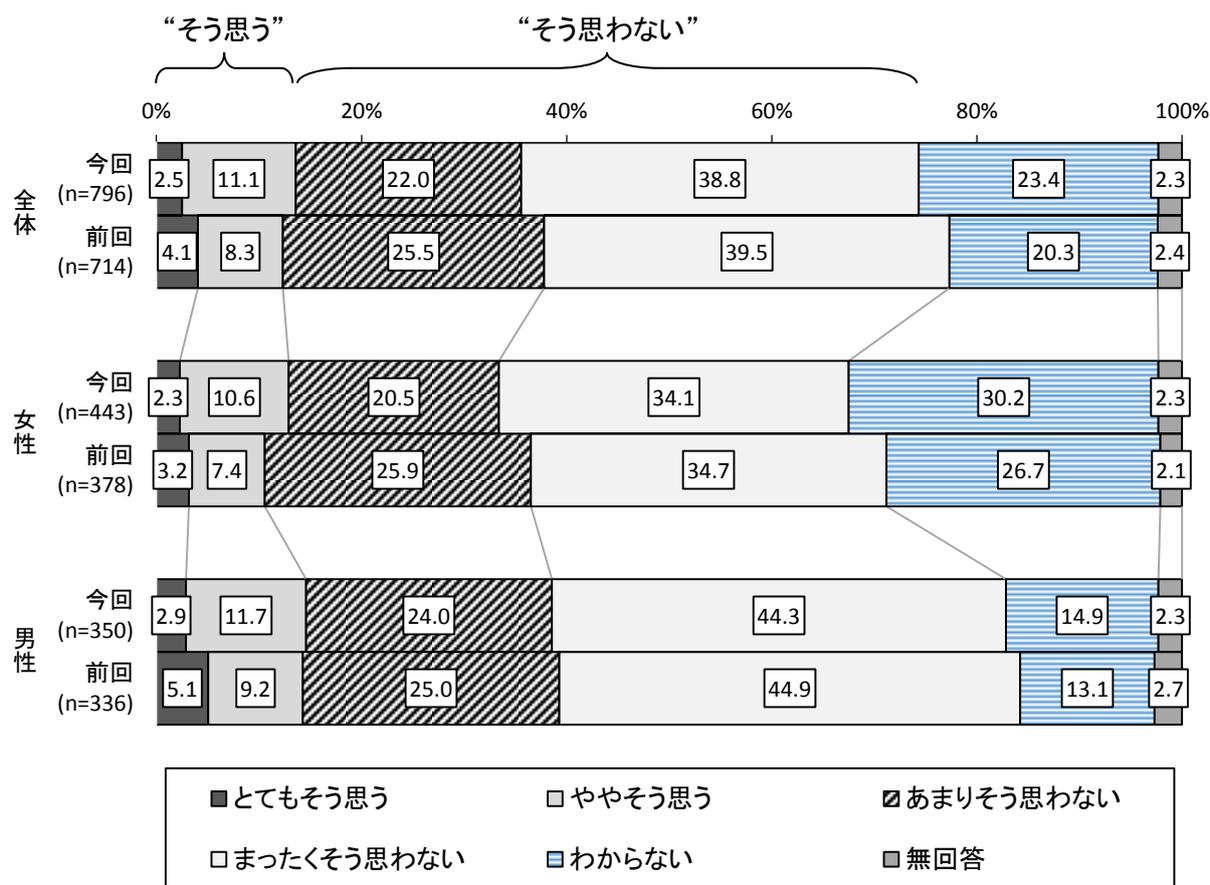
全体では、「とてもそう思う」、「ややそう思う」の両者を合わせた“そう思う”は13.6%である。一方、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の両者を合わせた“そう思わない”は60.8%である。“そう思わない”が“そう思う”を47.2ポイント上回る。

性別で見ると、「まったくそう思わない」が女性では34.1%、男性では44.3%と、男性の方が女性より10.2ポイント多い。

前回調査と比較すると、女性では“そう思わない”が6.0ポイント減少している。男性では、大きな変化はみられない。

【図表 3-10 参照】

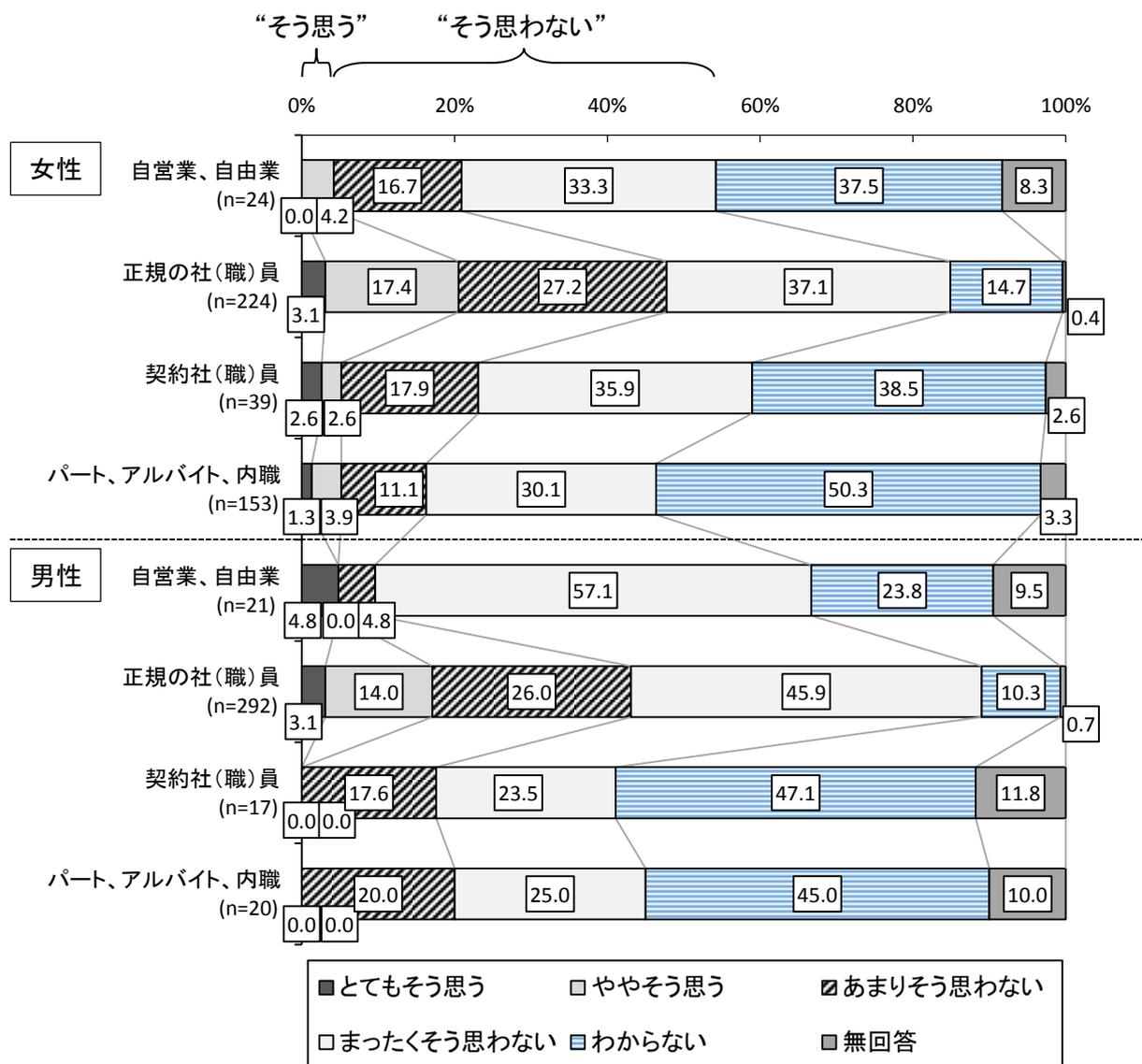
図表 3-10 職場の現状(E)〈男性への育児休暇等取得促進〉(全体、性別、前回比較)



男女それぞれを職業形態別にみると、男女ともにいずれの職業形態でも“そう思わない”が“そう思う”を大きく上回る。女性では、「正規の社（職）員」で“そう思う”が20.5%と他の職業形態よりも多い。男性では、「正規の社（職）員」で“そう思わない”が71.9%と他の職業形態よりも多い。

【図表 3-11 参照】

図表 3-11 職場の現状(E)〈男性への育児休暇等取得促進〉(性別・職業形態別)



(3) 現在仕事に就いていない理由

問14 <仕事に就いていない（F3で5～7を選んだ）方にお聞きします。>

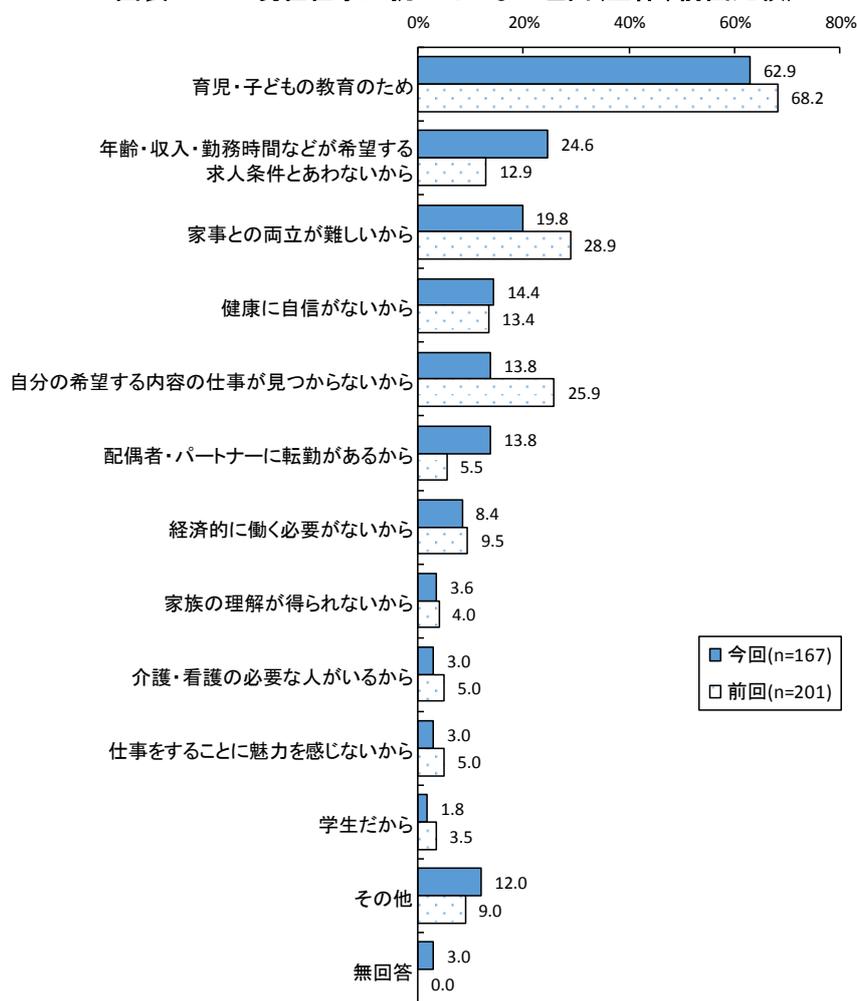
あなたが現在仕事に就いていない主な理由は何ですか。あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

「育児・子どもの教育のため」が最も多く、女性の7割近くが回答。

現在仕事に就いていない人（167人）に、主な理由を尋ねたところ、**全体**では、「育児・子どもの教育のため」が**62.9%**と最も多い。続いて「年齢・収入・勤務時間などが希望する求人条件とあわないから」（**24.6%**）、「家事との両立が難しいから」（**19.8%**）である。

前回調査と比較すると、「年齢・収入・勤務時間などが希望する求人条件とあわないから」は**11.7ポイント**、「配偶者・パートナーに転勤があるから」は**8.3ポイント**増加している。一方、「自分の希望する内容の仕事が見つからないから」は**12.1ポイント**、「家事との両立が難しいから」は**9.1ポイント**、「育児・子どもの教育のため」は**5.3ポイント**減少している。 【図表3-12参照】

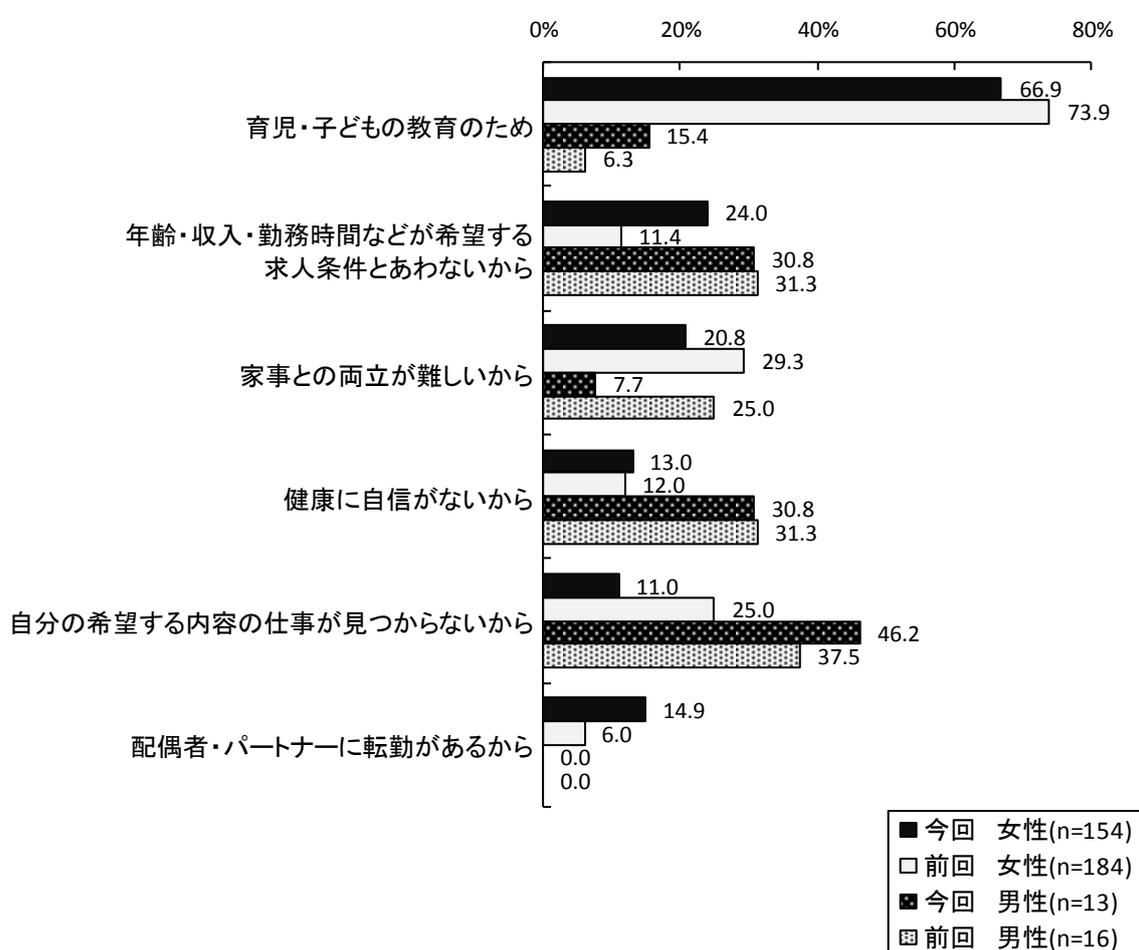
図表 3-12 現在仕事に就いていない理由(全体、前回比較)



上位6項目を性別で見ると、女性では「育児・子どもの教育のため」が66.9%で最も多い。

前回調査と比較すると、女性では「育児・子どもの教育のため」が7.0ポイント、「家事との両立が難しいから」が8.5ポイント、「自分の希望する内容の仕事が見つからないから」が14.0ポイント減少している。一方、「年齢・収入・勤務時間などが希望する求人条件とあわないから」が12.6ポイント、「配偶者・パートナーに転勤があるから」が8.9ポイント増加している。【図表3-13参照】

図表 3-13 現在仕事に就いていない理由(上位6項目、性別、前回比較)



(4) 今後の就労意思

問15 <仕事に就いていない（F3で5～7を選んだ）方にお聞きします。>
 あなたは今後働きたいと思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

現在仕事に就いていない人の8割半が就労の意思があると回答。

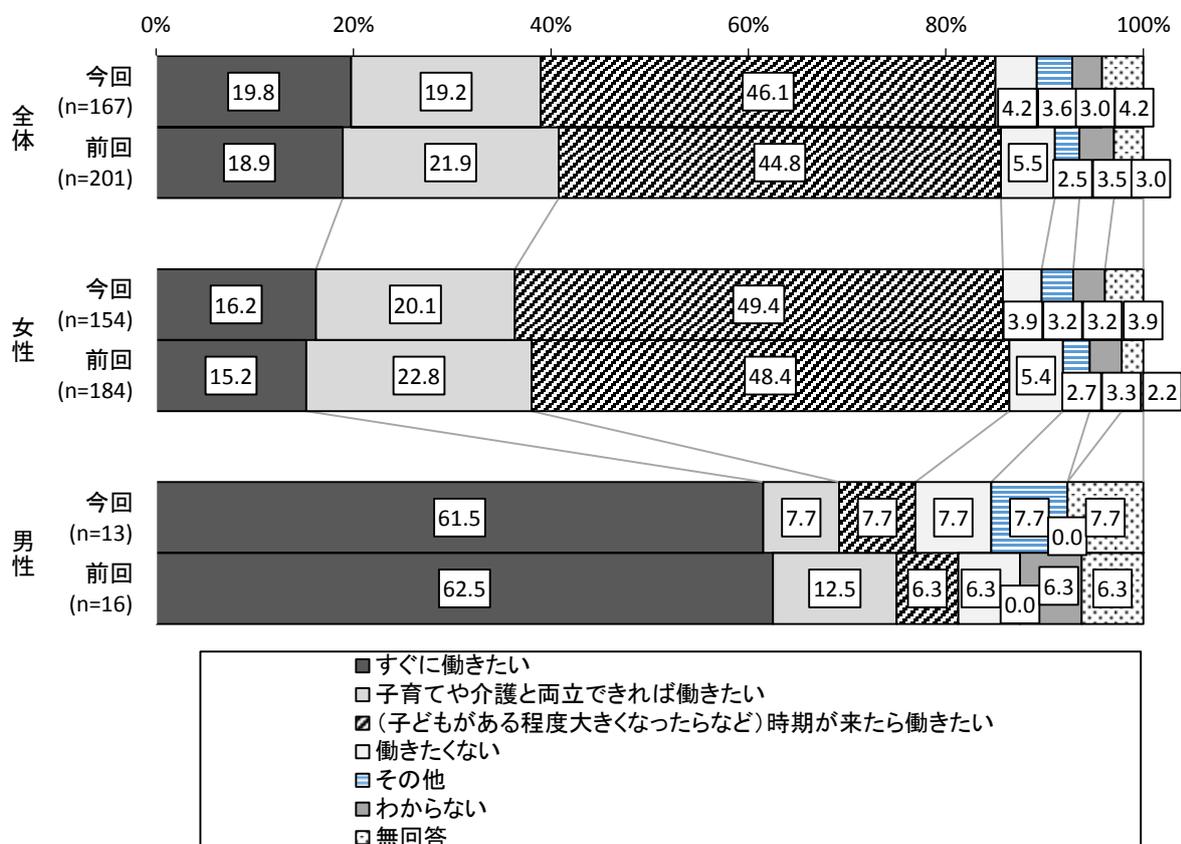
現在仕事に就いていない人（167人）に、今後の就職の意思を尋ねたところ、全体では、「(子どもがある程度大きくなったらなど) 時期が来たら働きたい」が46.1%で最も多い。これに「子育てや介護と両立できれば働きたい」（19.2%）、「すぐに働きたい」（19.8%）を合わせた85.1%の人に就労の意思があることがわかる。

性別で見ると、女性では、「(子どもがある程度大きくなったらなど) 時期が来たら働きたい」（49.4%）が最も多く、男性では、回答数は少ないが「すぐに働きたい」（61.5%）が最も多い。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられない。

【図表 3-14 参照】

図表 3-14 今後の就労意思(全体、性別、前回比較)



4. 家庭生活について

(1) 家庭での役割分担

問16 <すべての方にお聞きします。>

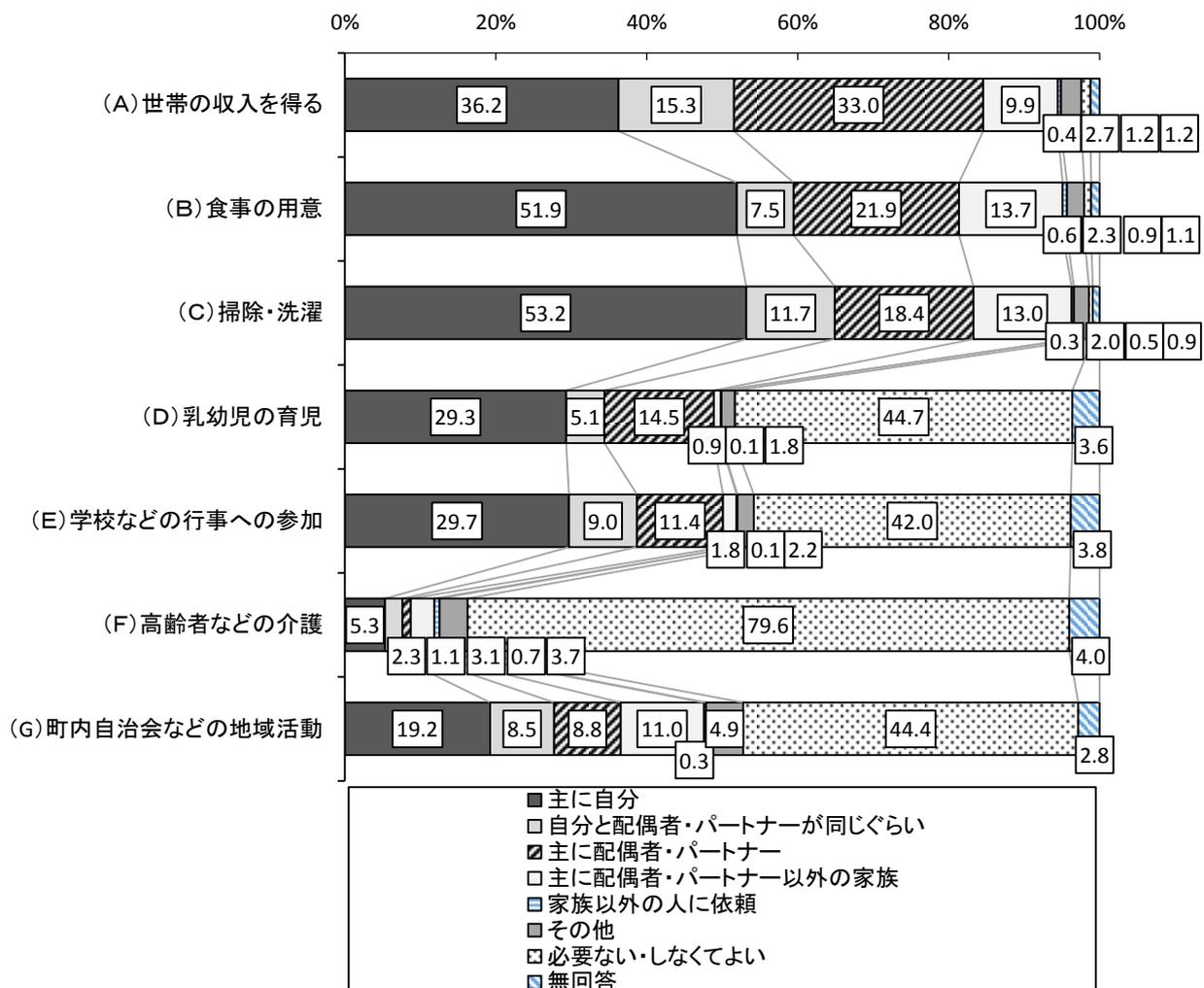
あなたの家庭では、次の(A)～(G)を主に誰が担当していますか。あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

家庭での役割分担について尋ねたところ、全体では、「主に自分」が多いのは、「掃除・洗濯」(53.2%)、「食事の用意」(51.9%)である。

一方、「必要ない・しなくてよい」は「高齢者などの介護」(79.6%)で最も多い。

【図表 4-1 参照】

図表 4-1 家庭での役割分担(全体ベース、n=963)

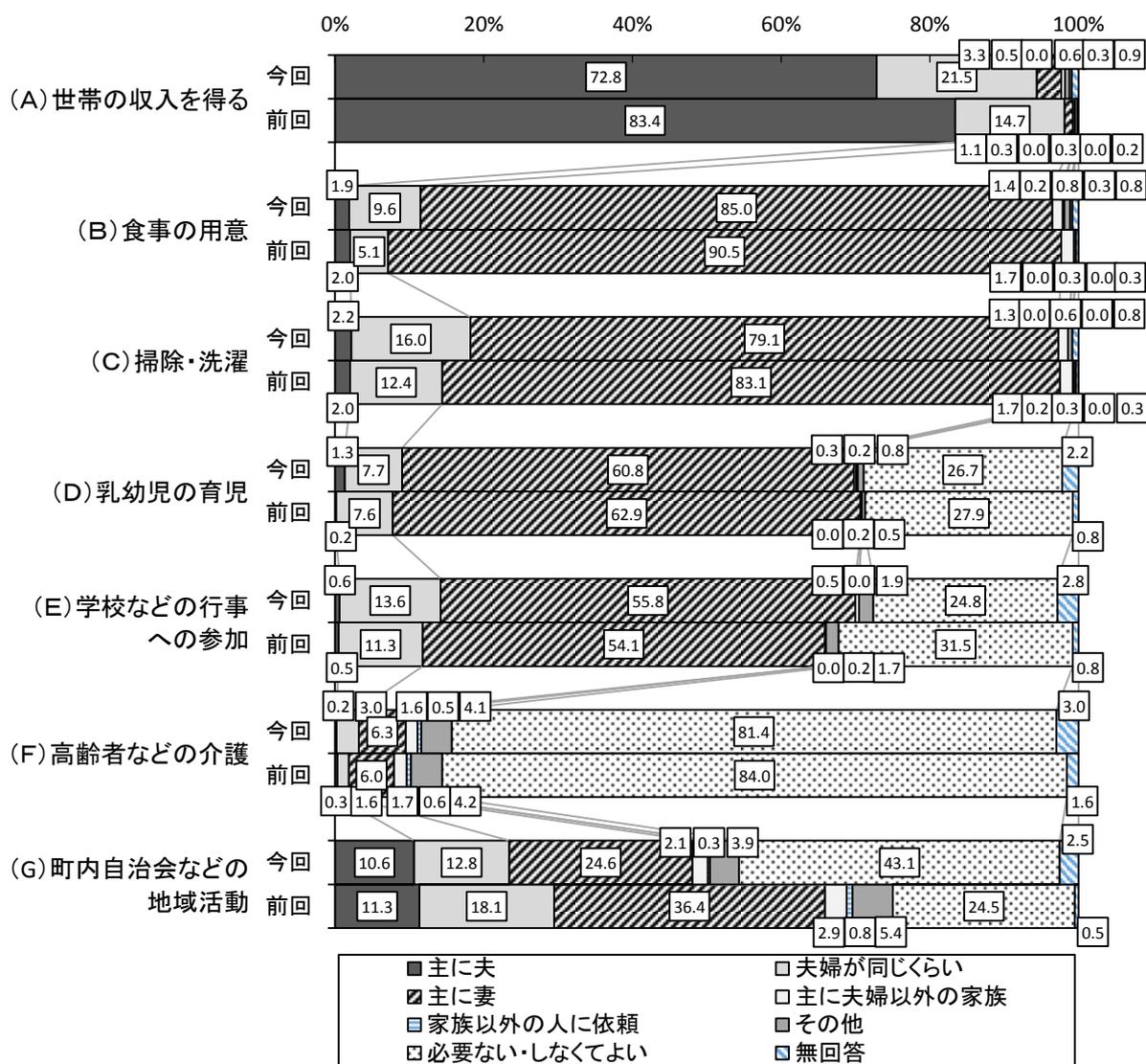


「世帯の収入を得る」は「主に夫」が7割以上、「食事の用意」は「主に妻」が8割半、「掃除・洗濯」は「主に妻」が約8割。

結婚している人（633人）全体について、「世帯の収入を得る」では「主に夫」が72.8%と多いが、それ以外ではいずれも「主に妻」が「主に夫」を上回る。「主に妻」が多いのは「食事の用意」（85.0%）、「掃除・洗濯」（79.1%）、「乳幼児の育児」（60.8%）、「学校などの行事への参加」（55.8%）である。一方、「夫婦が同じくらい」は、「世帯の収入を得る」が21.5%で最も多い。

前回調査と比較すると、「世帯の収入を得る」では「主に夫」が10.6ポイント減少し、「夫婦が同じくらい」が6.8ポイント増加している。「町内自治会などの地域活動」では「主に妻」が11.8ポイント、「夫婦が同じくらい」が5.3ポイント減少し、「必要ない・しなくてよい」が18.6ポイント増加している。【図表4-2参照】

図表 4-2 家庭での役割分担（結婚しているベース、前回比較、今回 n=633、前回 n=645）



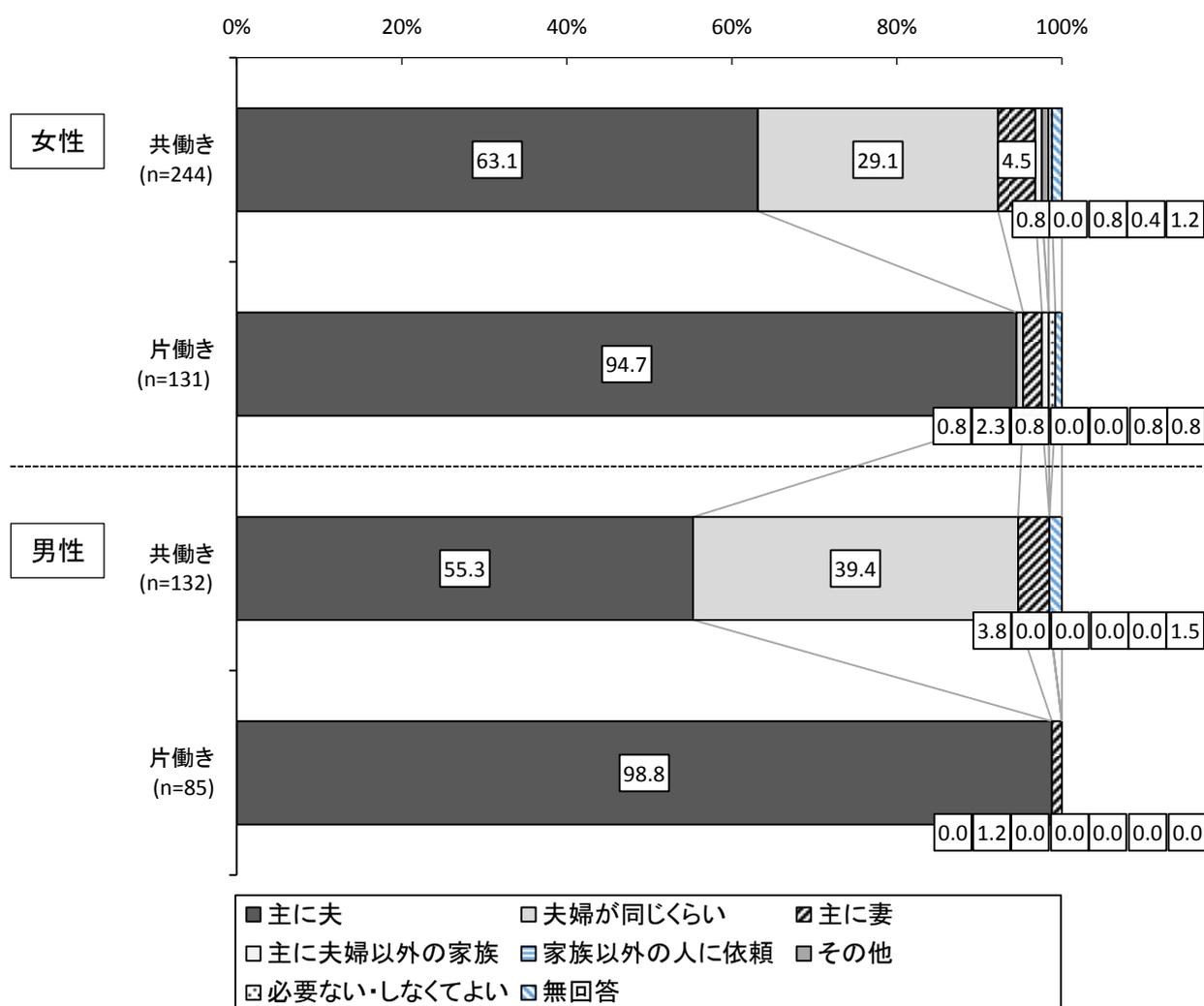
※現在「結婚している(事実婚を含む)」回答者を、男女ごとに再分類。

(A) 世帯の収入を得る

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、男女ともに夫婦の働き方にかかわらず、「主に夫」が最も多い。特に「片働き」では「主に夫」が女性で94.7%、男性で98.8%と、「共働き」より多くなっている。一方、「共働き」では「夫婦が同じくらい」が男性で39.4%、女性で29.1%と、男性の方が女性より10.3ポイント多く、男女の意識に差がある。

【図表 4-3 参照】

図表 4-3 家庭での役割分担(A)〈世帯の収入を得る〉(性別・夫婦の働き方別)

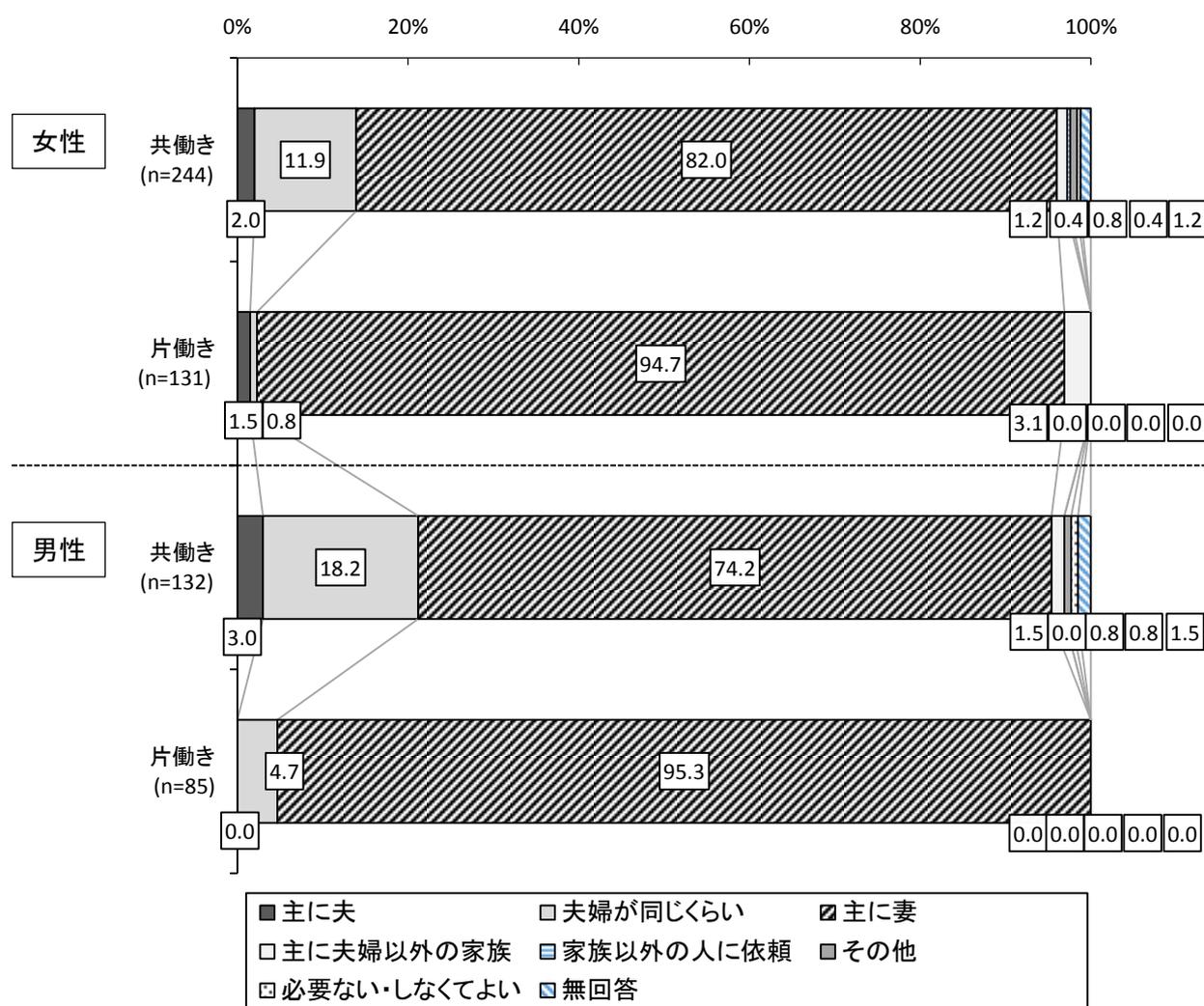


(B) 食事の用意

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、男女ともに夫婦の働き方にかかわらず、「主に妻」が最も多くなっている。特に「片働き」では「主に妻」が女性で94.7%、男性で95.3%と、「共働き」より多くなっている。なお、「共働き」では「夫婦が同じくらい」が男性で18.2%、女性で11.9%と、男性の方が女性より6.3ポイント多い。

【図表 4-4 参照】

図表 4-4 家庭での役割分担(B)〈食事の用意〉(性別・夫婦の働き方別)



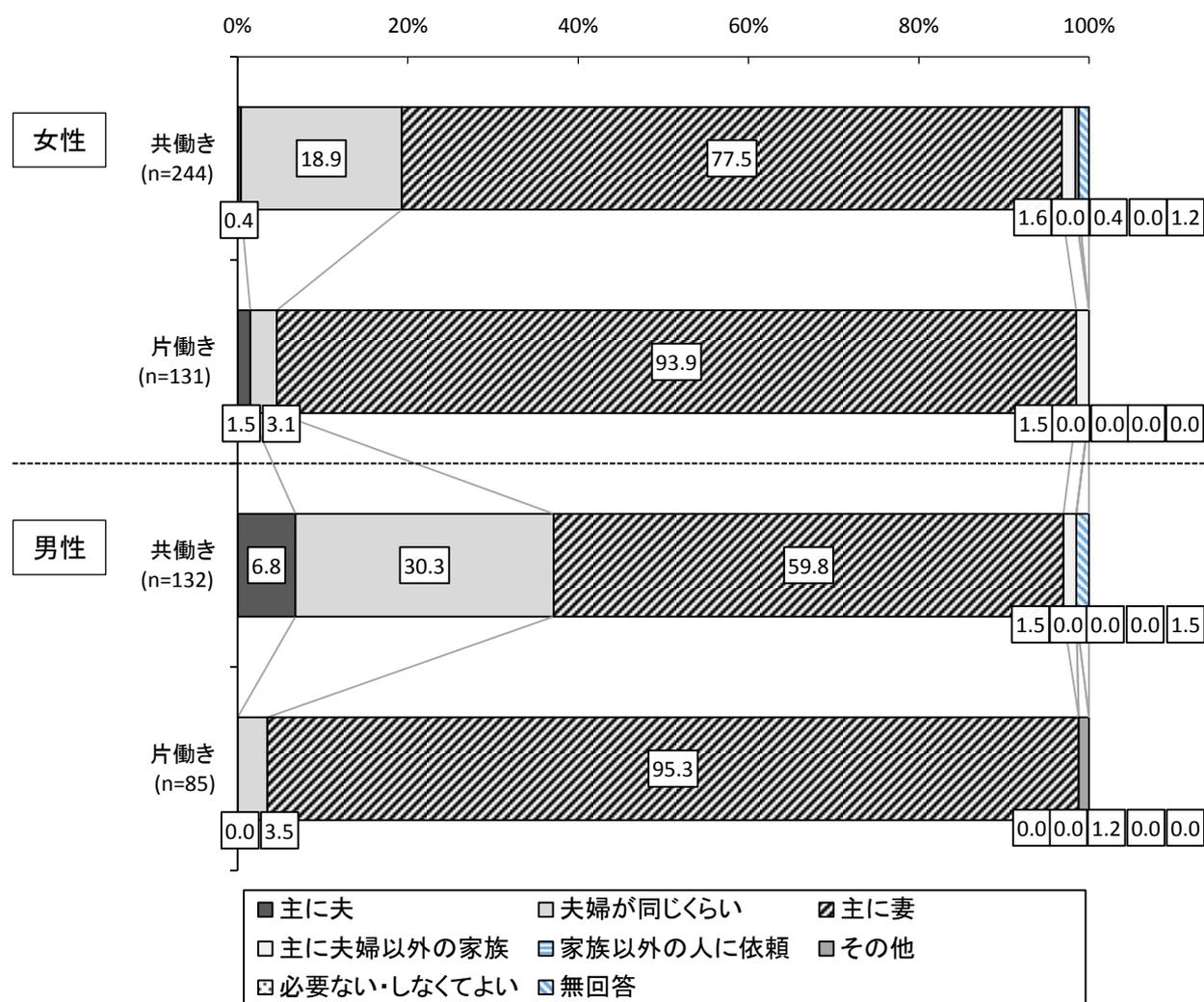
(C) 掃除・洗濯

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、男女ともに夫婦の働き方にかかわらず、「主に妻」が最も多い。特に「片働き」では「主に妻」が女性で93.9%、男性で95.3%と、「共働き」より多くなっている。

また、男女の「共働き」を比較すると、「夫婦が同じくらい」は男性（30.3%）の方が女性（18.9%）より11.4ポイント多く、男女の意識に差がある。

【図表 4-5 参照】

図表 4-5 家庭での役割分担(C)〈掃除・洗濯〉(性別・夫婦の働き方別)

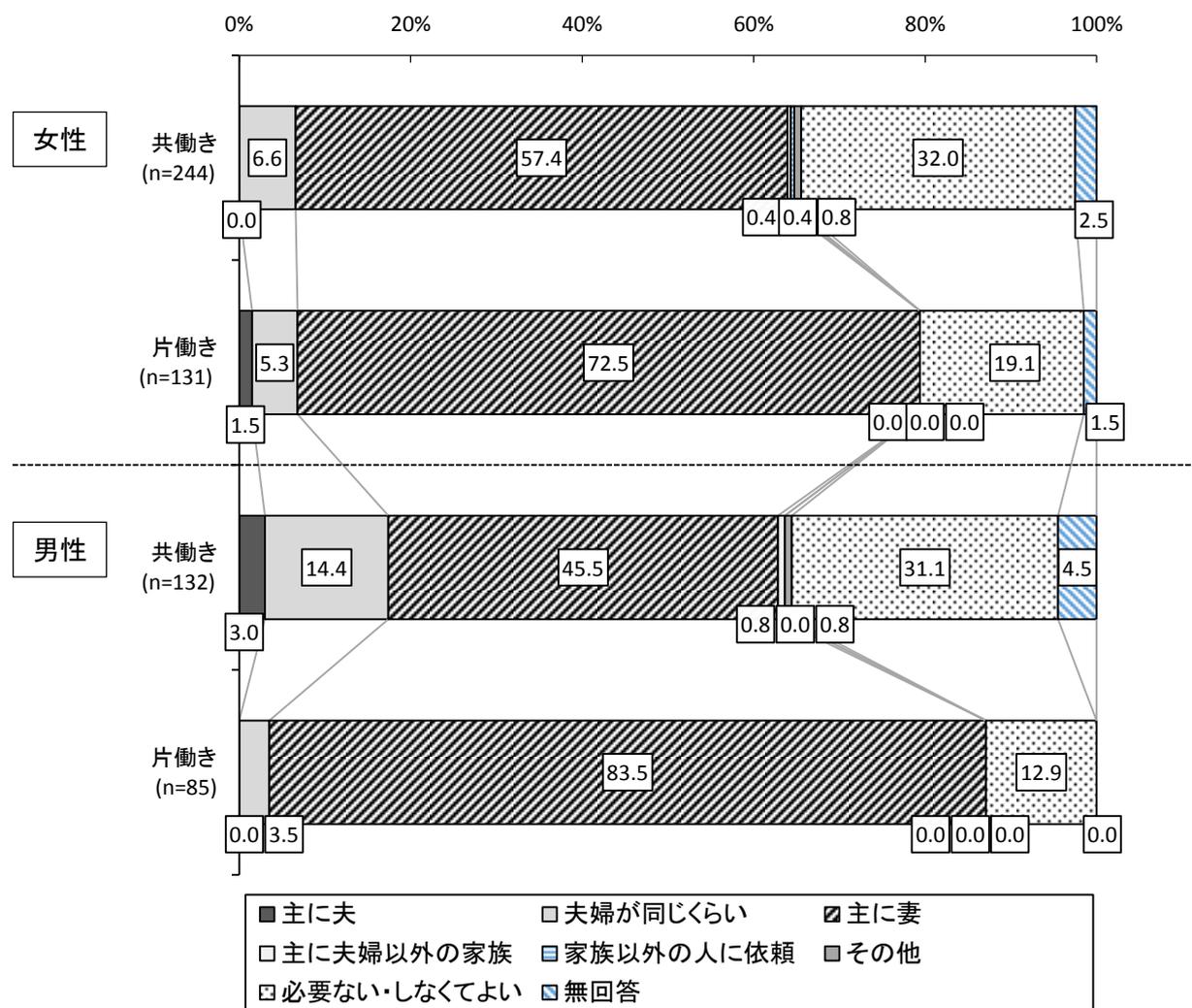


(D) 乳幼児の育児

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、男女ともに、「主に妻」は「片働き」(女性 72.5%、男性 83.5%) が「共働き」(女性 57.4%、男性 45.5%) を大きく上回る。

また、男女の「共働き」を比較すると、「夫婦が同じくらい」については、女性(6.6%)より男性(14.4%)の方が7.8ポイント多い。 【図表 4-6 参照】

図表 4-6 家庭での役割分担(D)〈乳幼児の育児〉(性別・夫婦の働き方別)

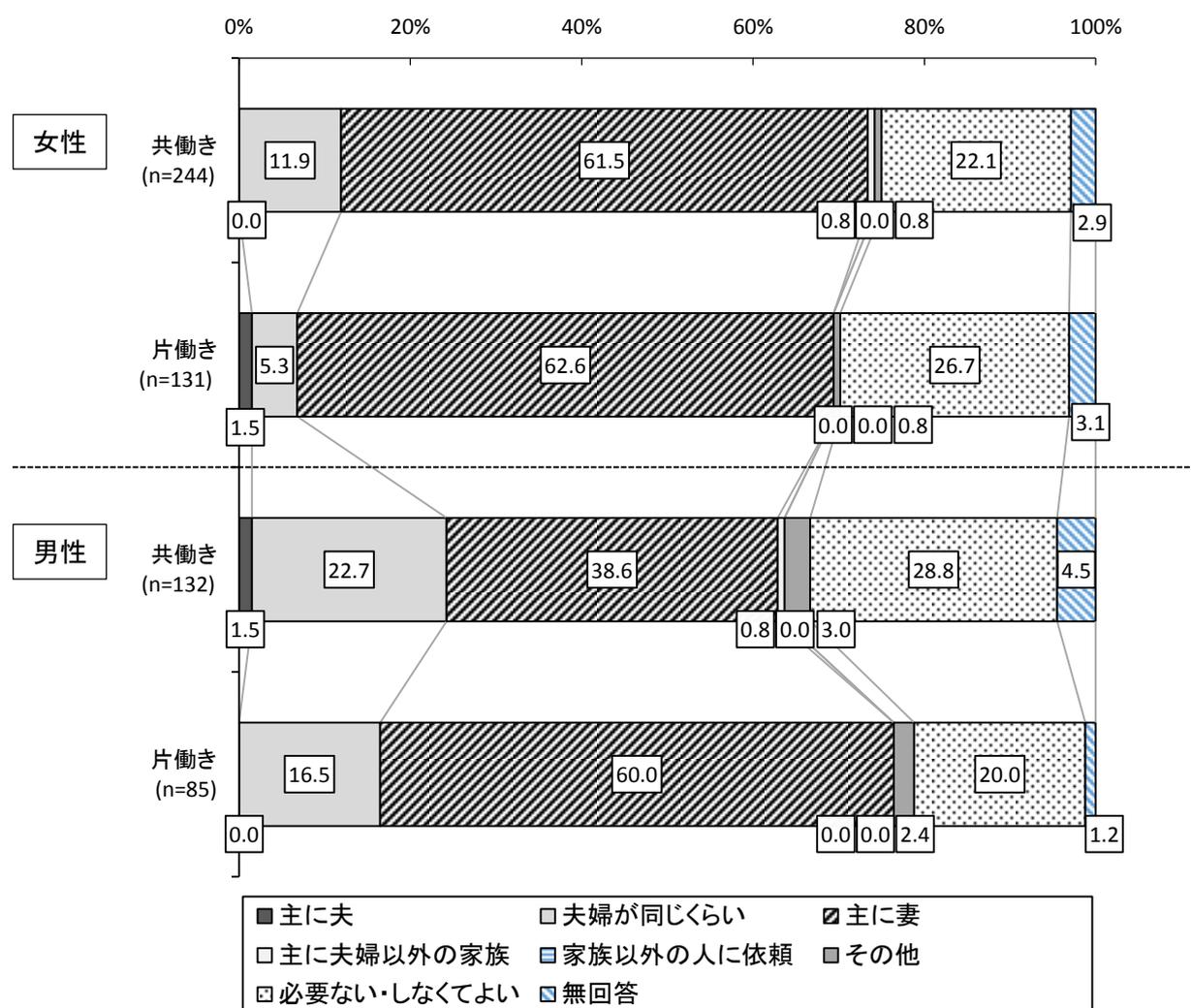


(E) 学校などの行事への参加

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、男女ともに夫婦の働き方にかかわらず、「主に妻」が最も多い。女性では、「主に妻」の割合が、「共働き」(61.5%)と「片働き」(62.6%)で大きな差がみられないが、男性では、「共働き」(38.6%)と「片働き」(60.0%)で21.4ポイントの差がみられる。

また、「夫婦が同じくらい」は「共働き」(女性 11.9%、男性 22.7%)、「片働き」(女性 5.3%、男性 16.5%)ともに男性の方が女性より多い。【図表 4-7 参照】

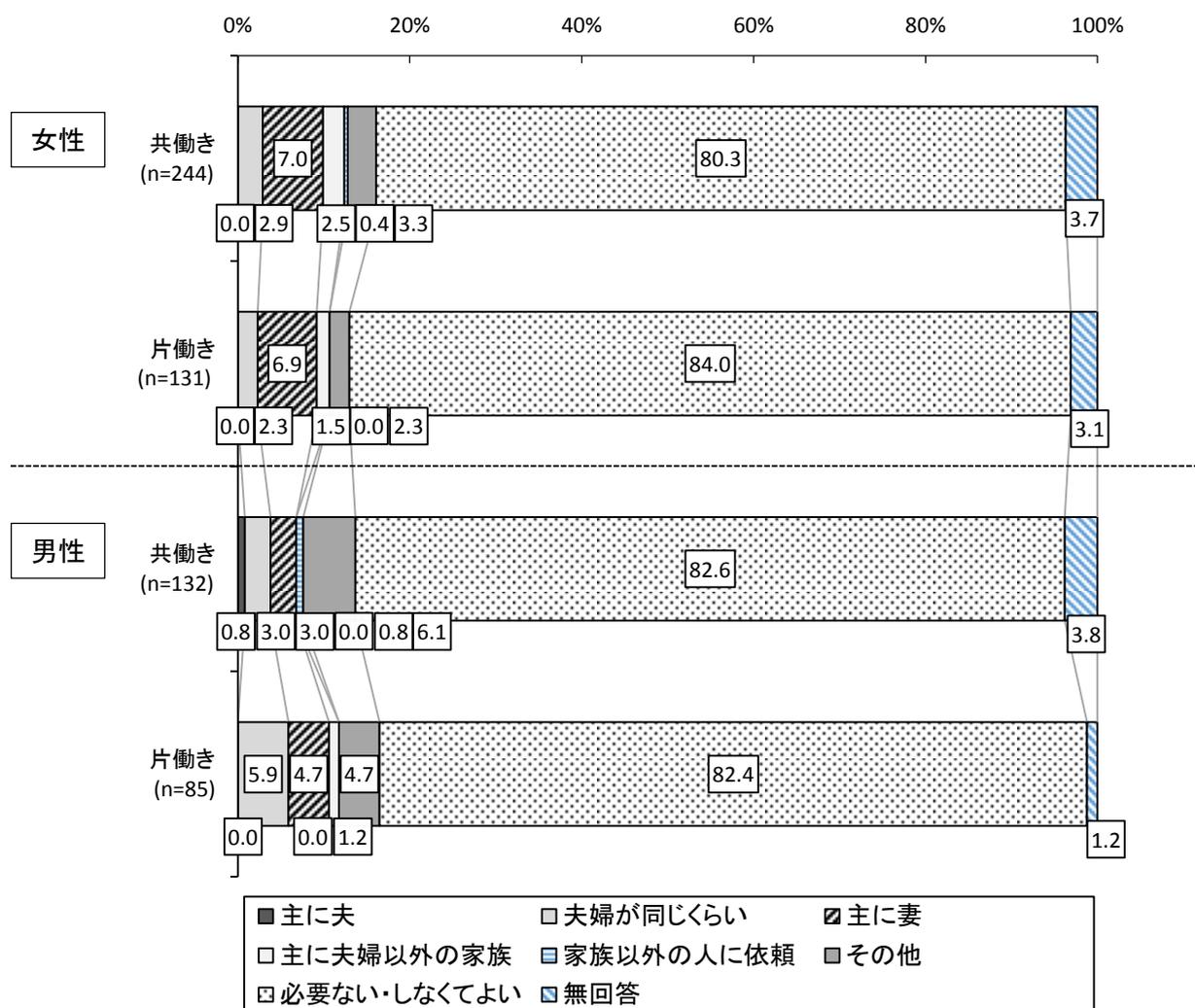
図表 4-7 家庭での役割分担(E)〈学校などの行事への参加〉(性別・夫婦の働き方別)



(F) 高齢者などの介護

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、男女ともに夫婦の働き方にかかわらず、「必要ない・しなくてよい」が最も多く、8割以上である。【図表 4-8 参照】

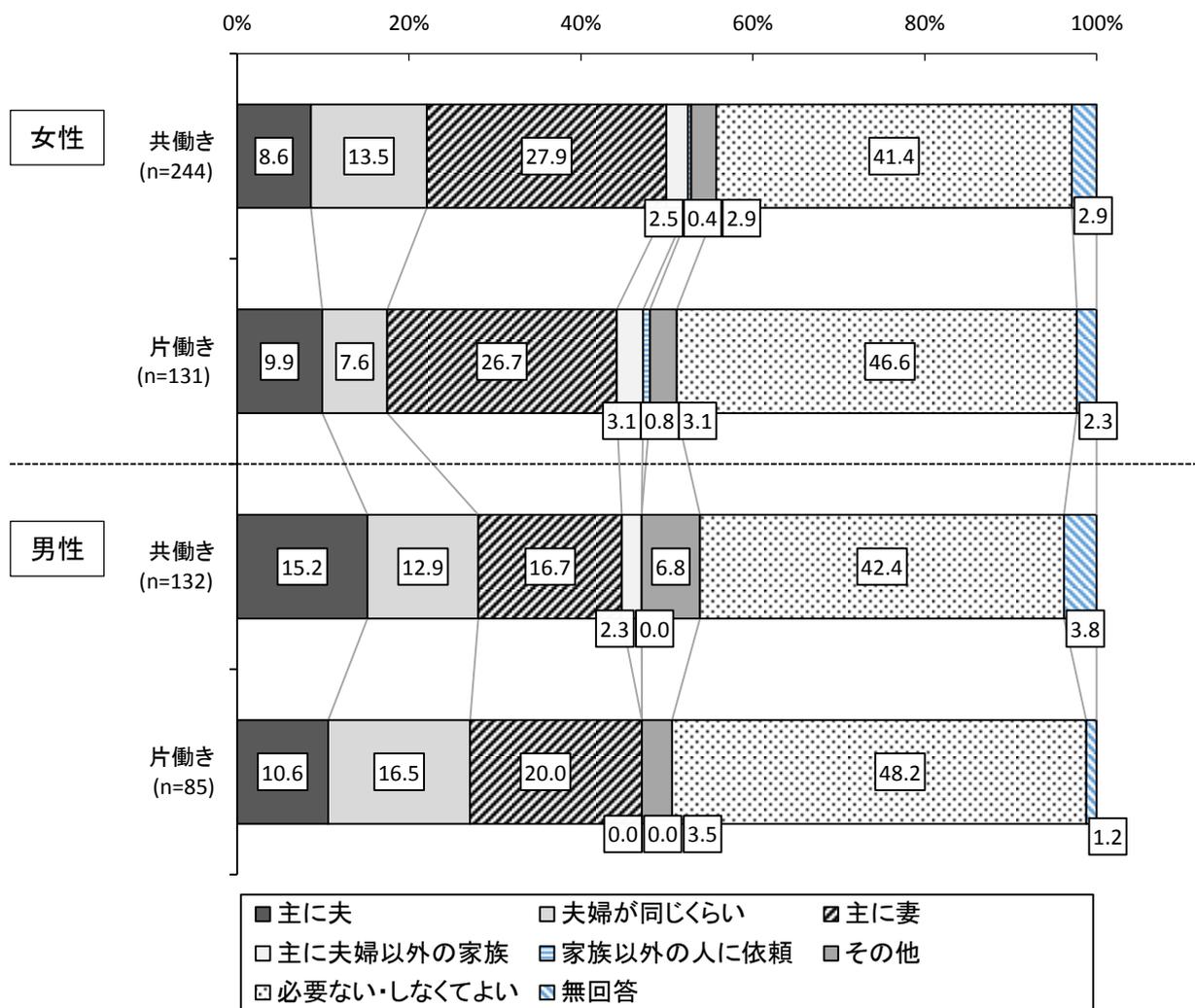
図表 4-8 家庭での役割分担(F)〈高齢者などの介護〉(性別・夫婦の働き方別)



(G) 町内自治会などの地域活動

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、夫婦の働き方にかかわらず、「必要ない・しなくてよい」を除き、「主に妻」が最も多い。「主に妻」について、男女を比較すると、女性（共働き 27.9%、片働き 26.7%）の方が、男性（共働き 16.7%、片働き 20.0%）より多い。
【図表 4-9 参照】

図表 4-9 家庭での役割分担(G)〈町内自治会などの地域活動〉(性別・夫婦の働き方別)



5. 仕事と生活の調和のために今後取り組むべき内容

(1) 各分野の男女の地位

問17 あなたは現在、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

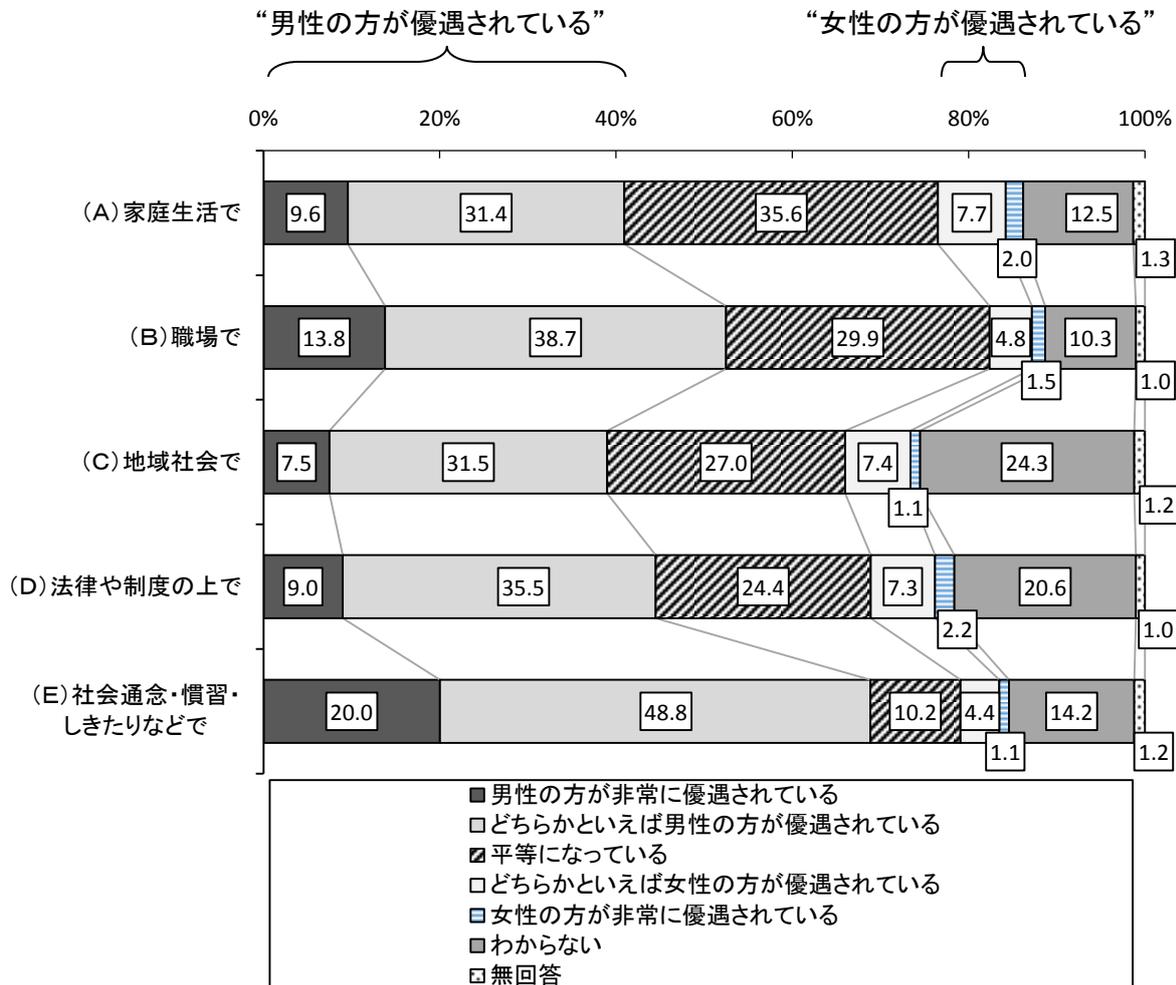
(A)～(E)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

「社会通念・慣習・しきたりなど」で7割近く、「職場」で5割以上が、「男性の方が優遇されている」と回答。

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性の方が優遇されている”は、「社会通念・慣習・しきたりなど」が最も多く68.8%、続いて「職場」が52.5%である。「平等になっている」は、「家庭生活」が35.6%と最も多く、「社会通念・慣習・しきたりなど」が10.2%と最も少ない。

【図表 5-1 参照】

図表 5-1 各分野の男女の地位(全体、n=963)



(A) 家庭生活で

全体の約4割、女性の約5割が家庭で“男性の方が優遇されている”と回答。

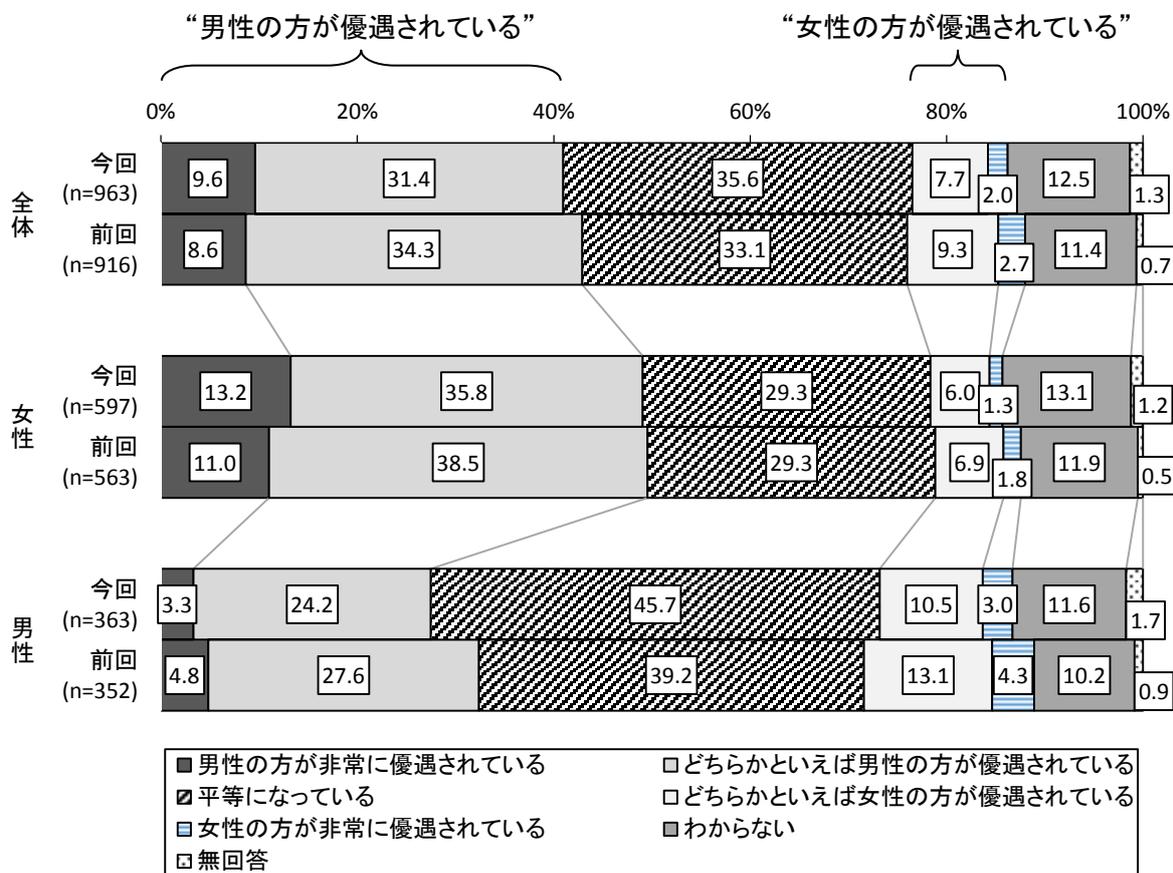
全体では、“男性の方が優遇されている”が41.0%である。一方、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた“女性の方が優遇されている”は9.7%である。また、「平等になっている」は35.6%である。

性別で見ると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が35.8%で最も多いが、男性では「平等になっている」が45.7%で最も多い。また“男性の方が優遇されている”は、女性では49.0%、男性では27.5%で、女性の方が男性より21.5ポイント多い。

前回調査と比較すると、女性では大きな変化はみられないが、男性では“男性の方が優遇されている”が4.9ポイント、“女性の方が優遇されている”が3.9ポイントそれぞれ減少し、「平等になっている」が6.5ポイント増加している。

【図表 5-2 参照】

図表 5-2 各分野の男女の地位(A)〈家庭生活で〉(全体、性別、前回比較)



(B) 職場で

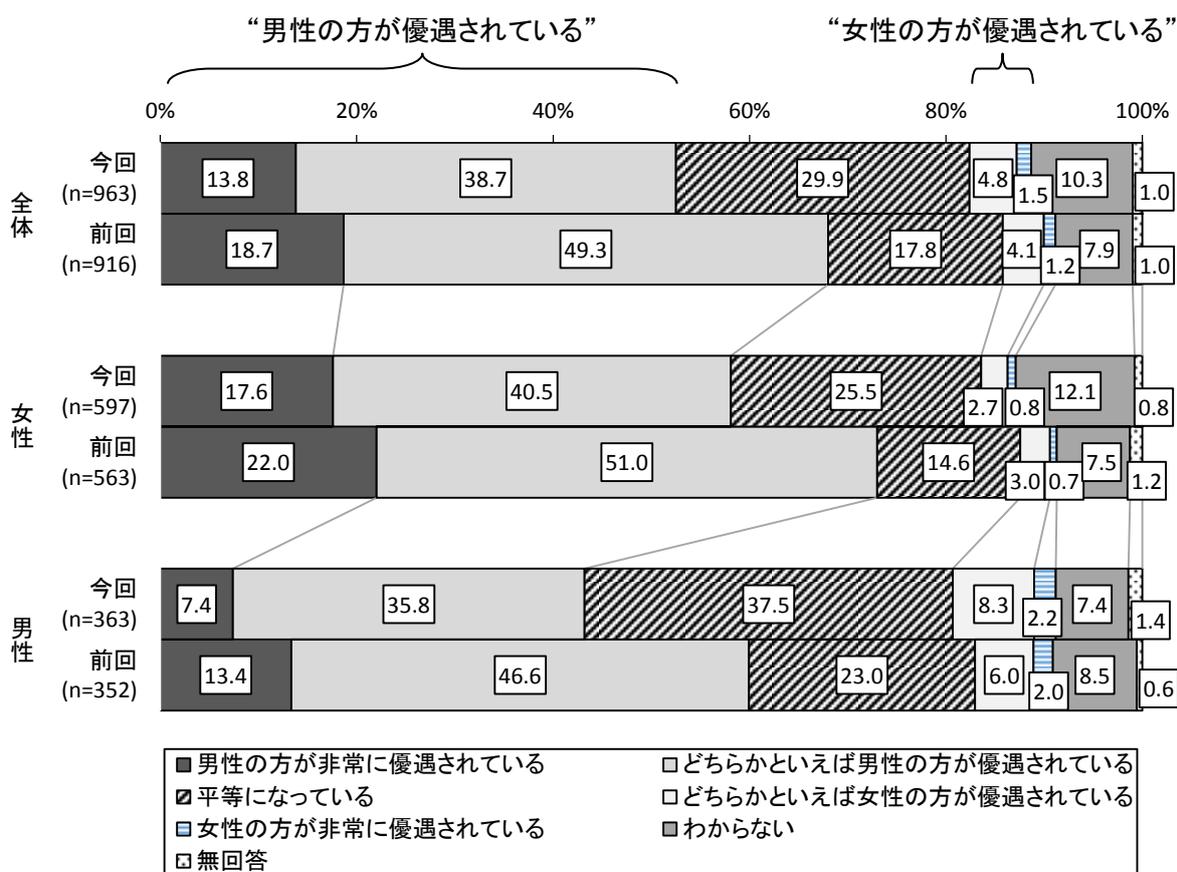
全体の5割以上、女性の6割近くが職場で“男性の方が優遇されている”と回答。男女ともに「平等になっている」が増加。

全体では、“男性の方が優遇されている”は52.5%である。一方、“女性の方が優遇されている”は6.3%である。また、「平等になっている」は29.9%である。

性別でみると、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(40.5%)が最も多く、男性は「平等になっている」(37.5%)が最も多い。また“男性の方が優遇されている”は女性で58.1%、男性では43.2%で、女性の方が男性より14.9ポイント多い。

前回調査と比較すると、男女ともに“男性の方が優遇されている”(女性14.9ポイント、男性16.8ポイント)が減少し、「平等になっている」(女性10.9ポイント、男性14.5ポイント)が増加している。 【図表5-3参照】

図表 5-3 各分野の男女の地位(B)〈職場で〉(全体、性別、前回比較)



(C) 地域社会で

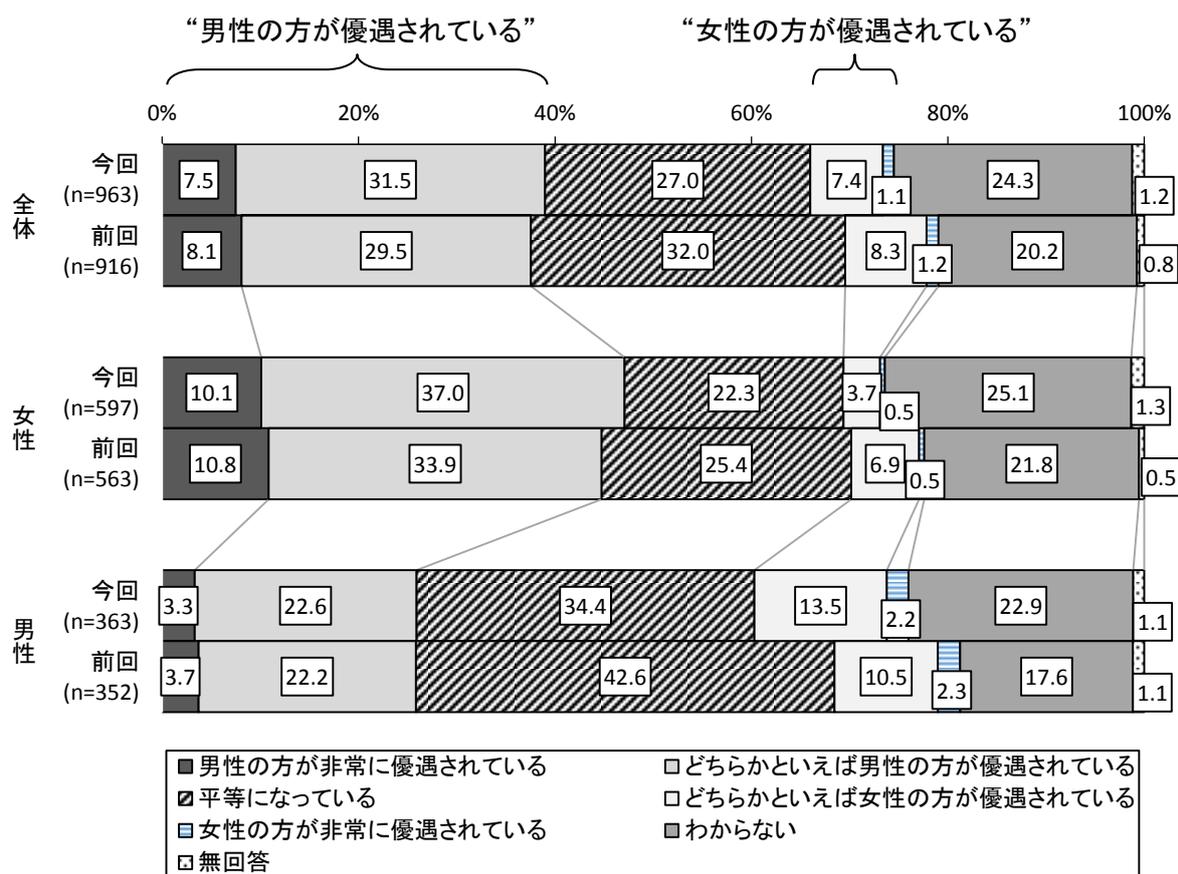
全体の約4割、女性の5割近くが地域社会で“男性の方が優遇されている”と回答。

全体では、“男性の方が優遇されている”が39.0%である。一方、“女性の方が優遇されている”は8.5%である。また、「平等になっている」は27.0%である。

性別で見ると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が37.0%で最も多いが、男性では「平等になっている」が34.4%で最も多い。“男性の方が優遇されている”は、女性では47.1%、男性では25.9%で、女性の方が男性より21.2ポイント多い。

前回調査と比較すると、男性では「平等になっている」が8.2ポイント減少している。 【図表5-4参照】

図表 5-4 各分野の男女の地位(C)〈地域社会で〉(全体、性別、前回比較)



(D) 法律や制度の上で

全体の4割半、女性の5割以上が法律や制度の上で“男性の方が優遇されている”と回答。

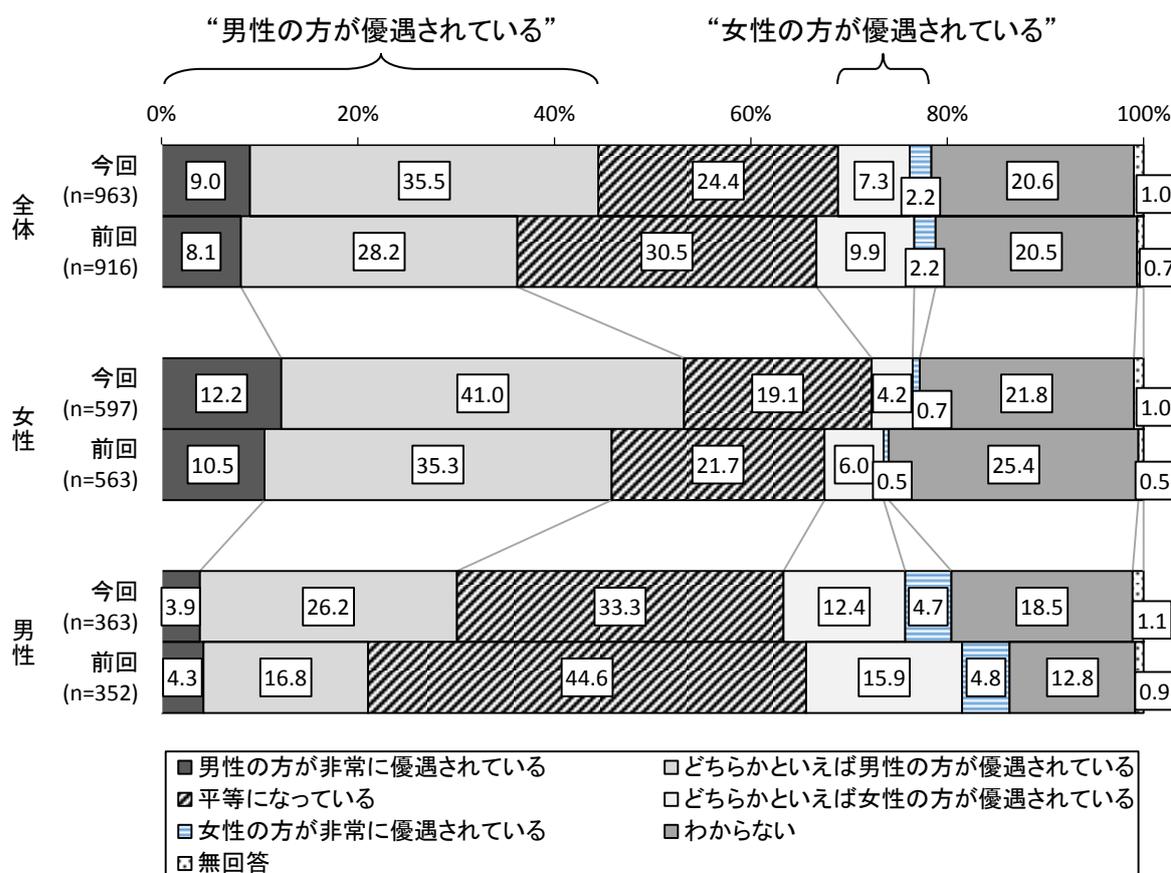
全体では、“男性の方が優遇されている”が44.5%である。一方、“女性の方が優遇されている”は9.5%である。また、「平等になっている」は24.4%である。

性別で見ると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が41.0%で最も多いが、男性では「平等になっている」が33.3%で最も多い。“男性の方が優遇されている”は、女性では53.2%、男性では30.1%で、女性の方が男性より23.1ポイント多い。

前回調査と比較すると、男女ともに“男性の方が優遇されている”（女性7.4ポイント、男性9.0ポイント）が増加している。また、「平等になっている」は男性で11.3ポイント減少している。

【図表 5-5 参照】

図表 5-5 各分野の男女の地位(D)〈法律や制度の上で〉(全体、性別、前回比較)



(E) 社会通念・慣習・しきたりなどで

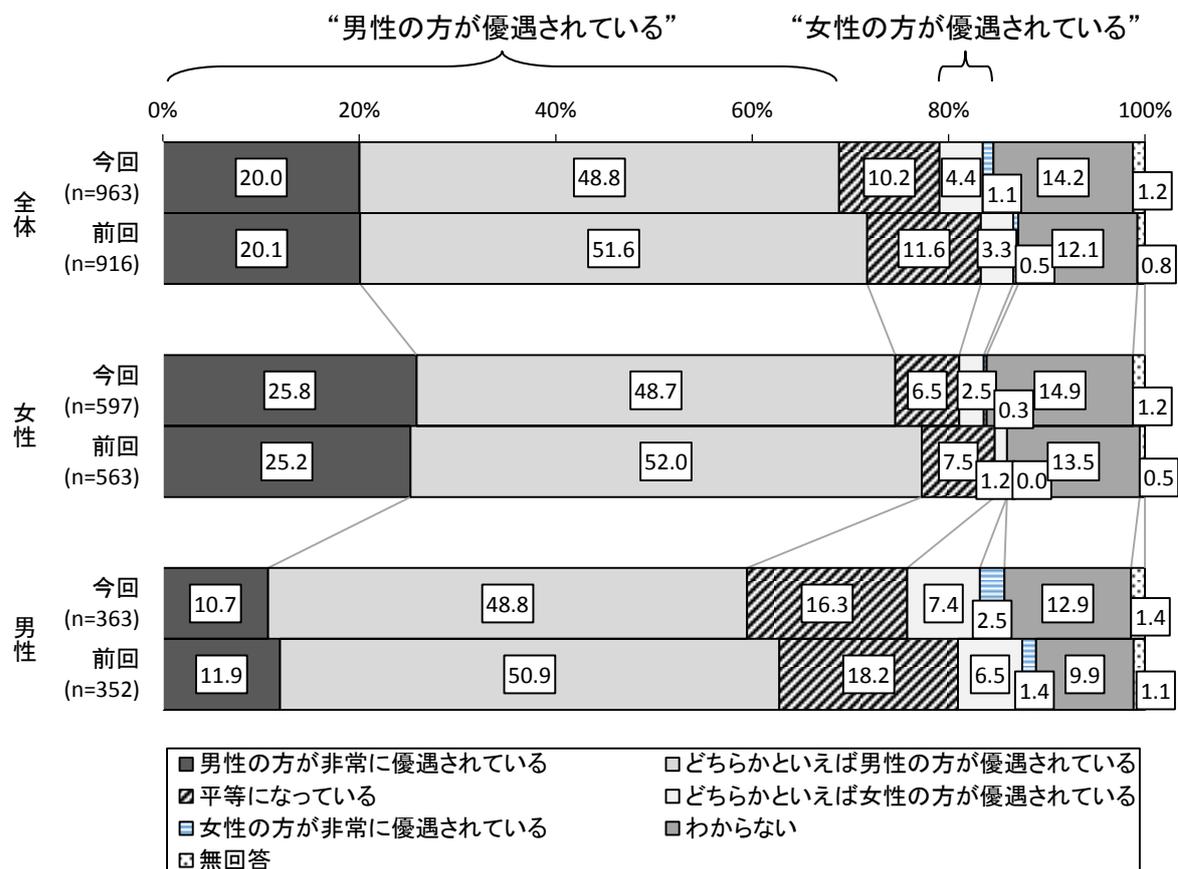
全体の7割近く、女性の7割半、男性の約6割が社会通念・慣習・しきたりなどで“男性の方が優遇されている”と回答。

全体では、“男性の方が優遇されている”が68.8%である。一方、“女性の方が優遇されている”は5.5%である。また、「平等になっている」は10.2%である。

性別で見ると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(女性48.7%、男性48.8%)が最も多い。“男性の方が優遇されている”は、女性では74.5%、男性では59.5%で、女性の方が男性より15.0ポイント多い。

前回調査と比較すると、男女ともに大きな変化はみられない。【図表 5-6 参照】

図表 5-6 各分野の男女の地位(E)〈社会通念・慣習・しきたりなどで〉(全体、性別、前回比較)



(2) 性別役割分担意識について

問18 あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どのように思いますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

“賛成”は全体の4割近くで前回調査より減少、“反対”は全体の4割半で前回調査より増加。

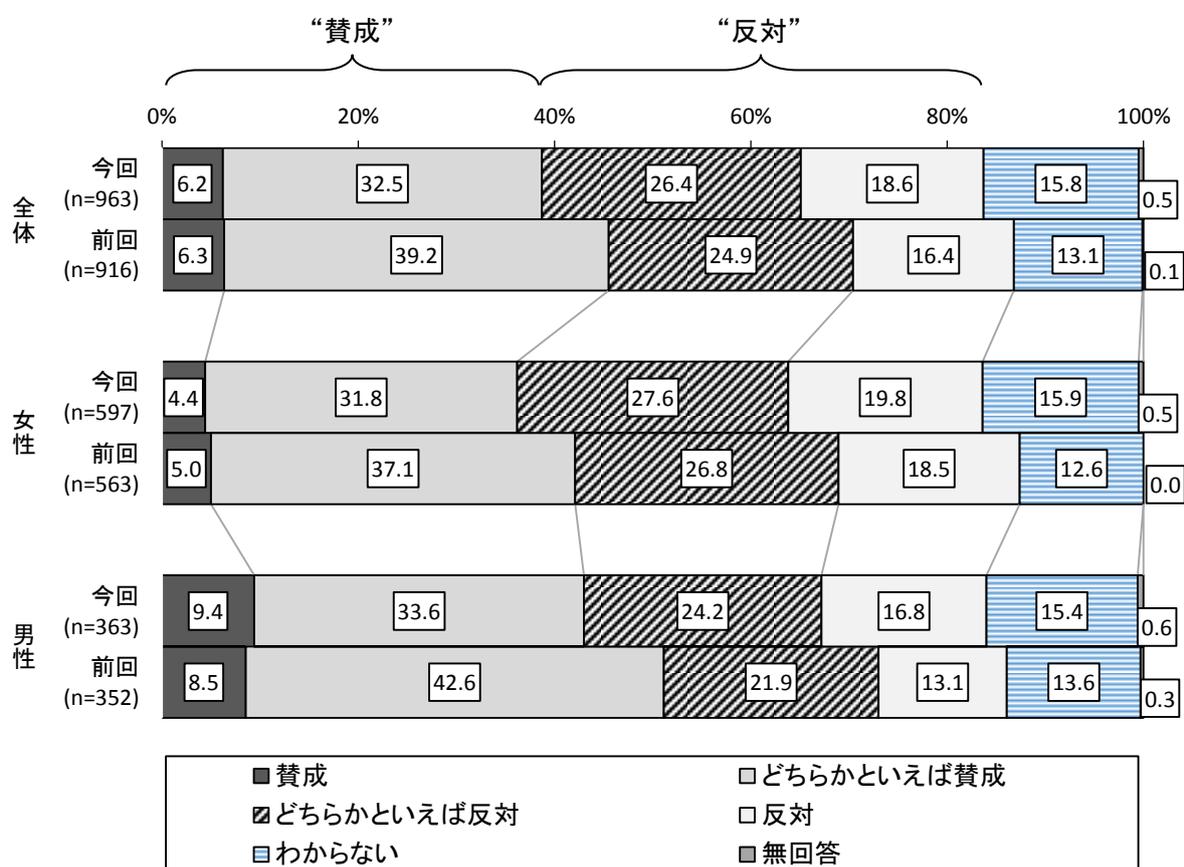
全体では、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の両者を合わせた“賛成”は38.7%である。一方、「どちらかといえば反対」、「反対」の両者を合わせた“反対”は45.0%である。“反対”の方が“賛成”より6.3ポイント多い。

性別で見ると、“賛成”は男性(43.0%)が、女性(36.2%)を6.8ポイント上回る。一方、“反対”は女性(47.4%)が、男性(41.0%)を6.4ポイント上回る。

前回調査と比較すると、全体では“賛成”が6.8ポイント減少し、“反対”が3.7ポイント増加した。男女ともに“賛成”は女性で5.9ポイント、男性で8.1ポイント減少している。一方、“反対”は男性で6.0ポイント増加している。

【図表5-7 参照】

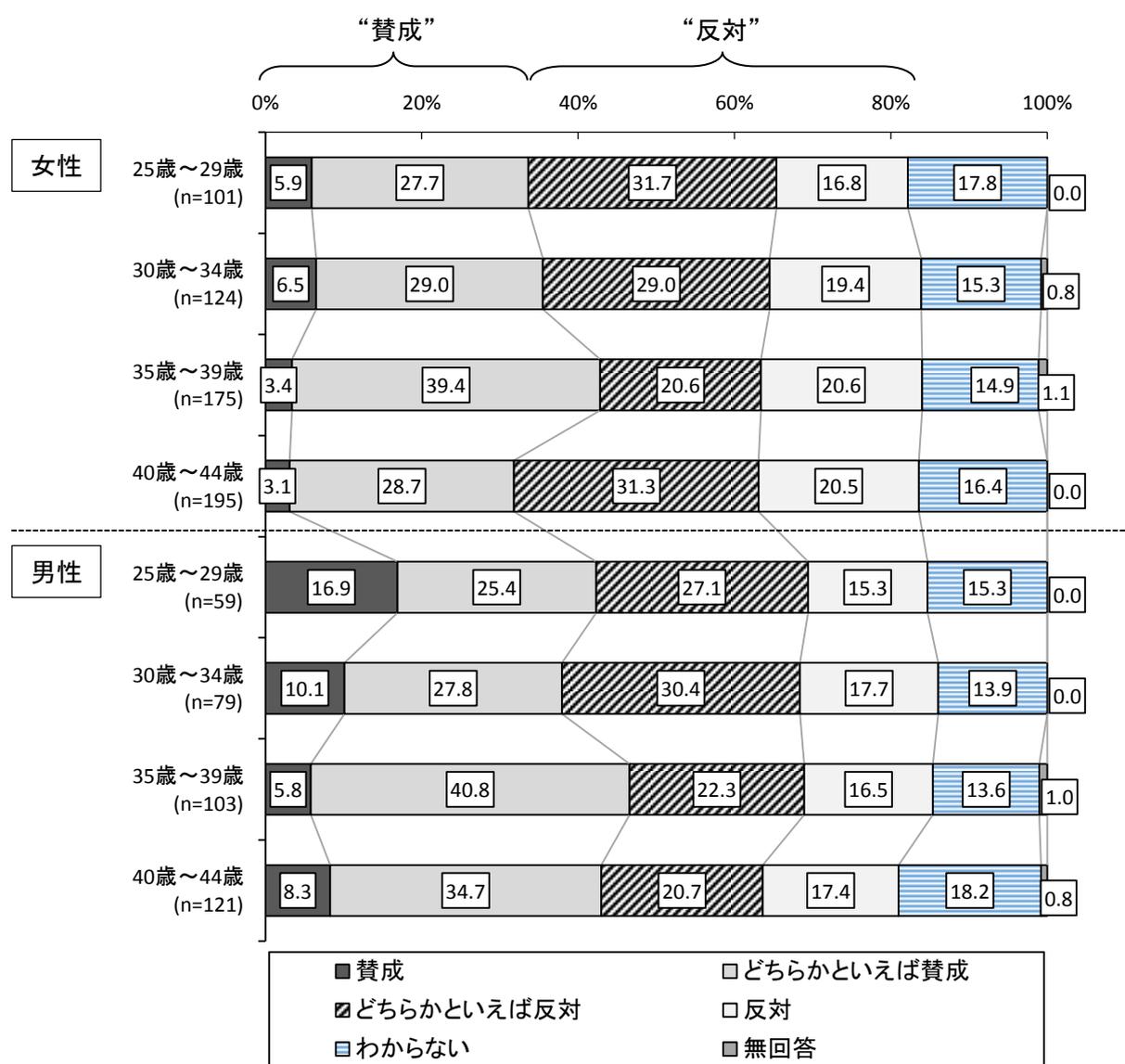
図表 5-7 性別役割分担について(全体、性別、前回比較)



男女それぞれを年代別にみると、女性では“賛成”は35歳～39歳で最も多く42.8%、続いて、30歳～34歳で35.5%である。“反対”は40歳～44歳で最も多く51.8%である。男性では“賛成”は35歳～39歳で最も多く46.6%、続いて、40歳～44歳で43.0%である。“反対”は30歳～34歳で最も多く48.1%である。

【図表 5-8 参照】

図表 5-8 性別役割分担について(性別、年代別)



(3) ワーク・ライフ・バランスのために取り組むべき内容

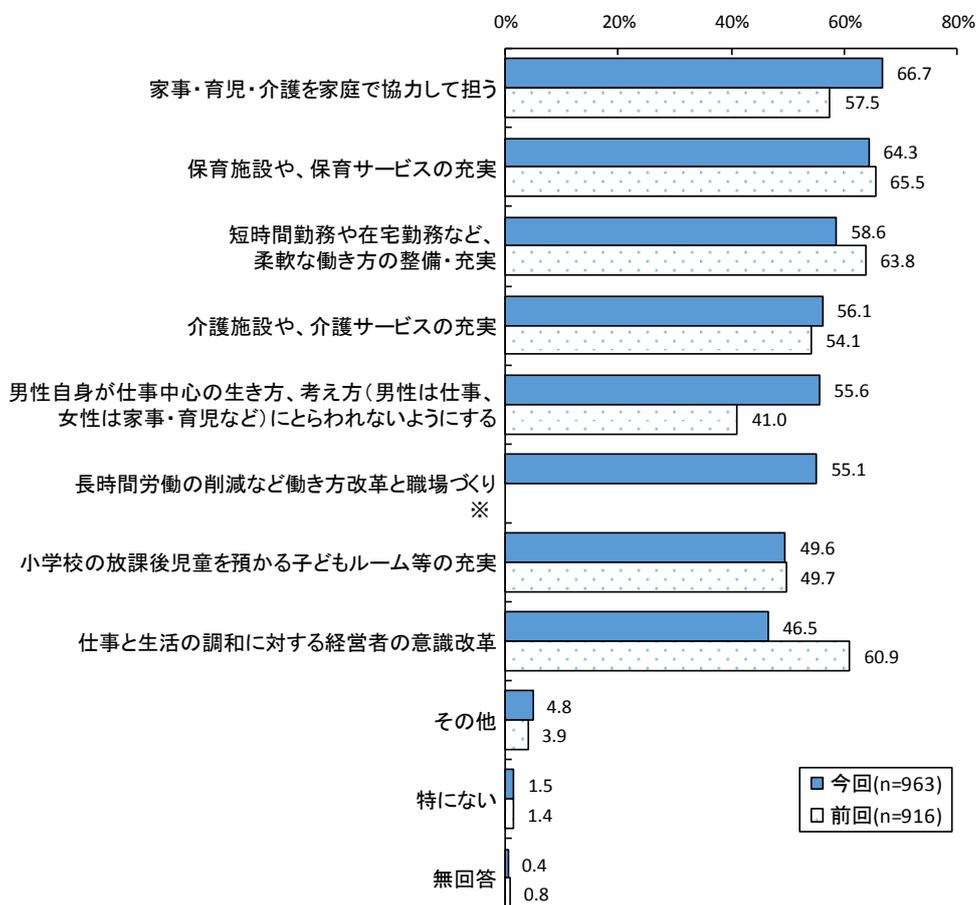
問19 あなたは、仕事と生活の調和が実現できる社会をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」が最も多く、7割近い。

全体では、「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」が最も多く66.7%、続いて「保育施設や、保育サービスの充実」が64.3%、「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実」が58.6%、「介護施設や、介護サービスの充実」が56.1%、「男性自身が仕事中心の生き方、考え方（男性は仕事、女性は家事・育児など）にとらわれないようにする」が55.6%、「長時間労働の削減など働き方改革と職場づくり」が55.1%である。

前回調査と比較すると、「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」が9.2ポイント、「男性自身が仕事中心の生き方、考え方（男性は仕事、女性は家事・育児など）にとらわれないようにする」が14.6ポイント増加している。一方、「仕事と生活の調和に対する経営者の意識改革」は14.4ポイント減少している。【図表5-9参照】

図表 5-9 ワーク・ライフ・バランスのために取り組むべき内容(全体、前回比較)

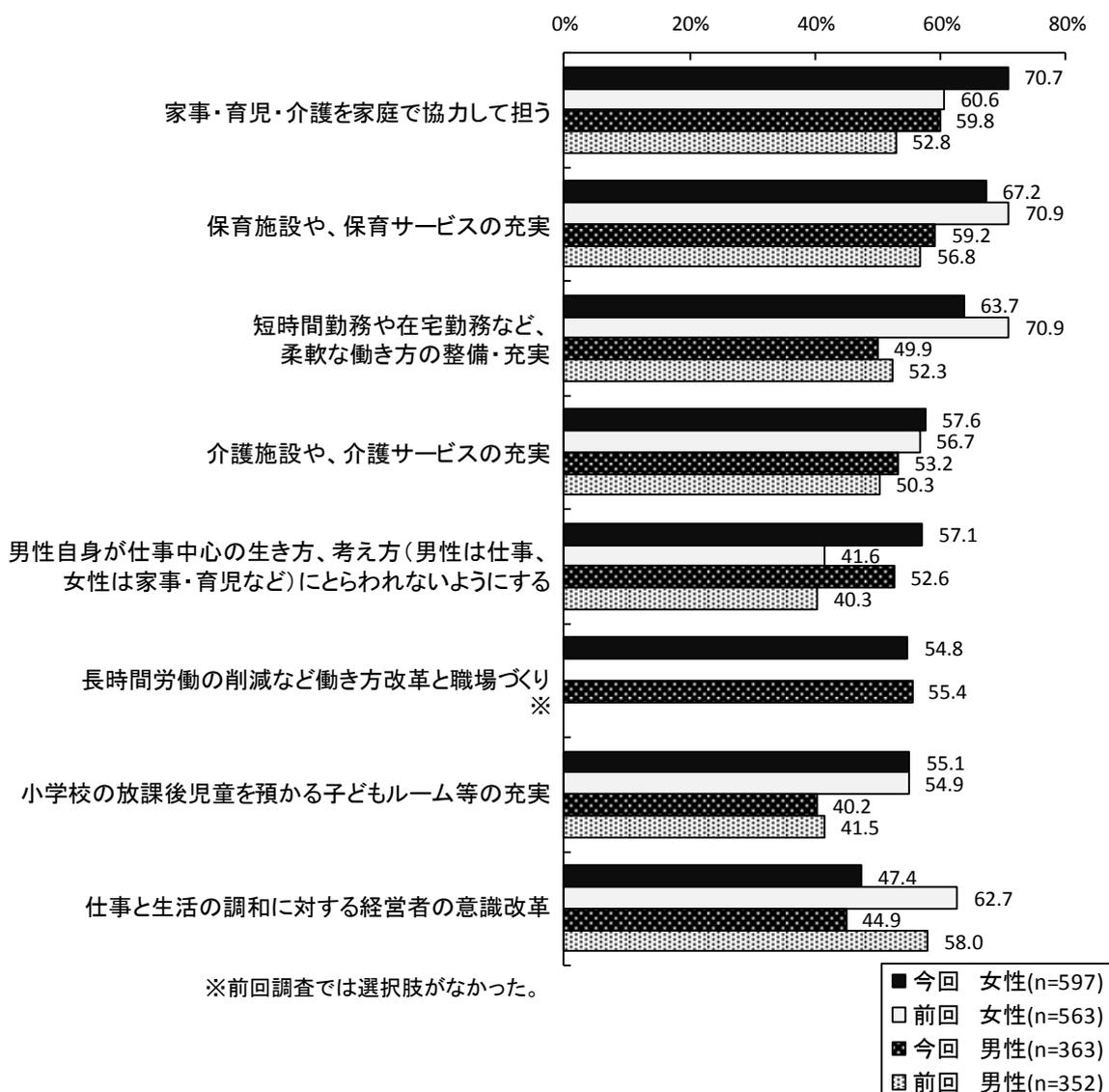


性別でみると、「長時間労働の削減など働き方改革と職場づくり」を除くすべての項目で女性の割合が男性を上回る。男女間での差をみると、「小学校の放課後児童を預かる子どもルームの充実」で 14.9 ポイント、「短時間勤務や在宅勤務など柔軟な働き方の整備・充実」で 13.8 ポイント、「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」で 10.9 ポイントと、女性の方が男性より多い。

前回調査と比較すると、男女ともに「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」（女性 10.1 ポイント、男性 7.0 ポイント）、「男性自身が仕事中心の生き方、考え方（男性は仕事、女性は家事・育児など）にとらわれないようにする」（女性 15.5 ポイント、男性 12.3 ポイント）が増加している。一方、男女ともに「仕事と生活の調和に対する経営者の意識改革」（女性 15.3 ポイント、男性 13.1 ポイント）は減少している。

【図表 5-10 参照】

図表 5-10 ワーク・ライフ・バランスのために取り組むべき内容(性別、前回比較、具体的項目のみ)



男女それぞれを年代別にみると、女性では、25歳～29歳、30歳～34歳では「保育施設や、保育サービスの充実」（順に80.2%、71.0%）が最も多く、35歳～39歳、40歳～44歳では「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」（順に69.7%、70.8%）が最も多い。男性では、25歳～29歳、30歳～34歳では「保育施設や、保育サービスの充実」（順に72.9%、63.3%）が最も多く、35歳～39歳では「男性自身が仕事中心の生き方、考え方（男性は仕事、女性は家事・育児など）にとらわれないようにする」（60.2%）が最も多く、40歳～44歳では「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」（62.0%）が最も多い。【図表 5-11 参照】

図表 5-11 ワーク・ライフ・バランスのために取り組むべき内容(性別・年代別)

		家事・育児・介護を家庭で協力して担う	保育施設や、保育サービスの充実	短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実	介護施設や、介護サービスの充実	男性自身が仕事中心の生き方、考え方（男性は仕事、女性は家事・育児など）にとらわれないようにする	長時間労働の削減など働き方改革と職場づくり	小学校の放課後児童を預かる子どもルーム等の充実	仕事と生活の調和に対する経営者の意識改革	その他	特になし	無回答
全体 (n=963)		66.7	64.3	58.6	56.1	55.6	55.1	49.6	46.5	4.8	1.5	0.4
女性 (n=595)	25歳～29歳 (n=101)	76.2	80.2	65.3	52.5	56.4	59.4	52.5	43.6	4.0	0.0	0.0
	30歳～34歳 (n=124)	66.9	71.0	68.5	54.0	54.0	59.7	55.6	49.2	7.3	2.4	0.8
	35歳～39歳 (n=175)	69.7	65.7	63.4	57.7	55.4	52.0	56.6	44.6	5.1	1.7	0.0
	40歳～44歳 (n=195)	70.8	59.5	60.0	62.6	61.0	52.3	54.9	50.8	3.1	0.0	0.0
男性 (n=362)	25歳～29歳 (n=59)	69.5	72.9	45.8	54.2	47.5	62.7	35.6	40.7	3.4	1.7	0.0
	30歳～34歳 (n=79)	54.4	63.3	57.0	51.9	48.1	51.9	41.8	44.3	6.3	3.8	0.0
	35歳～39歳 (n=103)	56.3	56.3	51.5	50.5	60.2	55.3	40.8	45.6	5.8	2.9	2.9
	40歳～44歳 (n=121)	62.0	52.9	46.3	56.2	51.2	53.7	40.5	47.1	4.1	0.8	0.0

Ⅲ. 調査結果のポイント・前回調査との比較

1. 「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」

- (1) 「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉の認知度は、ともに 7 割近くが“言葉を知っている（聞いたことがある）”と回答。【P15～18 参照】
- (2) 「仕事」、「家庭」、「自分の時間」の満足度 【P19～33 参照】
- (A) 仕事の満足度は、男女ともに 6 割近くが“満足”と回答。前回調査と比較すると、全体では“満足”が 4.7 ポイント増加している。【P19～22 参照】
- (B) 家庭の満足度は、男性は 8 割近く、女性は約 8 割が“満足”と回答。前回調査と比較すると、全体では大きな変化はみられないが、男性では“満足”が 7.0 ポイント減少している。【P23～26 参照】
- (C) 自分の時間の満足度は、男女ともに 5 割以上が“満足”と回答。前回調査と比較すると、全体、女性、男性いずれも“満足”が増加している。【P27～29 参照】
- (A) 仕事・(B) 家庭の満足度については、「仕事・家庭の両方満足」は約 5 割。前回調査と比較すると、女性で「仕事・家庭の両方満足」が 6.6 ポイント増加している。【P30～33 参照】
- (3) 女性が働くことについては、「継続就労型」が 4 割以上で前回調査より増加。特に男性では「継続就労型」が 14.0 ポイント増加している。【P34～36 参照】

2. 育児と介護

- (1) 育児休業・介護休業の取得経験
- (A) 育児休業を「取得したことがある」のは、女性で 20.4% (122 人)、男性で 2.5% (9 人)。【P37～38 参照】
- (B) 介護休業を「取得したことがある」のは、女性で 1.0% (6 人)、男性は全くない。【P39～40 参照】
- (2) 男性が育児休業を取得することについては、「取得したいが、現実的に難しい（だろう）」が約 6 割。前回調査と比較すると、男性では「取得したいが難しい」が 3.9 ポイント減少している。女性では、大きな変化はみられない。【P41 参照】
- (3) 男性が育児休業を取得しない・するのが難しい理由は、「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」が最も多く、6 割以上。前回調査と比較すると、大きな変化はみられない。【P42～44 参照】
- (4) 将来介護をする時の不安の有無は、9 割近くが「将来、親などの介護をすることに不安を感じる」と回答。【P45～47 参照】
- (5) 介護の不安の内容は、「ストレスや精神的負担が大きいこと」が最も多く、7 割半。【P48～49 参照】
- (6) 仕事と介護の両立に対する考えは、「できるだけ両立したい」と 5 割以上が回答。【P50～51 参照】

- (7) **仕事と介護の両立に直面した場合の課題**は、「介護のために休むなどすると、同じ職場の人の業務量が増えてしまう」が最も多く、6割以上。【P52～53 参照】
- (8) **企業における仕事と介護の両立支援として重要だと思うこと**は、「制度を利用しやすい職場づくりをすること」が最も多く、7割近い。【P54～55 参照】

3. 仕事について

- (1) **仕事に対する意欲**については、「意欲を持って積極的に仕事に取り組んでいる」と約8割が回答。前回調査と比較すると、女性で“そう思う”が4.7ポイント増加している。【P56 参照】
- (2) **職場の現状** 【P57～66 参照】
- (A) **「職場のコミュニケーションが不足している」**と4割近くが回答。前回調査と比較すると、“そう思う”は女性で5.3ポイント減少、男性で8.4ポイント増加している。【P57～58 参照】
- (B) **「残業が多い」**と回答した男性は5割以上。前回調査と比較すると、“そう思う”は、男性で7.6ポイント減少している。“そう思わない”は、男性で10.6ポイント増加している。【P59～60 参照】
- (C) **「男性・女性が平等に昇進したり、責任ある仕事を任されている」**と5割半が回答。【P61～62 参照】
- (D) **「育児・介護休業や短時間勤務など、柔軟な働き方ができる制度が整備されている」**と女性の5割半、男性の4割半が回答。前回調査と比較すると、“そう思わない”は、女性で5.2ポイント減少している。【P63～64 参照】
- (E) **「男性への育児・介護休暇取得促進を行っている」**とは思わないと約6割が回答。前回調査と比較すると、女性では“そう思わない”が6.0ポイント減少している。男性では、大きな変化はみられない。【P65～66 参照】
- (3) **現在仕事に就いていない理由**は、「育児・子どもの教育のため」が最も多く、女性の7割近くが回答。前回調査と比較すると、「年齢・収入・勤務時間などが希望する求人条件とあわないから」は11.7ポイント増加、「自分の希望する内容の仕事が見つからないから」は12.1ポイント減少している。【P67～68 参照】
- (4) **今後の就労意思**については、現在仕事に就いていない人の8割半が就労の意思があると回答。前回調査と比較すると、大きな変化はみられない。【P69 参照】

4. 家庭生活について

- (1) **家庭での役割分担**については、「世帯の収入を得る」は「主に夫」が7割以上、「食事の用意」は「主に妻」が8割半、「掃除・洗濯」は「主に妻」が約8割。前回調査と比較すると、「世帯の収入を得る」では「主に夫」が10.6ポイント減少。「町内自治会などの地域活動」では「主に妻」が11.8ポイント減少し、「必要ない・しなくてよい」が18.6ポイント増加している。【P70～78 参照】

5. 仕事と生活の調和のために今後取り組むべき内容

(1) **各分野の男女の地位**は、「社会通念・慣習・しきたりなど」で7割近く、「職場」で5割以上が、“男性の方が優遇されている”と回答。【P79～84 参照】

(A) **家庭生活**では、全体の約4割、女性の約5割が“男性の方が優遇されている”と回答。前回調査と比較すると、女性では大きな変化はみられないが、男性では“男性の方が優遇されている”が4.9ポイント減少し、“平等になっている”が6.5ポイント増加している。【P80 参照】

(B) **職場**では、全体の5割以上、女性の6割近くが“男性の方が優遇されている”と回答。前回調査と比較すると、男女ともに“男性の方が優遇されている”（女性14.9ポイント、男性16.8ポイント）が減少し、「平等になっている」（女性10.9ポイント、男性14.5ポイント）が増加している。【P81 参照】

(C) **地域社会**では、全体の約4割、女性の5割近くが“男性の方が優遇されている”と回答。前回調査と比較すると、男性では「平等になっている」が8.2ポイント減少している。【P82 参照】

(D) **法律や制度の上**では、全体の4割半、女性の5割以上が“男性の方が優遇されている”と回答。前回調査と比較すると、男女ともに“男性の方が優遇されている”（女性7.4ポイント、男性9.0ポイント）が増加している。また、「平等になっている」は男性で11.3ポイント減少している。【P83 参照】

(E) **社会通念・慣習・しきたりなど**では、全体の7割近く、女性の7割半、男性の約6割が“男性の方が優遇されている”と回答。前回調査と比較すると、男女ともに大きな変化はみられない。【P84 参照】

(2) **性別役割分担意識**については、“賛成”は全体の4割近く、“反対”は全体の4割半。前回調査と比較すると、全体では“賛成”が6.8ポイント減少し、“反対”が3.7ポイント増加した。男女ともに“賛成”は女性で5.9ポイント、男性で8.1ポイント減少している。“反対”は男性で6.0ポイント増加している。【P85～86 参照】

(3) **ワーク・ライフ・バランスのために取り組むべき内容**は、「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」が最も多く、7割近い。前回調査と比較すると、「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」が9.2ポイント、「男性自身が仕事中心の生き方、考え方（男性は仕事、女性は家事・育児など）にとらわれないようにする」が14.6ポイント増加している。【P87～89 参照】

6. 今後に向けて

男女共同参画社会実現に向けての理解促進

「男性は仕事、女性は家事・育児」といった固定的性別役割分担意識について、前回調査では全体の45.5%が賛成であったが、今回調査では賛成が38.7%となり、前回調査と比べて減少している。また、反対が45.0%で賛成を上回る結果となり、固定的性別役割分担の解消に向けて意識が変化していることがわかった。ただし、女性よりも男性において賛成が多い傾向は今回調査でもみられた。この結果から「固定的性別役割分担意識」が依然として男性により強く残っていることが推察される。男性の意識改革を図るための広報・啓発が一層必要である。

また、「男女共同参画社会」という言葉を知っている（聞いたことがある）と回答した人が7割近くに上っていることから、「男女共同参画社会」という言葉が社会に浸透してきたことがうかがえる。

仕事と生活の調和の実現ができる社会づくり

育児休業を取得したことがあると回答した男性は2.5%にとどまり、男性の9割半が取得したことがないと回答している。取得が難しい理由は、「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」が最も多く、前回調査と変わらない。

また、仕事と介護の両立については、5割以上の人が「できるだけ両立したい」と回答しているが、職場の課題として「同じ職場の人の業務量が増えてしまう」が6割以上と最も多くなっている。これらのことから、育児・介護ともに、職場の人に迷惑をかける不安が、育児・介護休業取得をためらう主な要因となっていることがわかる。時短勤務や休暇取得は、時として、制度を利用しない者への業務の偏りも生んでしまう側面を持つ。育児や介護を特定の人だけが抱える問題とせず、日頃から互いに助け合える職場風土の醸成や業務改善に努めるなどの取り組みが必要である。

また、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っている（聞いたことがある）と回答した人は、7割近くに上っていることから、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉が社会に浸透してきたことがうかがえる。

職場における女性の活躍推進

男女の平等感については、職場では、男性が優遇されていると回答した人が5割以上で前回調査（7割近く）より減少し、平等になっていると回答した人が3割で前回調査（2割近く）より増加している。職場における男女の地位の平等感が高まっていることがわかった。男女の地位が平等であると回答した人が最も少なかったのは、社会通念・慣習・しきたりなどで、当分野で依然として男女の不平等感が根強いことを示している。

女性が働くことについては、前回調査では「一時中断型」（43.4%）が最も多く、「継続就労型」（36.5%）を上回っていたが、今回調査では「継続就労型」（43.3%）が最も多く、「一時中断型」（37.0%）を上回っている。特に男性で「継続就労型」（43.0%）が前回調査（29.0%）より増加しており、女性の就労に関する意識の変化がみられた。

一方、女性は前回調査と比較すると、「継続就労型」、「一時中断型」とともに大きな変化はみられなかった。女性が子育てや介護中でも就業を継続できるよう、柔軟で多様な働き方を可能とする環境整備の推進が必要である。また、働く意欲のある女性が活躍できるように、キャリアアップ支援や子育てが一段落した女性の再就職支援も求められている。

IV. 自由意見

仕事と生活の調和について寄せられた自由意見の中から年代別に掲載する。

注：（ ）内は、性別、職業形態を示している。（全 214 件中 65 件を原文のまま掲載）

25 歳～29 歳

- 調和を実現したいと思っけていても、現実には難しい。そもそもやりがいを感じ仕事をしている人は少ないと思う。将来を考え金銭の為に、精神的、肉体的にストレスを抱えながら、仕事中心の生き方をせざるを得ないからです。もっと自由に生きたい。時間に追われるばかりで息抜きもできない。今回の調査で改めて考えるキッカケになりました。ありがとうございました。（女性・正規の社（職）員）
- 家庭と仕事の両立をしているが、主人と私自身共に、人手不足の職についており、家庭のことまでやる余裕がありません。私は介護現場で仕事していますが、常に人手がなく、どうしても正社員が負担をおい、夏季・冬季共に長期の休みすらとることができない状況です。このような介護現場では、どんなにこの仕事が好きでも、安い給与・身体的負担・ストレスで続けていくのは厳しいと考える人が多くいます。（女性・正規の社（職）員）
- 保育の仕事をしています。残業の多さは、しょうがないと思いつつもなかなか改善されない現状です。将来、結婚してからも続けられるような仕事ではなく諦めています。女性が働き続けることへの不安があります。（女性・正規の社（職）員）
- フルタイムでの仕事と育児・介護の両立は、現実的に無理だと思っています。そのような状況になった場合、一度仕事をやめなければなりません。精神的にはその選択のほうがずっと楽だと感じます。男性が離職するのは困りますが、女性側が離職するのはそれほど抵抗がなく、再就職もしやすいと思いました。（女性・正規の社（職）員）
- 子や高齢者の支えとなるサービスの充実を図るには、その分野で働く人たちの処遇改善を第一に優先すべきだと思います。働き手のベースアップがより質の高いサービス提供につながり、施設の数も増え、安心して子や親を任せられるようになり、仕事ができると思います。今回のアンケートは、育児・介護ですが、障がいを持った家族を抱えている人にとっても大きく関係するテーマだと思います。（男性・正規の社（職）員）

- 生活に合わせた様々な働き方が選択できるようになるとより充実した生活が送れるようになると思います。（女性・正規の社（職）員）
- 保育園等に入れないと仕事に復帰できず、収入も減ってしまうので悩んでいます。職場の制度をフル活用しても、ブランクがありすぎると戻りにくいこともあり、なかなか家庭と仕事の両立は難しいと感じています。（女性・正規の社（職）員）
- 共働きでないと、経済的に家庭を維持することが困難です。幸いにも、保育園に入所できたが、子供が小学校に進学後の生活は、不安ばかりです（放課後、夏休み等は誰が子供の世話をできるか…）。千葉市は子育て支援が充実している方だとは思いますが、それでも、ワークライフバランスは全然とれていません。今後の子育て、親の介護、仕事を考えると、子供は1人が限界だと思えてしまいます。（男性・正規の社（職）員）
- 現状、保育や介護等のサービスを充実させるにも、その業種、業界そのものが、非常に厳しい状況におかれているように思います。サービスは広がってほしいですが、その中でひずみを出さないための仕組みも、必要なのではないかと思います。（女性・契約社（職）員）
- ワークライフバランスを中心に考える経営者をもっと必要だと思います。（従業員にも必要ですが）（女性・契約社（職）員）
- 私は、下の子が幼稚園に入園したら働こうと考えています。お迎えの時間などがあるので9：00～13：00などの仕事が増えてくれればうれしいです。時間さえ合えば職種は問わないと思う女性は多いと思います。（女性・専業主婦）
- 育児をしていると、「働く母親」「専業主婦の母親」どちらの立場にいたとしても批判を受けると思う。働いていれば「子どもがかわいそう」、専業主婦だと「育児ばかりでつまらなそう」etc…どの立場にいても批判を受ける母親はツライ。（女性・専業主婦）
- 障がいのある人でも働ける職場を多く作ってほしい。障がいのある人への偏見や差別を減らすようにしてほしい。（女性・無職）

30歳～34歳

- 育児・介護中の職員がクローズアップされる傾向にあるが、そうでない職員が過重に負担が重くなっている現実もあります。そのような職員に対し、会社がきちんと評価する取組や、人員配置の見直しが必要と考えます。（女性・正規の社（職）員）
- 2人目育休中です。女性が仕事を続けていくために、保育施設の充実も必要ですが、まずは、経営者・管理職の意識改革が絶対必要だと思います。「育児を全くしてこなかった、すべて奥さんまかせ」が自慢の世代が、今の管理職に多すぎます。この世代の考え方が変わらなければ、職場環境は絶対変わらないです。管理職教育などを義務づけるべきだと思う。（女性・正規の社（職）員）
- 男性の育休取得を推進すべきである。仕事を続けたくても、子を持つたら、辞めなくてはいけない理由の一つに育児の負担割合が女性に傾いていることがあると思う。積極的に男性が育児参加するためには、育児休業取得が必要だと思う。（女性・正規の社（職）員）
- これから出産を控えているので、産後の育児や仕事復帰などに不安があります。元々、働く事が好きなので、両立したいとの希望は強くありますが、職場での前例がない事や、経営者の理解が不十分であるように感じます。（産休、育休に関しても前例が無かった為、上司、経営者とのコミュニケーションを取るのに苦労しました。）（女性・正規の社（職）員）
- 本当は1年育休を取りたかったが、保育園が少なく、生後6ヶ月であずけることになった。とても悲しいし、不安だし、さびしい。年度途中で保育園にきちんと入れれば、こんな思いはしなかったのに。（女性・正規の社（職）員）
- 子どもを生んでも安心して働くことができる職場環境を整備してほしい（スタッフの人数がぎりぎり子どもが熱を出しても帰りにくい。他のスタッフの仕事の負担が多くなり残業時間がさらに長くなる現状です）。（女性・正規の社（職）員）
- 少子高齢化による人材不足や企業等における人員削減が続いていて、1人あたりの業務量が増加しているように感じる。日本人の性質からして、組織に迷惑をかけてまで、休暇を取得しようとする人は、少ないと思う。ある程度、休暇取得を義務化することが必要だと思う。（男性・正規の社（職）員）

- 育児、介護の有資格者が多いものの（保育士、介護士）離職率が多い。原因の一つである給与面、待遇面の格差をなくすことも重要。保育、介護施設を増やしても人が不足しては意味がないと思う。（男性・正規の社（職）員）
- 「問18」にあったような、「男性は仕事、女性は育児」という社会的風潮があるから育休が取得しづらい。男は仕事、家庭を守るためという雰囲気はなくし、男が育児したり、家庭で家事したりして、女性が働くでも、その個々の家庭の実態が家族の考えに合う雰囲気が社会にあるといいです。ぶっちゃけ、私は育児がしたい。せめて子どもが小さいときぐらい一緒にいる時間を長くすごせる環境づくりを社会全体に求めたいです。（男性・契約社（職）員）
- 子供がいても働きたい女性。子供と一緒にいたい（子育てしたい）が働かなくてはならない女性。それぞれ立場が違う。それによって男性の考え方も変わってくる。子供に対してのお金を、もっと負担が少なくなれば、皆が余裕をもった考え方、過ごし方、生き方が出来ると思う。（女性・パート、アルバイト、内職）
- 既婚者、子供がいる家庭ばかり優遇されますが独身者は1人ですべての事をやる為、精神的にも肉体的にも限界です。子供を産んだら、そんなにエライのでしょうか？（女性・パート、アルバイト、内職）
- 現在育休中だが、復帰後は産前と同じフルタイムでの仕事しか選択肢はない。子どもを育てる数年の間は年収が減ってもよいので時短で働けたらよいと思う。（女性・専業主婦）
- 仕事の拘束時間と、収入が見合わなすぎる。産後、自分も働いて家計を助けたいけれど、保育園は入れなそうだし、保育料も高いので、仕事に対して、不安しかない。（女性・専業主婦）
- 男性が仕事をして稼ぎ、女性が家事・育児。各家庭でのバランスはあると思うが、我が家では圧倒的に子供と関わる時間が少ない。その為、家庭の負担が多く感じる。言ったところで解決にならない。（女性・専業主婦）

35歳～39歳

- 千葉市に越してきて1年経ちません。仕事の給与には、地域差があり、家の近くで働くことができれば、仕事と生活のバランスが良く保てると思うのですが、結局近所では満足できる収入が得られず、長く続けている職を辞めるのも嫌で、長い時間をかけて通っています。通勤にかかる時間や体の疲労も調和については大事だと日々実感しています。（女性・正規の社（職）員）
- 40才を過ぎても転職ができる世の中になってほしい。世の中不景気で、これからの時代倒産する会社がいくつもでると思う。不景気になっても、正社員で就職、転職ができる世の中であってほしい。（女性・正規の社（職）員）
- 法律の整備はとても重要だと思います。しかし同時に国民の考え方が「こうあるべき」という固定概念に捉われすぎないこと、柔軟な発想をもっておくことも非常に大切だと思います。幼少期における教育の段階で、与えられる機会に男女差のないことの大切さを教える必要があると思います。今の若い人たちはそれに苦しんでいるのではないのでしょうか？（女性・正規の社（職）員）
- 特に女性は結婚や出産などでそれまでと同じようには働けなくなることは多い。それは、女性ならば仕方がないことではある。しかし、仕事と出産のタイミング、バランス、年齢のことなど考えたり迷ったりすることが多いのも現実だと思う。すべてをバランスよくこなすには周囲（家族、職場）の「理解」は必要不可欠であると思う。そのためには「社会の理解」ももちろん必要だ。（女性・正規の社（職）員）
- 理想は仕事と生活の調和がとれているのが望ましいがそうも言っていない。有能な者であれば8時間以内に仕事を終わらせられるかもしれないが、そうでなければ、生活の糧を得るために1日16時間以上働かねばならない人も多い。生活費を得るためには、「仕事と生活の調和」という言葉は淡い幻想のように感じる。（男性・正規の社（職）員）
- 子供を育てて行くには、妻の協力無しにはとても難しく、金銭面でも本当に頑張ってくれて家事を分担するのは当然ですし、感謝の気持と助け合いの精神を大事に行きたい。国は、子供が成人するまで、費用などの面を免除して頂きたい！（男性・正規の社（職）員）
- 日本人は勤勉な性格の為働くことが美学だと思っている。それを変えない限り、ワークライフバランスの充実や浸透は難しいと思う。（男性・正規の社（職）員）

- 私は、幼稚園の預かり保育が充実（7：30～18：30）していたので、仕事と家事の両立ができています。市からの幼稚園への補助制度もあり、心から感謝しています。ですが、このような制度は少数で、他の幼稚園に通うお母さんから、「うらやましい」と言われます。今後も増やし、継続して欲しいです。長子は、小学校に通い子どもルームを利用しています。こちらも、先生方が創意工夫し、長期休みも、子ども達を楽しませようと努力してくれています。ありがたいです。こうした環境を充実してくれたら、子どもへの気兼ねもなく働く気力がわきます。よろしく願います。（女性・契約社（職）員）
- 保育園はもちろん小学校の子どもルームを充実してほしい。民間でも多様なニーズに応えられるように補助金などをもっと出して参入しやすくしてほしい。（女性・パート、アルバイト、内職）
- 賃金が低いから働きながら育児や介護をしなければならない状況にあると思う。仕事を辞めても経済的に余裕がある状態で育児・介護ができるようになれば良い。また、仕事を辞めてしまうと、再就職が難しいことも考えられる。育児・介護をどうこうよりも雇用・賃金格差をどうにかすべき。（女性・パート、アルバイト、内職）
- 子どもと生活していくうえで仕事を辞めざるをえなくなったところです。小学生の壁は仕事をするうえで大きかった。働くことより育児を優先し、障害にならないよう働くことが一番なのかもしれないが、母子家庭ではむずかしく、親である私も、子供も両方我慢することを覚悟したところです。（女性・無職）

40歳～44歳

- 現在母子家庭、色々な面で余裕がありません。この記入も、子供との時間を裂いている。母子・父子に充実した社会的に制度がほしい。金銭で解決してほしくない。手当などで。平等でない。（女性・正規の社（職）員）
- 男女問わず短時間勤務や在宅勤務を行い易い環境作りが理想。育児も介護も、全ての方が無関係と考えずにいられるように。「その時」が来ても、悲観せずに行動出来るようにしたい。育児・介護で仕事から抜ける人がいる裏で、仕事をしている人もいる（その人の分も）。海外の事例も参考に良い環境に期待しています。（女性・正規の社（職）員）
- とにかく休暇が少なすぎる。有休消化率も低い状況を改善すべき。リフレッシュ休暇や育児、介護休暇は義務づけて消化させる位でないとダメです。（女性・正規の社（職）員）

- ワークライフバランスを考えようという職場のため働きやすいが、実際は別居している両親に子育てをお願いしないとフルタイムでは続けられないのが現状です。配偶者は家事を手伝ってくれますが、子供に関することは全て自分でやらなければなりません。配偶者と同じくらい稼いでも、家庭での負担は、私の方が多いです。今回のアンケートは、仕事と生活の調和について改めて考えさせられるよい機会になりました。ありがとうございました。（女性・正規の社（職）員）
- 男性はもっと子育てに関心を持つべきである！！（女性・正規の社（職）員）
- 様々な制度が存在しているが実際には利用させてもらえない。利用しようとするとう上司や同僚から圧力を受ける。又男性の長時間労働を改善してもらわないと何も協力し合うことができない。（女性・正規の社（職）員）
- 長時間労働の削減のため、効率化ばかりが優先されているが、既存の人が辞める又は産休になる可能性があることも考えてもらいたい。効率化だけでなく、他の人と仕事を分担できる職場づくり、適切な人数の人員配置ができなければ調和するのは難しいと思いました。（女性・正規の社（職）員）
- 大分変わって来たとは思いますが、まだまだ「女は家の中の事をしている」「男が育休を取るとは何事だ」という風潮は根強く残っています。女性の社会進出はかなり進んで来ましたが、反面、結婚、子育てが2の次になってしまい、少子高齢化になってしまったようにも思います。（女性・正規の社（職）員）
- 土日も気軽にあずかってくれる子どもルームがあるといい(子供があそびに行ける場所)。夜勤をしています子供が小さい時は(小学校卒業まで)回数をへらしてほしい。小学校就学や3年までは育短はありますが…夜小学生の子供2人だけで留守番してる事も多く問題だと思う。夜勤できないと正職員にはなれないため人材不足になるのは当然だと思う。（女性・正規の社（職）員）
- 私は4月から1才の子供を保育園に預け、育休明けで仕事に復帰しました。仕事と育児は両立出来ると思っていましたが、プラス家事もほとんどが私(主人は家事は得意ですが、帰宅が遅いので)。このままフルタイムでは体と気持ちが壊れそうな気がします。男性が家庭で過ごせる時間が増える世の中を期待しています。（女性・正規の社（職）員）
- 家族の介護について、私はまだ経験がありませんが、職場ではそのような状況に置かれている方が少なからずいらっしゃいます。私ももしその状況になったことを考えておかなければならないと感じています。（男性・正規の社（職）員）

- 長時間労働をなくすことが一番大切だと思う。家庭で過ごす時間が増えれば、ワークライフバランスの実現に一歩近づくのではないか。（男性・正規の社（職）員）
- 夫婦で同じアンケートを書くと互いの考えが良くわかってよいと思われる。（男性・正規の社（職）員）
- 好きなことを仕事にしているのでもっと仕事をしたいが、家庭も大事にしたいので時間が足りない…。（男性・正規の社（職）員）
- 会社としても従業員のための保育施設を準備するなどが必要と思う。（男性・正規の社（職）員）
- 残業や土曜日出勤の時短について会社も改善に取り組んでいるが、労働時間を短縮して、ゆとりの時間や家族と接する時間にしたい。（男性・正規の社（職）員）
- 母子家庭なので収入、家事、育児全て1人でやらなければならない状況。仕事も生活も、負担多すぎる。（女性・契約社（職）員）
- 今のところ、自分自身に関して言えば仕事と生活の調和がうまくとれているので満足しているが、親が70代で、私はひとりっ子なので介護のことを考えると不安になります。（女性・パート、アルバイト、内職）
- 近頃、単身赴任をしている世帯が増えているように感じます。働き盛りの世代は、育児中や介護中であっても、又、家を購入した後でも、転勤を余儀なくされることが多く、今後の事を考えるとそれを受け入れざるを得ません。会社員には選択の余地はありません。結果、単身赴任をすることになり、夫婦が別々の生活をするこゝで、育児や、介護、家事などを妻が1人で負担することになります。それを当然だとしている企業側の考え方に疑問を感じるし、仕事と生活が調和できているとは思えません。（女性・パート、アルバイト、内職）
- 保育施設や子どもルームの充実はよいが、やはり子どもは親が手をかけてあげるべきと思う。でも子どもをあずけて長時間働かなければならない現実がある（金銭面）。子育てで支援の面でどうにかならないかと思う。（女性・パート、アルバイト、内職）

- 介護や保育に携わる人の収入アップ。施設を増やしても働く人がいなければ（続けられなければ）これを利用せざるを得ない人達の仕事と生活の調和は難しいと思います。（女性・パート、アルバイト、内職）
- 子供に愛情をもって接する事ができれば共働きも良いと思います。忙しすぎて心に余裕がなく、学校行事や子供の様子を気にしてあげることができないようなら、小学校低学年位までは、仕事をセーブするのが良いと思います。社会は、女性も働く事が必要と言われますが、子供の心を豊かにしてあげられるのも女性の役割だと思います。（女性・パート、アルバイト、内職）
- 会社が、従業員のことを理解して、法律等も理解した上で、必要な支援をする事が大切だと思います。（男性・パート、アルバイト、内職）
- 家事などの仕事がある人は、6時間労働が適していると思う。2時間分、育児、家事、地域の活動など行うことができる。仕事と生活のバランスがうまく行くのではないかと思う。（女性・専業主婦）
- 昔ながらの男女の意識改革が大前提で話し合いをしても主人と意見があわない（小さい頃からの刷りこみが強い）ので、もっと男女平等の海外の事実を日本に流してほしい。（女性・専業主婦）
- 男性の育児参加は、男性にとっても大切な時間になると思う。私の旦那さんは1日しかとれなかった。（女性・専業主婦）
- 今回、解答に悩む問いが幾つかありました。それだけ明確に、「仕事と生活の調和」や「男女共同参画」について普段から考えをもっていないということだと思う。我が家は、夫が世帯収入の役割、妻である私が家庭内の全般を担っているが、お互い不満を感じることはない（と思う）。それは夫も私も、お互いを尊重しあっているからだと思う。社会も、個々の要望を尊重し、調整することが大切で、男だから、女だからといううわべで事を決めつけるのは良くない。ただ、女性にしかできないこともあり、また子どもたちを育てるということを疎かにしてはいけないということを肝に命じなければならない。（女性が育児に専念しろということではなく、社会の子どもをとり巻く環境を良くするということ）。（女性・専業主婦）

V. 巻末資料

【資料】内閣府(男女共同参画局)『男女共同参画社会に関する世論調査』(平成28年度)より

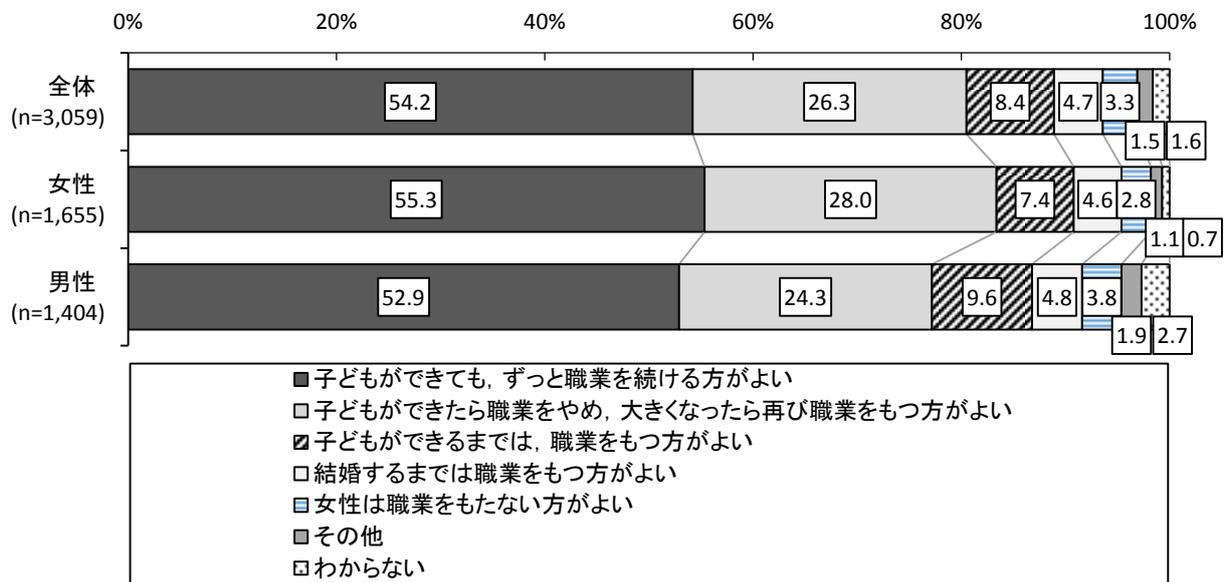
調査対象：全国18歳以上の日本国籍を有する者5,000人

調査時期：平成28年8月～9月

調査方法：調査員による個別面接聴取法

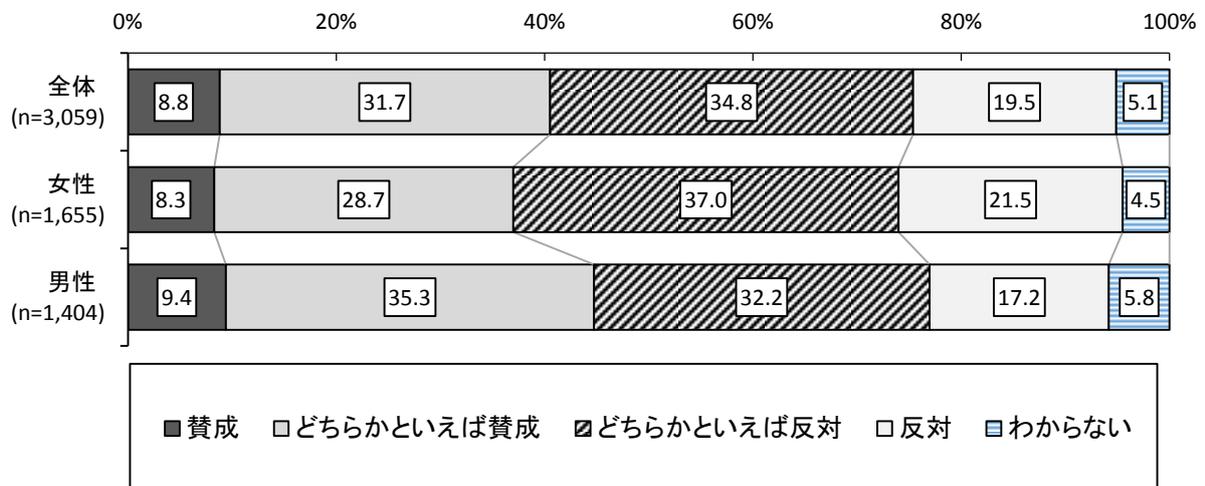
参考URL：<http://survey.gov-online.go.jp/h28/h28-danjo/index.html>

資料①『女性が働くことについて』(P.34参照)

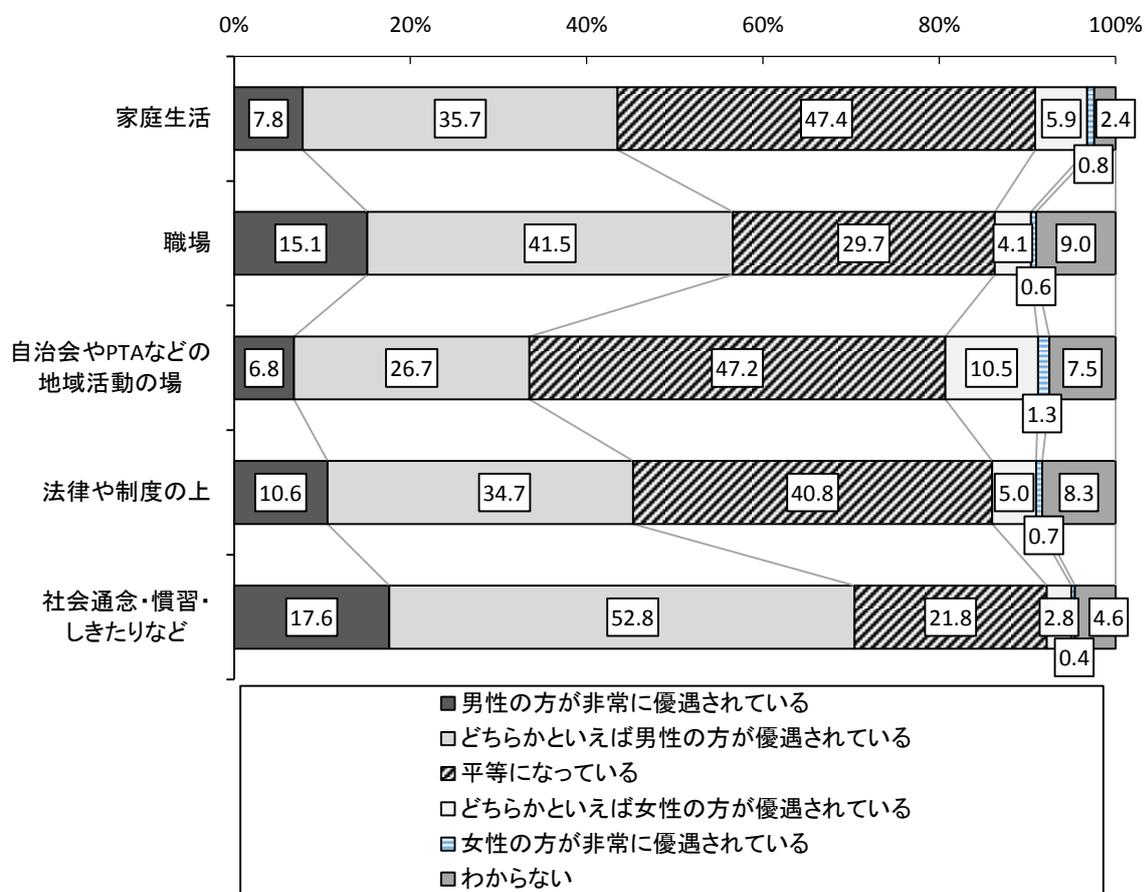


資料②『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきという考え(性別役割分担意識)』

(P.85参照)



資料③ 『各分野の男女の地位の平等感』 (P.79 参照)



VI. 調査票

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス） に関する意識調査

調査へのご協力をお願い

千葉市男女共同参画センターでは、男女共同参画社会の実現にむけて、さまざまな事業を展開しております。本調査は、千葉市にお住いの皆さまを対象に、仕事と生活の調和に関する意識について、お尋ねするものです。

今回、千葉市内にお住まいの満25歳以上45歳未満の男女各1,500名の方を無作為（ランダム）に抽出し、アンケート調査票を郵送させていただきました。

調査票及び集計結果は、すべて統計的に処理いたしますので、ご回答された方が特定されるようなことは一切ございません。

趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、本調査は、千葉市の委託を受け、千葉市男女共同参画センターが行うものです。これまでに当センターが行った調査結果の概略は、ホームページに掲載しています。

[ホームページ <http://www.chp.or.jp/danjo/research/research.html>]

◆ご記入にあたってのお願い◆

- 宛名にあるご本人様をご記入ください。
ご本人様が回答できない場合は、お手数ですが、白紙のままご返送ください。
- ご記入にあたっては、平成28年9月1日現在の状況でお答えください。
- ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○をつけてください。
質問によって、○が1つの場合と、複数の場合があります。
- 質問の番号や矢印（…………▶）指示にそって、ご記入ください。
- ご記入後、同封の返信用封筒に入れて 9月16日(金)までにポストにご投函ください。
差出人名、切手は不要です。

平成28年9月

ご不明な点や調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

《お問い合わせ先》

千葉市男女共同参画センター 調査担当

〒260-0844 千葉市中央区千葉寺町1208-2

千葉市ハーモニープラザ内

電話：043-209-8771

まず、あなたご自身のことについて、お伺いします

F1 あなたの性別について、あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 女性 (62.0%) | 2. 男性 (37.7%) |
|---------------|---------------|

F2 あなたの年齢(平成28年9月1日現在)について、あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 25歳～29歳 (16.6%) | 3. 35歳～39歳 (28.9%) |
| 2. 30歳～34歳 (21.2%) | 4. 40歳～44歳 (33.0%) |

F3 あなたの職業形態について、あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1. 自営業・家族従業員、自由業 (4.7%) | 5. 専業主婦・主夫 (13.7%) |
| 2. 正規の社(職)員 (53.8%) | 6. 学生 (0.4%) |
| 3. 契約社(職)員 (臨時・派遣を含む) (5.8%) | 7. 無職 (3.2%) |
| 4. パート、アルバイト、内職 (18.1%) | 8. その他 (0.3%) |

F3-1 < F3で1～4、8を選んだ方にお聞きします。 >

あなたが日頃、仕事に従事している時間は大体1日何時間ですか。残業時間(自宅での残業も含みます)も合わせて、あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 6時間未満 (12.9%) | 4. 10時間以上～12時間未満 (19.1%) |
| 2. 6時間以上～8時間未満 (20.9%) | 5. 12時間以上 (10.3%) |
| 3. 8時間以上～10時間未満 (36.4%) | |

F4 < すべての方にお聞きします。 >

あなたのご結婚されていますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1. 結婚している(事実婚を含む) (65.7%) | } → F6へお進みください |
| 2. 結婚していない (30.4%) | |
| 3. 結婚後、離別・死別 (3.8%) | |

F5へお進みください

▶F5 < F4で1を選んだ方にお聞きします。 >

あなたの配偶者・パートナーのご職業について、あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1. 自営業・家族従業員、自由業 (6.2%) | 5. 専業主婦・主夫 (12.3%) |
| 2. 正規の社(職)員 (63.8%) | 6. 学生 (0.0%) |
| 3. 契約社(職)員 (臨時・派遣を含む) (2.4%) | 7. 無職 (1.6%) |
| 4. パート、アルバイト、内職 (7.9%) | 8. その他 (0.0%) |

▶F5-1 < F5で1~4、8を選んだ方にお聞きします。 >

あなたの配偶者・パートナーが日頃、仕事に従事している時間は大体1日何時間ですか。残業時間(自宅での残業も含みます)も合わせて、あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 6時間未満 (7.5%) | 4. 10時間以上~12時間未満 (25.4%) |
| 2. 6時間以上~8時間未満 (13.6%) | 5. 12時間以上 (18.3%) |
| 3. 8時間以上~10時間未満 (34.3%) | |

F6 < すべての方にお聞きします。 >

あなたが現在同居している方はどなたですか。あてはまる番号にすべて〇をつけてください。

- | | | |
|----------------------|----------------|------------------|
| 1. 親 (23.3%) | 4. 祖父母 (2.2%) | 7. 同居人なし (11.3%) |
| 2. 配偶者・パートナー (61.6%) | 5. 兄弟姉妹 (7.2%) | |
| 3. 子 (56.4%) | 6. その他 (0.7%) | |

▶F6-1 < F6で3を選んだ方にお聞きします。 >

同居しているお子さんのうち、一番年少のお子さんの年代について、あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 就学前児 (62.1%) | 4. 中学生 (5.0%) |
| 2. 小学生低学年 (1~3年) (19.2%) | 5. 中学校卒業以上 (2.0%) |
| 3. 小学生高学年 (4~6年) (11.8%) | |

仕事と生活の調和について、お伺いします

問1 あなたは、以下の言葉を知っていますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない	言葉も内容も知らない
男女共同参画社会※1	(33.3%)	(32.7%)	(33.9%)
仕事と生活の調和※2 (ワーク・ライフ・バランス)	(36.9%)	(30.6%)	(32.4%)

※1 男女共同参画社会は、『すべての市民が、男女の別なく個人として尊重され、お互いに対等な立場であらゆる分野に参画する機会が確保され、責任を分かちあう』社会です。

(出典：千葉県男女共同参画ハーモニー条例前文)

※2 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会は、『国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会』です。

(出典：内閣府 ワーク・ライフ・バランス憲章)

問2 あなたは現在、「仕事」、「家庭」、「自分の時間」についてどう感じていますか。(A)～(C)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

	い満か る足な りし て	い満ま る足あ りし て	あ不や る満や で	あ不 る満 で
(A) 仕事	(8.4%)	(49.9%)	(22.6%)	(13.7%)
(B) 家庭	(23.1%)	(56.2%)	(14.3%)	(5.8%)
(C) 自分の時間	(12.6%)	(45.7%)	(26.5%)	(15.1%)

問3 女性が働く(仕事に就く)ことについて、あなたのお考えに近いものの番号に1つ○をつけてください。女性はご自分のこととして、男性は配偶者・パートナーのこと(いない場合は、一般的なお考え)をお答えください。

1. (子どもができて、) ずっと働き続ける方がよい (43.3%)
2. 子どもができたなら退職し、大きくなってから再び働く方がよい (37.0%)
3. 子どもができるまで働く方がよい (5.9%)
4. 結婚するまでは働く方がよい (2.9%)
5. 女性は働かない方がよい (1.3%)
6. その他 (8.9%)

問4 あなたは、これまで育児休業・介護休業を取得したことがありますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

	取得したことがある	取得したことがない
(A) 育児休業	(13.6%)	(84.8%)
(B) 介護休業	(0.7%)	(97.1%)

問5 男性が育児休業を取得することについて、あなたのお考えに近いものの番号に1つ〇をつけてください。

男性はご自分のことについて、女性は配偶者・パートナーのこと(いない場合は、一般的なお考え)についてお答えください。

1. 育児休業を取得する(取得してほしい) (16.9%)
2. 取得したいが、現実的には難しい(だろう) (60.5%)
3. 機会があっても取得するつもりはない(だろう) (11.7%)
4. 今後取得する機会がない (7.5%)
5. その他 (2.5%)

→**問6** <問5で2、3を選んだ方にお聞きします。>

その理由は何ですか。あてはまる番号にすべて〇をつけてください。

1. 男性は仕事を優先し、女性は子育てに専念すべき (8.6%)
2. 育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある (59.2%)
3. 職場に前例がない (45.5%)
4. 昇進・昇給に響くと思う (35.5%)
5. 収入が減少し、家計に影響する (57.5%)
6. 仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる (61.5%)
7. 取得後の仕事復帰が難しい (21.3%)
8. 妻・パートナーが主に子育てするので必要がない (8.6%)
9. 父母など協力をしてくれる人がいるので必要がない (3.3%)
10. 保育所などに子どもを預けるので必要がない (2.4%)
11. その他 (2.9%)

問7 <すべての方にお聞きします。>

あなたは、将来、親などの介護をすることに不安を感じますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

1. 非常に不安を感じる (28.3%)
2. 不安を感じる (32.6%)
3. 少し不安を感じる (27.3%)
4. 不安はない (3.7%)
5. わからない (7.1%)
6. 現在介護している (0.6%)

問8 現在、介護をしている場合、不安や困難を感じることは何ですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

※介護をしていない人は、そのような状況に直面したとして、お答えください。

1. これまでのように仕事ができなくなること (57.1%)
2. 金銭の負担が大きいこと (68.3%)
3. 身体的な負担が大きいこと (63.8%)
4. ストレスや精神的負担が大きいこと (74.6%)
5. 自分以外に介護する人がいないこと (19.3%)
6. 介護がいつまで続くのかわからないこと (55.8%)
7. 自分の時間がなくなること (47.1%)
8. 介護の情報が不足しており、介護の仕方がわからないこと (26.0%)
9. その他 (3.1%)
10. 特に不安や困難はないと思う (感じていない) (1.6%)

問9 あなたは、仕事と介護の両立について、どのようにお考えですか。最も近いものについて、あてはまる番号に1つ○をつけてください。今現在、仕事をされていない方も、仕事をしていると仮定して、回答してください。

※介護をしていない人は、そのような状況に直面したと想定して、お答えください。

1. できるだけ両立したい (53.0%)
2. 介護は配偶者・パートナー・親族・施設に任せて、仕事を続けたい (15.1%)
3. 仕事は続けたいが、介護をする状況になったら仕事を辞めるしかない (18.0%)
4. 仕事より介護を優先するので、仕事を辞める (2.6%)
5. 今後、介護が必要となる者がいない (0.4%)
6. わからない (10.8%)

仕事に就いている方
<F3で1～4、8を選んだ方>

↓
問10へ

仕事に就いていない方
<F3で5～7を選んだ方>

↓
問14へ

問10 <仕事に就いている (F3で1~4、8を選んだ) 方にお聞きします。>

あなたが仕事と介護の両立に直面した場合、職場では、どのような課題がありますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 経営者や管理職の理解が不十分である (19.7%)
2. 同じ職場の人の理解が不十分である (23.7%)
3. 介護のために休むなどすると、同じ職場の人の業務量が増えてしまう (63.8%)
4. 仕事の量が多く、労働時間が長いため、介護をする時間がない (32.2%)
5. 交代制勤務であり、労働時間に制限があるとシフトが組めない (14.4%)
6. 自分しかできない仕事があり、休業することなどができない (22.1%)
7. 法律や社内の制度が十分に周知されていない (14.1%)
8. 休業制度を活用すると、企業側の経済的負担が大きくなる (4.3%)
9. その他 (4.1%)
10. 特にない (9.0%)

問11 <仕事に就いている (F3で1~4、8を選んだ) 方にお聞きします。>

あなたは、企業・事業所における仕事と介護の両立支援として、どのようなことが重要とお考えですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。介護経験のない方は、そのような状況に直面した場合を想像してお答えください。

1. 制度を利用しやすい職場づくり (上司の理解や同僚の協力など) をすること
(67.5%)
2. 介護休業制度や勤務時間の柔軟化 (短時間勤務、フレックスタイム等) の制度を整えること
(63.3%)
3. 制度利用によって、昇進・昇格に影響することのない人事評価制度を整備すること
(37.7%)
4. 相談窓口や相談担当者を設けること (28.5%)
5. 介護に直面した従業員に、両立支援に関する情報提供を行うこと (37.7%)
6. 全従業員あるいは一定の年齢層以上の従業員に、情報提供 (各種制度の告知等) を行うこと (26.3%)
7. 従業員の介護に関する実態把握や両立支援のニーズ把握を行うこと (27.9%)
8. 介護の課題がある従業員に、経済的な支援 (介護サービス費用の助成など) を行うこと
(48.6%)
9. その他 (3.1%)
10. 特にない (2.3%)

問12 <仕事に就いている (F3で1~4、8を選んだ) 方にお聞きします。>

あなたは、今の仕事に対して意欲を持って積極的に取り組んでいますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

1. とてもそう思う (33.8%)
2. ややそう思う (46.1%)
3. あまりそう思わない (14.4%)
4. まったくそう思わない (3.6%)

問13 <仕事に就いている (F3で1~4、8を選んだ) 方にお聞きします。>

あなたの職場の現状についてお聞きします。次の(A)~(E)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んで〇をつけてください。

	とても そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	ま った く そ う 思 わ な い	わ か ら な い
(A) 職場のコミュニケーションが不足している	(8.5%)	(28.9%)	(43.0%)	(16.2%)	(1.6%)
(B) 残業が多い	(19.5%)	(24.5%)	(29.8%)	(23.6%)	(1.1%)
(C) 男性・女性が平等に昇進したり、責任ある仕事を任されている	(18.3%)	(36.9%)	(24.0%)	(10.7%)	(8.0%)
(D) 育児・介護休業や短時間勤務など、柔軟な働き方ができる制度が整備されている	(14.7%)	(36.1%)	(20.9%)	(17.8%)	(8.7%)
(E) 男性への育児・介護休暇取得促進を行っている	(2.5%)	(11.1%)	(22.0%)	(38.8%)	(23.4%)

⇒ 問16へお進みください

問14 <仕事に就いていない (F3で5～7を選んだ) 方にお聞きします。>

あなたが現在仕事に就いていない主な理由は何ですか。あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

1. 年齢・収入・勤務時間などが希望する求人条件とあわないから (24.6%)
2. 自分の希望する内容の仕事が見つからないから (13.8%)
3. 育児・子どもの教育のため (62.9%)
4. 介護・看護の必要な人がいるから (3.0%)
5. 家事との両立が難しいから (19.8%)
6. 家族の理解が得られないから (3.6%)
7. 配偶者・パートナーに転勤があるから (13.8%)
8. 健康に自信がないから (14.4%)
9. 仕事することに魅力を感じないから (3.0%)
10. 経済的に働く必要がないから (8.4%)
11. 学生だから (1.8%)
12. その他 (12.0%)

問15 <仕事に就いていない (F3で5～7を選んだ) 方にお聞きします。>

あなたは今後働きたいと思えますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. すぐに働きたい (19.8%)
2. 子育てや介護と両立できれば働きたい (19.2%)
3. (子どもがある程度大きくなったらなど) 時期が来たら働きたい (46.1%)
4. 働きたくない (4.2%)
5. その他 (3.6%)
6. わからない (3.0%)

問16 <すべての方にお聞きします。>

あなたの家庭では、次の(A)～(G)を主に誰が担当していますか。あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

	主に自分	自分と配偶者が パートナリーが 同じくらい	主に配偶者・ パートナリー	主に配偶者・ パートナリー 以外の家族	家族以外の 人に依頼	その他	必要ない・ しなくてよい
(A) 世帯の収入を得る	(36.2%)	(15.3%)	(33.0%)	(9.9%)	(0.4%)	(2.7%)	(1.2%)
(B) 食事の用意	(51.9%)	(7.5%)	(21.9%)	(13.7%)	(0.6%)	(2.3%)	(0.9%)
(C) 掃除・洗濯	(53.2%)	(11.7%)	(18.4%)	(13.0%)	(0.3%)	(2.0%)	(0.5%)
(D) 乳幼児の育児	(29.3%)	(5.1%)	(14.5%)	(0.9%)	(0.1%)	(1.8%)	(44.7%)
(E) 学校などの行事への参加	(29.7%)	(9.0%)	(11.4%)	(1.8%)	(0.1%)	(2.2%)	(42.0%)
(F) 高齢者などの介護	(5.3%)	(2.3%)	(1.1%)	(3.1%)	(0.7%)	(3.7%)	(79.6%)
(G) 町内自治会などの地域活動	(19.2%)	(8.5%)	(8.8%)	(11.0%)	(0.3%)	(4.9%)	(44.4%)

問17 あなたは現在、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(A)～(E)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
(A) 家庭生活で	(9.6%)	(31.4%)	(35.6%)	(7.7%)	(2.0%)	(12.5%)
(B) 職場で	(13.8%)	(38.7%)	(29.9%)	(4.8%)	(1.5%)	(10.3%)
(C) 地域社会で	(7.5%)	(31.5%)	(27.0%)	(7.4%)	(1.1%)	(24.3%)
(D) 法律や制度の上で	(9.0%)	(35.5%)	(24.4%)	(7.3%)	(2.2%)	(20.6%)
(E) 社会通念・慣習・しきたりなどで	(20.0%)	(48.8%)	(10.2%)	(4.4%)	(1.1%)	(14.2%)

問18 あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どのように思いますか。
あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 賛成 (6.2%)
2. どちらかといえば賛成 (32.5%)
3. どちらかといえば反対 (26.4%)
4. 反対 (18.6%)
5. わからない (15.8%)

問19 あなたは、仕事と生活の調和が実現できる社会をつくるためには、どのようなことが必要だ
と思いますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 家事・育児・介護を家庭で協力して担う (66.7%)
2. 男性自身が仕事中心の生き方、考え方（男性は仕事、女性は家事・育児など）に
とらわれないようにする (55.6%)
3. 保育施設や、保育サービスの充実 (64.3%)
4. 小学校の放課後児童を預かる子どもルーム等の充実 (49.6%)
5. 介護施設や、介護サービスの充実 (56.1%)
6. 長時間労働の削減など働き方改革と職場づくり (55.1%)
7. 短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実 (58.6%)
8. 仕事と生活の調和に対する経営者の意識改革 (46.5%)
9. その他 (4.8%)
10. 特になし (1.5%)

自由記入

仕事と生活の調和についてご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。お忙しい中、ご協力いただき誠にありがとうございました。

仕事と生活の調和に関する意識調査
調査結果報告書

○平成 29 年 3 月 発行
○発 行 千葉市市民局生活文化スポーツ部男女共同参画課
〒260-8722
千葉市中央区千葉港 1 番 1 号
電 話 043-245-5060

千葉市男女共同参画センター
(指定管理者) 公益財団法人千葉市文化振興財団
〒260-0844
千葉市中央区千葉寺町 1208 番地 2
電 話 043-209-8771